

2021年度
自己点検・評価報告書

目次

I. 大学運営	
・危機管理委員会	1
・大学評価委員会	3
II. 常置委員会	
・入学試験・広報委員会（入試）	5
・入学試験・広報委員会（広報）	7
・自己点検・評価委員会	10
・人権擁護委員会	12
・研究倫理委員会	28
・教務委員会	29
・学生委員会	39
・FD委員会	47
・キャリア開発委員会	64
・図書・紀要委員会	78
・国際交流委員会	90
・情報ネットワーク委員会	92
・地域連携委員会	96
・教職課程委員会	101
III. その他	
・看護学科実習運営部会	103
・栄養学科実習運営部会	109
・看護学科カリキュラム専門部会	111
・栄養学科カリキュラム専門部会	113
・看護学科学年担任（1年次）	115
・看護学科学年担任（2年次）	118
・看護学科学年担任（3年次）	122
・栄養学科学年担任（1年次）	124
・栄養学科学年担任（2年次）	125
・栄養学科学年担任（3年次）	127
・栄養学科学年担任（4年次）	128
・事務局	130
・連携協定推進プロジェクト	133
・ホームページ部会	141
・カリキュラム検討委員会	142
・公的研究費等不正防止委員会	144

2021 年度 委員会等活動報告書

委員会等	危機管理委員会
作成者	小林 清一

項 目	内 容
<p>【前年度】 次年度への 課題・改善方策 (Problem)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) 新型コロナウイルス感染症への対応を迅速かつ効率的に行うために、委員会の定例開催を継続するが、感染状況により開催間隔は柔軟に対応する。 2) 危機管理委員会からの危機管理レポートによる情報発信は継続とするが、これと併行して教授会での委員会報告も実施する。 3) 全学的な緊急課題については各組織との緊密な連携強化を図り、危機管理委員会での審議と確認を経て情報共有と対応の統一化を徹底する。 4) インフルエンザ予防接種の完全実施、冬期間での通学路の安全確保、備蓄物の補充と新規整備については継続的に実施する。また、新型コロナウイルスワクチンが供給可能となれば、接種を積極的に推進する。 5) 2018 年の北海道胆振東部地震を風化させないために、大地震対策及び危機管理マニュアルの見直しや新規追加などを検討してマニュアルを改訂する。

項 目	内 容
<p>今年度の活動計画 (目標・課題) (Plan)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) 新型コロナウイルス感染症への対応を迅速かつ効率的に行うために、委員会の定例開催を継続するが、感染状況により開催間隔は柔軟に対応する。 2) 危機管理委員会からの危機管理レポートによる情報発信は継続とするが、これと併行して教授会での委員会報告も実施する。 3) 全学的な緊急課題については各組織との緊密な連携強化を図り、危機管理委員会での審議と確認を経て情報共有と対応の統一化を徹底する。 4) インフルエンザ予防接種の完全実施、冬期間での通学路の安全確保、備蓄物の補充と新規整備については継続的に実施する。また、新型コロナウイルスワクチンが供給可能となれば、接種を積極的に推進する。 5) 2018 年の北海道胆振東部地震を風化させないために、大地震対策及び危機管理マニュアルの見直しや新規追加などを検討してマニュアルを改訂する。
<p>活 動 内 容 (Do)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) 新型コロナウイルス感染症（以下「感染症」）への対応として、委員会を毎週又は隔週にて定例開催すると共に、必要に応じて臨時で開催した（全 42 回開催）。 2) 全国並びに北海道（札幌市）の感染状況、危機管理委員会での審議状況や決定事項について、毎回危機管理レポートとして全教職員へ迅速に情報提供を行った（全 41 回）。また、危機管理レポートと併行して審議内容を定例教授会にて委員会報告を行った。また、学生への注意喚起、保護者への説明、感染者の発生状況等を委員会よりメール配信またはホームページ上にて公表した（全 27 件）。 3) 毎回の審議案件に「各委員会等からの確認事項について」を設け、各委員会、学科、事務課などからの「感染症」に関連する危機管理事項を委員会にて審議・確認した。 4) インフルエンザ予防接種を全学年において学内で実施した（実施率 87.5%）。冬期間における通学路の除排雪については、今年度も通学路の安全確保のために札幌市（東地区除雪センター）へ除排雪の依頼を 2 回行ったが、実施されたのは 1 回の除雪のみであった。大学がこれを補

	<p>完する形で大学周囲の除排雪を5回行った。備蓄物の補充については10年保存水、緊急用トイレ、レスキューシート、カセットボンベ他3点を購入して年度整備計画を実行した。</p> <p>新型コロナワクチンの大学拠点接種（職域接種）を外部団体のサポートの下に学内で2回（各1,000人）、本学のみで補充接種を2回実施した。</p> <p>5) 大地震及び感染症対策を含む危機管理マニュアルの改訂は今年度も実施できなかったが、危機管理マニュアルとは別に、「感染症」に特化した「新型コロナウイルス感染防止ガイドライン」を作成し Ver.1~3 まで2回の改訂を行って、学生及び教職員へ配付・周知すると共に、ホームページにて公表した。</p>
<p>活動内容の評価 (Check)</p>	<p>1) 危機管理委員会を定例開催して、感染状況に対応した「感染症」対策を迅速かつ適切に実施し、2021年度も学内でのクラスター発生を阻止できたことは大いに評価できる。</p> <p>2) 危機管理レポートという形式で全国及び北海道（札幌市）の最新感染状況について情報発信し、また、委員会での審議状況や決定事項を迅速に全教職員に周知できたことは高く評価できる。一方、必要に応じて感染防止について学生への注意喚起を実施したが、学内でのルール遵守への徹底方法については検討の余地があった。</p> <p>3) 各組織での「感染症」に関連する危機管理事項を危機管理委員会にて審議・確認できたことは、各組織活動を全学的な共通認識と統一した対応の下で実施できたことは評価できる。</p> <p>4) コロナ禍においてインフルエンザ予防接種を大学内で実施できたことは評価できるが、接種率が昨年度（95.8%）よりも大きく低下したのは残念である。この理由として、新型コロナワクチン接種との間隔が2週間未満のため接種できなかった学生が5.1%もいたこと、また、コロナ禍の前季にインフルエンザが殆ど流行しなかったことからワクチンを回避した学生が一定数いたと考えられる。</p> <p>公共交通機関が全面的にストップする程の記録的な大雪時における通学路の安全確保のために、市への除排雪要請回数を増やすと共に、本学と除排雪業者との契約内容（オプション追加等）を見直し、必要な除排雪が実施できる体制を構築すべきである。</p> <p>年次計画に沿った備蓄物の補充を実施できたことは評価できる。</p> <p>また、新型コロナワクチンの大学拠点接種を外部団体と共に全学体制で実施し、地域貢献の一助にもなったことは大いに評価できる。</p> <p>5) 感染拡大の大きな波が3回も発生して「感染症」対策が常に優先されたため、地震対策その他の危機管理マニュアル改訂に対する活動は今年度も実施できなかったのはマイナス評価である。</p> <p>「新型コロナウイルス感染防止ガイドライン」の作成と2回の改訂により、「感染症」対策の充実化が図られたことは評価できる。</p>
<p>次年度への課題・改善方策 (Action)</p>	<p>1) 新型コロナウイルス感染症への対応を迅速かつ効率的に行うために、感染状況に応じた機動性のある委員会開催を実施する。</p> <p>2) 危機管理委員会からの危機管理レポートによる情報発信と教授会における委員会報告も継続して実施する。学内での感染やクラスター発生の防止対策を徹底化するための方策を検討する。</p> <p>3) 全学的な緊急課題については各組織との緊密な連携強化を図り、各組織の活動については危機管理委員会での審議と確認を経て情報共有と対応の統一化を徹底する。</p> <p>4) インフルエンザ予防接種の完全実施、除排雪による冬期間での通学路の安全確保、備蓄物の補充と新規整備については継続的に実施する。</p> <p>また、新型コロナワクチンの職域接種を全学体制で積極的に推進する。</p> <p>5) 大地震や感染症対策を含めた危機管理マニュアルの見直しを実施すると共に、「新型コロナウイルス感染防止ガイドライン」の改訂も必要に応じて実施する。</p>

2021 年度 委員会等活動報告書

委員会等	大学評価委員会
作成者	小林 清一

項 目	内 容
<p>【前年度】 次年度への 課題・改善方策 (Problem)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) 看護学科のカリキュラム改正案及びそれに付随する事案について迅速に精査・評価するために大学評価委員会開催を定例化し、文部科学省への変更承認申請を遅くとも7月迄に行う。 2) 2018年度に実施した機関別認証評価での改善を要する点についての改善報告書を7月迄に日本高等教育評価機構へ提出する。 3) 次期機関別認証評価に向けた大学評価活動を具体的に計画する。 4) 本学志願者及び入学者の動向調査(IR)を実施する。

項 目	内 容
<p>今年度の活動計画 (目標・課題) (Plan)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) 看護学科のカリキュラム改正案及びそれに付随する事案について迅速に精査・評価するために大学評価委員会開催を定例化し、文部科学省への変更承認申請を遅くとも7月迄に行う。 2) 2018年度に実施した機関別認証評価での改善を要する点についての改善報告書を7月迄に日本高等教育評価機構へ提出する。 3) 次期機関別認証評価に向けた大学評価活動を具体的に計画する。 4) 本学志願者及び入学者の動向調査(IR)を実施する。 5) アセスメント・ポリシーを策定して教学マネジメントの確立を図る。
<p>活 動 内 容 (Do)</p>	<p>大学評価委員会を8回(4/21、5/13、6/10、7/8、7/29、9/9、持ち回り11/9、12/13)開催し、大学評価に関わる事項を審議した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) カリキュラム検討委員会より提示された看護学科の新カリキュラム関連事項(カリキュラムの特徴と新旧対比表、進級要件の変更、カリキュラム・ポリシー、カリキュラムとディプロマ・ポリシーの対応表等)について審議・了承した。また、看護学科のカリキュラム・ポリシーの表現に統一した栄養学科のカリキュラム・ポリシーの改正及び一部文言の追加についても審議した。 両学科に共通するアドミッション・ポリシーについては、入学試験・広報委員会より提案され、文言の一部修正にて了承した。 文部科学省より看護学科新カリキュラム申請書類について修正依頼があり、その修正回答について確認を行った(持ち回り)。 2) 日本高等教育評価機構の認証評価結果における改善を要する点(基準項目2-1、4-1、5-3、6-3から5項目)への改善報告書(案)を審議し、一部修正して了承された。7月に本学ホームページにて公表し、同機構へ改善報告書を提出した。 3) 次期機関別認証評価については2025年度受審、また、看護の分野別認証評価については2026年度受審を予定しているが、受審年度については再考の余地があり、認証評価に向けての具体的計画には至らなかった。 また、機関別認証評価の基礎資料となる、各委員会単位での2020年度自己点検・評価報告書と共に日本高等教育機構が定めた様式に基づくデータ集について自己点検・評価委員会より提示及び説明があり了承した。本報告書の冊子体配付、図書館での配架、ホームページでの公表については従前通りとした。 4) 過年度にわたる本学志願者及び入学者の動向調査(IR)の実施には至

	<p>らなかった。</p> <p>5) 機関レベル、教育課程レベル、授業科目レベルの3つのレベルにおいて、学生の入学時、在学時、卒業時の各段階を点検・評価するというアセスメント・ポリシーを策定した。</p>
活動内容の評価 (Check)	<p>1) 指定規則改正に伴う看護学科の新カリキュラムを大学評価委員会の審議を経てカリキュラム検討委員会へフィードバックされ、さらに教務委員会、運営会議、教授会での審議を重ねて文部科学省への指定申請を期限内に実施できたこと、また、文部科学省からの修正・疑義に対しても適切に回答し、年度内の承認を得たことは評価できる。</p> <p>2) 改善報告書を期限内に公表及び提出できたことは評価できる。但し、改善報告書の審査結果では、5項目中3項目については改善が認められたが、他の2項目（栄養学科の収容定員充足率、大学評価委員会における財務基盤や収支に関する検証不足）には更なる改善が必要とされた。</p> <p>3) 次期機関別認証評価への具体的スケジュール策定という目標を達成できなかったのはマイナス評価であるが、受審年度の最終決定は専門家（評価機構の役員経験者等）の意見を交えて慎重に行うこととした。</p> <p>4) 毎年度の入学試験結果は入学試験・広報委員会が評価し、次年度の入学試験概要の一部変更として反映されているが、過年度に亘る本学志願者及び入学者の動向調査（IR）は今年度も実施に至らなかった。その理由として、看護学科では入試区分の変更が続いたこと、栄養学科では新カリキュラム初年度で受験生へ更なる周知が必要であることから、動向調査への基礎資料を更に蓄積する必要があると考えられた。大学の運営方針に栄養学科新カリキュラムの完成年度（2024年度）に入学定員見直しが明記されたことにより、本学志願者及び入学者の動向調査（IR）の実施は2024年度に先送りした。</p> <p>5) アセスメント・ポリシーを策定して、各レベルにおける評価項目が具体化されたのは評価できる。</p>
次年度への 課題・改善方策 (Action)	<p>1) 次期機関別認証評価並びに看護分野別認証評価の受審年度を確定し、受審スケジュールと担当責任者を決定する。</p> <p>2) 自己点検・評価報告（委員会等活動報告書）の実施と併行して、認証評価基準項目に基づく自己点検評価の実施について検討する。</p> <p>3) 改善報告書等の審査結果を真摯に受け止め、更なる改善の必要性を指摘された項目について改善を図る。</p> <p>4) アセスメント・ポリシーに基づき、教学アセスメントを実施する。</p>

2021 年度 委員会等活動報告書

委員会等	入学試験・広報委員会 (入試)
作成者	荒川 義人

項 目	内 容
【前年度】 次年度への 課題・改善方策 (Problem)	1) 予定されている入試を滞りなく実施し、入学生の確保に努める。 2) 合否判定のためのデータを集積し、活用する。 3) 入学者確保につながる入試日程と選抜方法を検討する。 4) 継続的に、指定校の見直しを図る。 5) 新入学試験体制（一般選抜入学試験前期・看護学科総合型選抜）を滞りなく実施し、評価する。

項 目	内 容
今年度の活動計画 (目標・課題) (Plan)	1) 予定されている入試を滞りなく実施し、入学生の確保に努める。 2) 合否判断のためのデータを集積し、活用する。 3) 入学者確保につながる入試日程と選抜方法を検討する。 4) 継続的に、指定校の見直しを図る。 5) 新入学試験体制を滞りなく実施し、評価する。
活 動 内 容 (Do)	1) 入試の実施について Web 出願システムを安定運用し、入試業務も複数人でチェックし遺漏のないよう心がけた。 2) 合否判断のためのデータの集積、活用について 入学者の入試区分ごとの合格者数の推定に活用し、さらに学籍移動の変遷や入学者の出身校偏差値の推移の分析に活用した。 3) 入学者確保につながる入試日程と選抜方法の検討について 2021 年度はとくに看護学科と栄養学科の入試区分ごとの定員見直し、社会人入試の存廃について検討した。 今年度新たに一般前期で旭川会場を追加した。 4) 継続的な指定校の見直しについて 2021 年度はとくに看護学科の指定校について、入学実績をもとに見直した。 5) 新入学試験体制の滞りない実施、評価について 2021 年度はとくに新体制として看護学科の総合型選抜について事故なく実施するよう心がけた。新入学試験終了後、看護学科教員からヒアリングを行い、次年度につなげるよう検討することができた。
活動内容の評価 (Check)	1) 入試の実施について 事故なく入試を実施し、また、事務処理効率も上がり問題ミス等も軽減することができたことは評価できる。一方、試験場での問題修正の周知にやや時間を要した点は反省事項として挙げられたため、次の入試から直ちに対応した。 2) 合否判断のためのデータの集積、活用について データ分析により、合格者の入学歩留率の予測は有効であった。 一般前期試験において追加合格を出さずに手続き者を確保できたことは評価できる。 3) 入学者確保につながる入試日程と選抜方法を検討する。 看護学科と栄養学科の総合型選抜試験の実施をし、今年から実施の看護学科については募集定員 5 名に対し 49 名の志願者があった。入学者確保のための入試区分として一定の成果があったことは評価できる。 4) 継続的な指定校の見直しについて

	<p>とくに看護学科において今年度指定校の志願者が増加したことは、見直しの成果として評価できる。</p> <p>5) 新入学試験体制の滞りない実施、評価について 看護学科の総合型選抜について事故なく実施することができた。入試後、学科教員から意欲的な志願者が多く、良い入試制度と好評を得た。また、学科から募集定員増加の提案も出てくるなど、良い入試制度だと認められた点は大いに評価できる。</p>
<p>次年度への 課題・改善方策 (Action)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) 入試全体の円滑な実施に努める。 2) 入学者の確保のための方策を探る。 3) 看護学科で新たに導入した総合型選抜試験の効果的な運用、実施をする。 4) 指定校や入試区分の見直しなどを継続的に行う。

2021 年度 委員会等活動報告書

委員会等	入学試験・広報委員会 (広報)
作成者	荒川 義人

項 目	内 容
<p>【前年度】 次年度への 課題・改善方策 (Problem)</p>	<p>1) 各活動に関する次年度の課題・改善方策は以下のとおりである。</p> <p>(1) 高校訪問 指定校（青森を含む）・入学実績校を中心に 150 校程度と幅広く実施する。</p> <p>(2) 進学説明会 昨年同様、校内ガイダンスに主軸を置き、直接接する機会を確保してオープンキャンパスへの誘導を図る。また、可能な場合は教員にも担当してもらい、詳しい教育内容などを直接、伝える機会も増やしていく。</p> <p>(3) 出張講義・大学見学 今年度同様、依頼される日時と担当教員について、高校側と調整を図りながら実施し、看護・栄養への興味関心を高めてもらい、本学の受験に結びつくよう努める。また、昨年実施した北海学園札幌高校との企画を継続するとともに、本学に入学実績の多い私立高校にもこの企画を広め、安定的な志願者確保を図る。</p> <p>(4) オープンキャンパス 看護学科 7 回、栄養学科 7 回を予定。ボランティア学生の育成とシステム作りを行う。各学科のスケジュールの柔軟な対応により、魅力を PR できるようにする。その他 8 月に総合型選抜の志願者増を狙ったイベントを実施する。 内容、在学生スタッフとともに精度を高め、第一志願者率の向上を図る。</p> <p>(5) 大学案内作成 両学科合冊で作成。教職員からの意見も取り入れる。在学生をたくさん紹介できる内容にする。</p> <p>(6) メディアによる広報活動 インスタグラムの活用を推し進め本学のファンを獲得することに努める。</p> <p>2) 広報誌「WILL」第 9 号を発行する。</p>

項 目	内 容
<p>今年度の活動計画 (目標・課題) (Plan)</p>	<p>1) 以下の項目により募集活動を行う。</p> <p>(1) 及び (2) 高校訪問、進学相談会等の対面による企画により、募集活動の充実を図るとともに教職協働の体制を確立する。</p> <p>(3) 出張講義による教員の協力体制の整備を図る。</p> <p>(4) オープンキャンパスを効果的に実施する。</p> <p>(5) 及び (2) 大学案内、広報誌「WILL」の発行により、広く本学の教育内容、活動状況等の広報活動を行う。</p> <p>(6) Web の一層の充実を図り、内容も精査し充実させる。本学ホームページでの積極的な情報提供を行う。</p> <p>(7) 中・長期的展望に立った広告を行い、特に地方における本学の知名度を高める広報活動を行う。</p>
<p>活 動 内 容 (Do)</p>	<p>1) 次の募集活動を行った。</p> <p>(1) 及び (2) 高校訪問・進学相談会</p>

	<p>6月～8月に105校を訪問し、出願のお礼や、進路動向の情報を収集した。また、進路講話や出張講義の依頼を受けられるように活動内容を紹介した。</p> <p>また、進学相談会76会場、校内ガイダンス27校に参加した。</p> <p>上記のほか新型コロナウイルス感染症の影響で20会場程度中止となった。</p> <p>(3)出張講義・進路講話 18校から依頼があり、新型コロナウイルス感染症の影響もあったが14校の高校で実施できた。(内訳：看護10校、栄養4校)</p> <p>(4)オープンキャンパス 計6回実施した。新型コロナウイルス感染症対策により時短運営で行い。模擬演習、先輩トークなどは縮小しての開催とした。</p> <p>(5)本学の教育内容、活動状況等を広報するため広報誌「WILL」8号を作成した。大学案内については、内容を刷新し5月の完成を目指している。</p> <p>(6)Web等の一層の充実を図る中、Instagramを通して、在学生、卒業生、保護者、高校生と話題の共有を図った。また、ホームページの充実を図り、新型コロナウイルス感染症に関する情報提供、入試情報、学生の活動報告などの情報提供をした。</p> <p>(7)本学の知名度を高める広報活動 進学雑誌、進学WEBへの掲載に留まる。また、本学の地方での認知度を高めるため、試験会場である、函館、帯広等の地方において高校スクールバスにステッカー広告を掲載した。</p>
<p>活動内容の評価 (Check)</p>	<p>1) 各活動の評価は以下のとおりである。</p> <p>(1)及び(2) 高校訪問・進学相談会 コロナ禍ではあったが出願実績校・指定校を中心に105校に訪問できた。進路講話の依頼を数件も獲得できたことは評価できる。</p> <p>また、進学相談会、校内ガイダンスについては昨年より191名多く対面したことも評価できる。</p> <p>(3)出張講義・進路講話 保護者に対する進路講話や同一高校の複数学年での実施など、高校からの依頼が増えてきたことは評価出来る。</p> <p>(4)オープンキャンパス 今年度は看護もすべての日程で実施した。参加者は昨年よりも104名減少したが出願率は向上した点は評価できる。</p> <p>(5)広報誌等の印刷物の発行により、本学の教育内容、活動状況等を広報できた。</p> <p>大学案内については、在学生を多く掲載し大学のリアルを感じてもらえる内容に出来たと考える。</p> <p>(6)Webの一層の充実 Instagramに対して学生、卒業生、保護者が反応をしてくれ、楽しんでくれた。それを見ている高校生も反応やフォローをしてくれたことは評価できる。本学ホームページでは、新型コロナウイルス感染症関連や入試情報の掲載を円滑に行うことが出来た。</p> <p>(7)本学の知名度を高める広報活動 業者と媒体を絞ることで無駄を省くことができたと考える。また、本学の地方での認知度を高める広報としてのバス広告等は、地道な方法ではあるが、対面者の中には本学のことをバス広告で知ったという声もあるので一定の効果はあると考える。</p>
<p>次年度への課題・改善方策 (Action)</p>	<p>1) 進路講話、出張講義、進学相談会等の対面機会を得るための活動に注力する。</p> <p>2) オープンキャンパスに参加してくれた高校生を出願に導くため内容の工夫をする。</p> <p>3) 広報としての交通広告、新聞広告、進学雑誌掲載などの実施し、本学</p>

	の魅力をも十分伝えるための制作物等の内容の充実を図る。
--	-----------------------------

2021 年度 委員会等活動報告書

委員会等	自己点検・評価委員会
作成者	荒川 義人

項 目	内 容
【前年度】 次年度への 課題・改善方策 (Problem)	1) 教員教育研究等業績評価の実施において、退職者のフォローを十分に行い、実施率 100%を目指す。 2) 自己点検評価報告書の作成については、引き続き大学認証評価につながるようデータに基づいた内容となるように努める。

項 目	内 容
今年度の活動計画 (目標・課題) (Plan)	1) 教員教育研究等業績評価票のデータ収集、管理及び評価項目・配点表の見直しを行う。 2) 自己点検・評価報告書(委員会等活動報告書)及びデータ集の作成、公開を行う。 3) 2021 年 4 月 1 日現在の教員研究業績調書のデータ集約及び管理(ホームページ公開用)を行う。
活 動 内 容 (Do)	1) 教員教育研究等業績評価の実施 2020 年度分は、在籍専任教員 54 名のうち休職者 1 名を除く 53 名を対象に実施、対象者全員から評価票を回収した(実施率及び回収率とも 100%)。結果の通知については、学科別、職位別、大評価項目別等の平均点を共有フォルダに公開し、順位は希望者のみに通知した。 2021 年度分については、昨年度の調査実施時に出された評価項目に対する意見を元に委員会において見直しを行い、評価項目・配点表案を作成、これを全教員に提示、意見聴取したうえで「2021 年度 教員教育研究等業績評価 項目配点表」を確定した。調査は、2021 年度在籍教員(53 名)のうち、依頼日(2022 年 2 月 1 日)以前の退職者 3 名及び休職者 1 名を除く 49 名を対象に依頼、3 月 22 日提出締切りとして実施した。 2) 自己点検・評価報告書(委員会等活動報告書)の作成 2020 年度自己点検・評価報告書の作成について、各委員会等から提出された委員会等活動報告書の内容に対しコメント担当者(自己点検・評価委員)が評価コメントを付した。評価コメントを付された各委員会等はコメントにもとづき報告書の修正を行い再提出、自己点検・評価委員会は再提出された報告書について修正内容の確認を行った。このような行程を経て報告書を作成、同時に事務局の各部署に依頼したデータ集の取りまとめを行い「2020 年度 自己点検・評価報告書」を完成させた。報告書は、大学評価委員会、運営会議及び教授会に提出後、例年どおり 6 月末に本学ホームページ上で公開するとともに、冊子体を図書館に配架し、全教職員に配布した。 2021 年度自己点検・評価報告書については、作成スケジュールを策定、依頼先及びコメント担当者の決定、依頼文書、入力フォーム、評価の視点(コメント担当者用)の見直しを行った。特に作成については、報告書は 5 ページまでとし、報告内容によっては数値を具体的に記載、評価することとした。また、学年担任の「次年度への課題・改善方策」は、当該学年にとって必要な事項を申し送る内容とすることを留意事項に追加した。入力フォームでは、昨年度の報告書を取りまとめる際に修正することが多かった「【前年度】次年度への課題・改善方策」の項目について、入力済みのフォームを作成し依頼することとした。2022 年 2 月

	<p>1 日、依頼先となる各委員会等の長に作成依頼、あわせて事務局の各部署にデータ集作成のため基礎データ（教職員数、学生数、入学者数等）の提出を依頼した。</p> <p>3) 2021 年 4 月 1 日現在の教員研究業績調書のデータ集約については、実施率 100%を達成し、大学ホームページで公開している。</p>
活動内容の評価 (Check)	<p>1) 教員教育研究等業績評価については、実施率及び回収率とも 100%を達成できたことは評価できる。</p> <p>2) 自己点検・評価報告書（委員会等活動報告書）の作成について、2020 年度分はスケジュールどおりに作成し、大学機関別認証評価の「基準 6 内部質保証」の一資料として公開できたことは評価できる。また、2021 年度分の作成について、依頼文書や入力フォームを報告書作成者に分かりやすく改善したことは評価できる。</p> <p>3) 2021 年 4 月 1 日現在の教員研究業績調書のデータ集約について、実施率 100%を達成し、大学ホームページで公開できたことは評価できる。</p>
次年度への 課題・改善方策 (Action)	<p>1) 教員教育研究等業績評価票の検討を行いつつ、評価の実施について、引き続き退職者のフォローを十分に行い、実施率 100%を目指す。</p> <p>2) 自己点検・評価報告書の作成について、引き続き大学認証評価につながるようデータに基づいた内容となるよう努める。</p> <p>3) 教員研究業績調書について、引き続きデータ集約及び管理（ホームページ公開用）を行う。</p>

2021 年度 委員会等活動報告書

委員会等	人権擁護委員会
作成者	坂本 恵

項 目	内 容
<p>【前年度】 次年度への 課題・改善方策 (Problem)</p>	<p>1) ハラスメント事案への対応 (1) ハラスメント申立てが発生した場合は、規程規則に従った対応を適切にする。 (2) 制度の整備、必要に応じた規程の修正を検討する。 (3) ハラスメント調査により実態を把握するとともに改善策を検討する。 (4) 個々の担当者の能力向上に向けて研修会への参加を検討する。</p> <p>2) ハラスメントを防止するための活動 (1) 学生に対するハラスメント啓発活動を検討し実施する。 (2) 教職員に対するハラスメント啓発活動を検討し実施する。 (3) ハラスメント防止キャンペーンを継続する。 (4) ハラスメント相談員へ安心して相談できる体制を検討する。 (5) 目安箱の活用と相談の勧めなどにより、ハラスメントの早期把握と解決の活動に繋げる。 (6) 人権擁護委員会の活動について周知する。相談されれば、相談者の立場になって解決に向けて動くことをしっかりと示していく。</p>

項 目	内 容
<p>今年度の活動計画 (目標・課題) (Plan)</p>	<p>1) ハラスメント事案への対応 (1) ハラスメント申立てに基づく案件に適切に対応する。 (2) 必要に応じて規程の修正を行い制度の整備に努める。 (3) ハラスメント調査により実態を把握するとともに改善策を検討する。 (4) 個々の担当者の能力向上に向けて研修会への参加を促す。</p> <p>2) ハラスメントを防止するための活動 (1) 学生に対する啓発活動 ① ハラスメントガイドラインを新入生、編入生に配布する。 ② 新入生・編入生に対するハラスメント防止の教育活動として外部講師などによる講演会を実施する。 ③ ガイダンスを通じてハラスメント防止に向けての啓発活動を行う。</p> <p>(2) 教職員に対する啓発活動 ① ハラスメントガイドラインを新任教職員、非常勤講師及び非常勤指導員に配布する。 ② 教職員への外部講師などによる研修会を実施する。 (3) ハラスメント防止キャンペーンを継続して行う。 (4) ハラスメント相談員へ安心して相談できる体制にするため、大学側にハラスメント相談員の選任（追加）について検討を依頼する。 (5) 目安箱の活用とハラスメント相談の勧めなどを行い、ハラスメントの早期把握と解決に向けた活動に繋げる。 (6) 人権擁護委員会の活動について周知し、相談者の立場になって解決に向けて動くことをしっかりと示していく。</p>
<p>活 動 内 容 (Do)</p>	<p>1) ハラスメント事案への対応 (1) 今年度ハラスメント申立てはなかったが、ハラスメントの相談件数は2022年3月11日時点で1件あり、次年度への継続案件である。目安箱への投書はなかった。</p>

	<p>(2)本年度は規程の修正、制度の整備などの必要はなかった。</p> <p>(3)学生及び教職員を対象としたハラスメントに関する調査を2021年9月30日(木)～11月22日(月)に実施した。回収率向上のため、各学年ガイダンスで委員がアンケートについて説明し、メール・チャットなどでも繰り返し、周知を行い、回答率は昨年と比べ学生が45.4%から53.0%、教職員が55.6%から77.6%に上昇した。また、アンケート内容に、メール・SNSでのハラスメント状況について追加した。</p> <p>調査結果を委員会に諮り、今後の改善策を検討した。また、自由記載の中に具体的な個人を対象とする部分があったため、前例に従い、委員会で取り扱いを確認し、迅速な対応が必要との委員会判断から該当者に内容を伝達することとし、実行した。</p> <p>調査内容については、調査結果報告書を作成し、学生・教職員が自由に閲覧できるよう図書館で公開した。</p> <p>(4)コロナ禍もあり研修会への参加はできなかつたため、昨年度に引き続き個々の担当者が自己研鑽に努めることとした。</p> <p>2) ハラスメントを防止するための活動</p> <p>(1) 学生に対する啓発活動</p> <p>①4月に行われた新入生、編入生対象のガイダンス時にハラスメントガイドラインを配布し説明を行った。</p> <p>②2021年4月9日(金)にハラスメント防止の教育活動として「充実した学生生活を送るためには」をテーマに、屋嘉比瑞穂先生を講師として新入生・編入生に対する講演会を実施した。学生の98.2%が参加し、参加者の93.5%がアンケートに回答した。</p> <p>③新型コロナウイルス感染症の影響で在学生に対するガイダンス時間が短縮されたため、前期は目安箱の利用と相談員についての配布資料を作成し全学年に配布した。後期はガイダンス時に委員から全学年に対してハラスメントアンケートについての説明と協力を依頼した。結果については報告し意識づけを行った。</p> <p>(2)教職員に対する啓発活動</p> <p>①ハラスメントガイドラインを新任教職員に対してレターボックスを利用して配布し、非常勤講師及び非常勤指導員に対しては非常勤講師室及び非常勤指導員控室に置くことを継続して行った。</p> <p>②2022年2月18日(金)に、ハラスメント防止の啓発活動として「ハラスメントをうまない職場風土を築くために」をテーマに、屋嘉比瑞穂先生を講師として教職員に対する研修会をオンラインで実施した。教職員の64.5%が参加し、参加者の100%がアンケートに回答した。当日視聴できない教職員に対し3月1日(火)までストリームで配信した。</p> <p>(3)ハラスメント防止キャンペーンとして、ハラスメント相談やハラスメント防止を呼びかけるステッカーを作成している。ステッカーは目につきやすいトイレや演習室のドアに今年度も継続して掲示した。</p> <p>(4)大学側に教職員を対象としたハラスメント相談員の選任(追加)を依頼していたが、2021年10月1日から、学生相談室の臨床心理士屋嘉比瑞穂氏が就任することとなった。</p> <p>(5)目安箱の活用を促すために設置場所と利用について配布資料を作成し学生・教職員に周知した。</p> <p>(6)学生、教職員を対象としたハラスメント防止講演会などで人権擁護委員会の活動内容や、相談員、目安箱について説明を行った。</p>
<p>活動内容の評価 (Check)</p>	<p>1) ハラスメント事案への対応</p> <p>(1)ハラスメントの相談件数は1件あり、当該相談について、相談員は迅速に対応できたが、引き続き次年度以降も対応する必要がある。目安箱への投書はなかったが、引き続き周知していく必要がある。</p> <p>(2)本年度は規程の修正、制度の整備などの必要はなかった。</p>

(3)ハラスメントに関する調査の回答率は、調査の周知を繰り返し行ったことによって、回答率が上昇した。調査の集計結果から、ハラスメントが「自分自身にあった」と回答した者は、各ハラスメント内容項目で0~23名となっており例年同程度であった。また、実際にどのようなハラスメントを受けたのかについての記載では、あいさつを無視されるといった内容から、講義での学生への対応、教員間の業務についてハラスメントと考えられる行為の具体的記述があり、深刻な状況がうかがわれた。無記名の調査であり、記載されているハラスメントについては委員会として具体的な対応は難しいため、今後はさらにハラスメント対応ルートや相談員、相談が相談者への不利益にはつながらないことなどを周知徹底する必要がある。また、今後も改善を要望する対象者名の記載があった場合には、対象者に記述内容を伝え注意喚起を行う。さらに本調査は目安箱への投書、ハラスメント相談件数が少ない中で、大学の現状を把握するために重要な調査となっている。今後も継続し、調査結果を公表するとともに、結果をふまえたハラスメント講演会・研修会を実施したい。

今年度初めて確認したメール・SNSでのハラスメントについて、自身にあると回答した者は各項目1~2名だった。今後も調査項目とし、実態把握を行う。

(4)コロナ禍もあり研修会への参加はできなかったが、来年度は研修会への参加を促したい。

2) ハラスメントを防止するための活動

(1) 学生に対する啓発活動

①4月に行われた新入生、編入生対象のガイダンス時にハラスメントガイドラインの配布と説明を行うことができた。来年度以降も継続して行う必要がある。

②新入生・編入生に対する講演会には98.2%の学生が出席した。欠席した学生は体調不良のためであり、後日、講演資料の配布を行った。

講演会で実施したアンケートは参加者の93.5%から回収され、自由記述には「ハラスメントの定義や種類を知ることができた」「困った時には相談することの大切さや大学に相談する場所があることを知ることができた」「ハラスメントのない大学にするためには相手の立場に立ち相手の事を思いやることが大切」などの記載があったことから、来年度も講演会の開催を継続したい。

③新型コロナウイルス感染症の影響で在学生に対するガイダンス時間が短縮されたため、前期は目安箱の利用と相談員について配布資料を作成し配布した。後期はハラスメントアンケートの協力について委員が直接説明し調査依頼を行うことができた。今後も様々な機会を捉え啓発活動を行っていく必要がある。

(2) 教職員に対する啓発活動

①ハラスメントガイドラインを新任教職員に対してはレターボックスを利用して配布し、非常勤講師及び非常勤指導員に対しては非常勤講師室に置くこととし、次年度も継続することが重要である。

②教職員に対する研修会はオンラインで行い64.5%の教職員が出席した。当日視聴できなかった教職員に対してはストリームでの配信によりフォローアップすることができた。研修会で実施したアンケートは参加者の100%から回収され、研修会を通して何らかの気づきがあったとの回答は96%であった。気づきの内容としては「あらためて学生との接し方を考えることができた」「自分の行動を振り返り、自分にできることを考える機会になった」「自分の事として向き合うことの大切さがわかった」などの記載があったことから、来年度も研修会の開催を継続したい。また、研修会の欠席者に対するストリームでの配信は継続していきたい。

(3)ハラスメント防止キャンペーンとして、これまでハラスメント相談

	<p>の周知やハラスメント防止の意識づけを目的にステッカーを作成している。ステッカーは目につきやすいトイレや演習室のドアに貼っており今年度も継続して行なった。人権擁護委員会について周知する手段の一つになっているため次年度も継続し行うこととする。</p> <p>(4) 大学側に教職員を対象としたハラスメント相談員の選任（追加）を依頼し、2021年10月1日より、学生相談室の臨床心理士 屋嘉比瑞穂氏が就任したことを、さらに周知していく必要がある。</p> <p>(5) 目安箱の活用を促すために設置場所と利用について配布資料を作成し学生・教職員に周知した。今年度利用はなかったが、次年度も目安箱の活用を促していく必要がある。</p> <p>(6) 学生、教職員を対象としたハラスメント防止講演会などで人権擁護委員会の活動内容や、相談員、目安箱について説明を行った。 ハラスメントアンケートによる相談員の認知度は昨年の 33.6%から 60.7%に増加したが、利用者は少ないためハラスメント相談員について周知していくことが今後の課題である。</p>
<p>次年度への課題・改善方策 (Action)</p>	<p>1) ハラスメント事案への対応</p> <p>(1) ハラスメント申立てが発生した場合は、規程規則に従った対応を適切にする。</p> <p>(2) ハラスメント調査により実態を把握するとともに改善策を検討する。</p> <p>(3) 個々のハラスメント相談員の能力向上に向けて研修会への参加を検討する。</p> <p>2) ハラスメントを防止するための活動</p> <p>(1) 学生に対するハラスメント防止啓発活動を検討し実施する。</p> <p>(2) 教職員に対するハラスメント防止啓発活動を検討し実施する。</p> <p>(3) ハラスメント防止キャンペーンを継続する。</p> <p>(4) ハラスメント相談員へ安心して相談できる体制を検討する。</p> <p>(5) 目安箱の活用とハラスメント相談の勧めなどにより、ハラスメントの早期把握と解決の活動に繋げる。</p> <p>(6) 人権擁護委員会の活動について周知する。相談があれば、相談者の立場になって解決に向けて動くことをしっかりと示していく。</p>

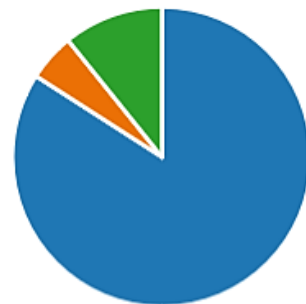
2021年度 ハラスメントに関するアンケート調査結果

1. 実施期間 2021年9月30日～11月22日
2. 調査対象 本学全学生および全教職員
3. アンケート回答状況

	対象者数	回答数	回答率
学生	587	311	53.0%
事務職員	24	19	79.2%
教員	52	40	77.0%

4. 所属

● 学生	311
● 事務職員	19
● 教員	40



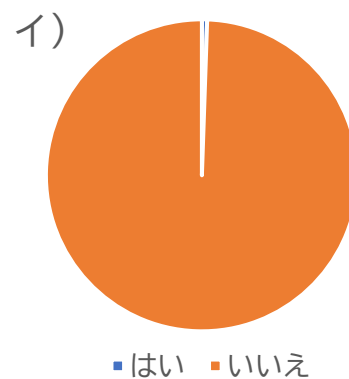
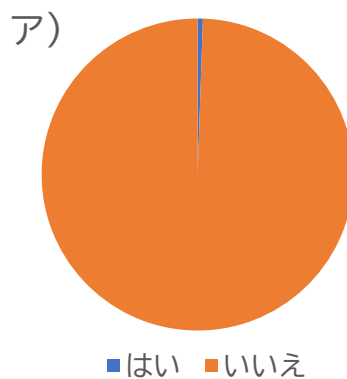
5. 性別

● 男性	53
● 女性	316



6. 身体を小突かれたり、ものを投げられたりした

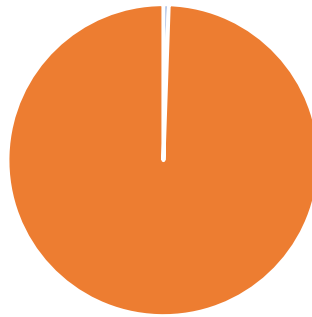
ア) 自分自身にある	はい	2
	いいえ	368
イ) 見聞きしたことがある	はい	2
	いいえ	368



7. 学業・教育・研究・業務とは関係ないと思われる私的な用件で呼び出された

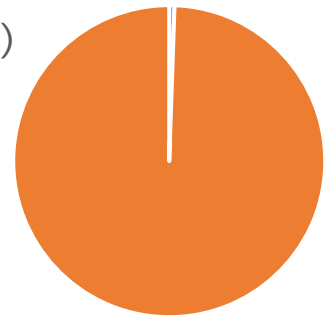
ア) 自分自身にある	はい	2
	いいえ	368
イ) 見聞きしたことがある	はい	4
	いいえ	366

ア)



■はい ■いいえ

イ)

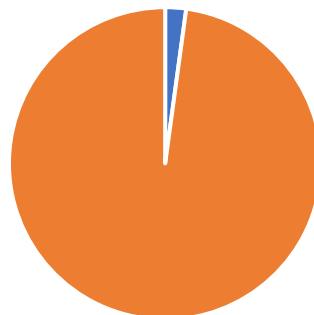


■はい ■いいえ

8. 容姿・年齢・交友関係・私生活等に関して、執拗に聞かれたり話題にされたりした

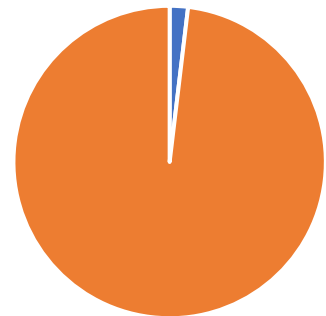
ア) 自分自身にある	はい	8
	いいえ	362
イ) 見聞きしたことがある	はい	7
	いいえ	363

ア)



■はい ■いいえ

イ)

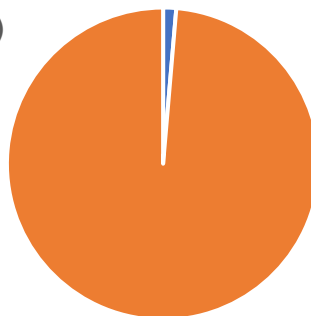


■はい ■いいえ

9. 非常識な時間に業務や課題を命じられたり呼び出されたりした

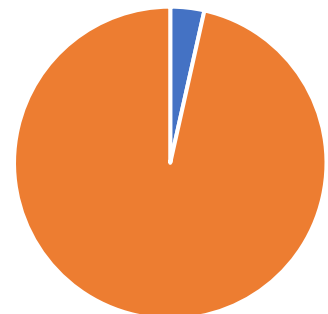
ア) 自分自身にある	はい	5
	いいえ	365
イ) 見聞きしたことがある	はい	13
	いいえ	357

ア)



■はい ■いいえ

イ)

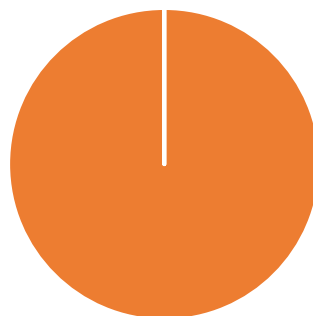


■はい ■いいえ

10. 飲み会などへの参加を強いられた

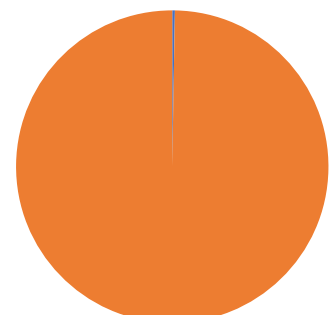
ア) 自分自身にある	はい	0
	いいえ	370
イ) 見聞きしたことがある	はい	1
	いいえ	369

ア)



■はい ■いいえ

イ)



■はい ■いいえ

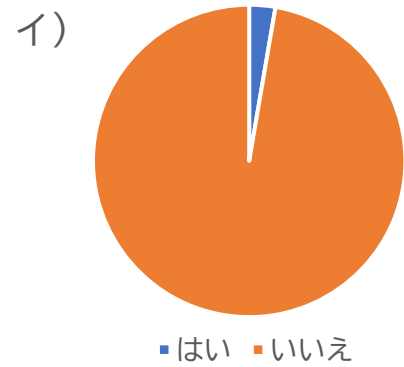
11. 学業・教育・研究・業務において重要なことを意図的に知らされないことがあった

ア) 自分自身にある	はい	10
	いいえ	360
イ) 見聞きしたことがある	はい	8
	いいえ	362



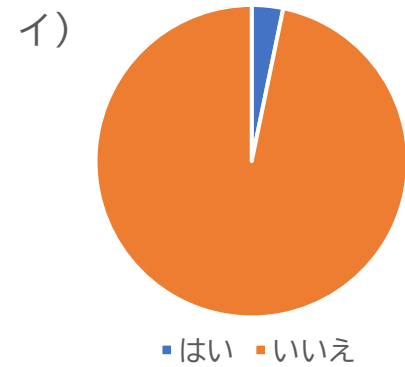
12. 学業・教育・研究・業務において、一方的に理不尽な指示や課題を与えられた

ア) 自分自身にある	はい	9
	いいえ	361
イ) 見聞きしたことがある	はい	10
	いいえ	360



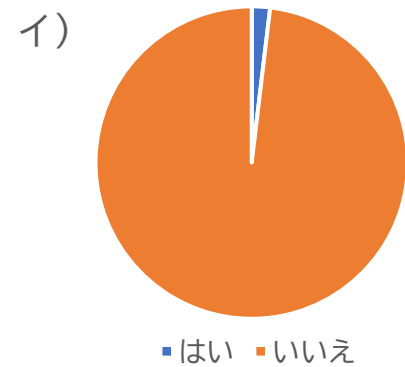
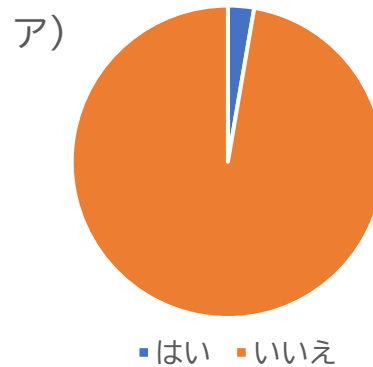
13. 学業・教育・研究・業務において、客観的で公平な評価をされなかった

ア) 自分自身にある	はい	12
	いいえ	358
イ) 見聞きしたことがある	はい	12
	いいえ	358



14. 学業・教育・研究・業務を妨害するような言動を受けた

ア) 自分自身にある	はい	10
	いいえ	360
イ) 見聞きしたことがある	はい	7
	いいえ	363



15. 自分の今後のキャリアの方向性を妨害されるような言動を受けた

ア) 自分自身にある	はい	9
	いいえ	361
イ) 見聞きしたことがある	はい	7
	いいえ	363



16. 他の学生や同僚に比べて、十分な指導をしてもらえなかった

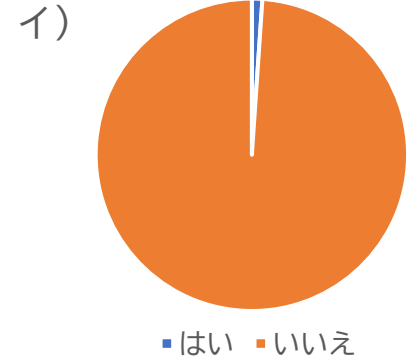
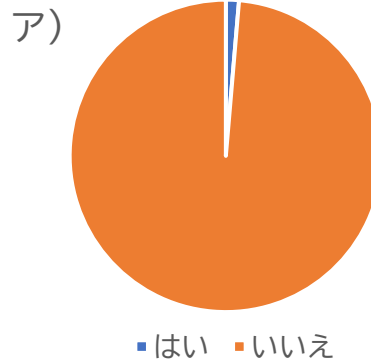
ア) 自分自身にある	はい	13
	いいえ	357
イ) 見聞きしたことがある	はい	13
	いいえ	355



※回答数が異なっているため、割合が異なる。

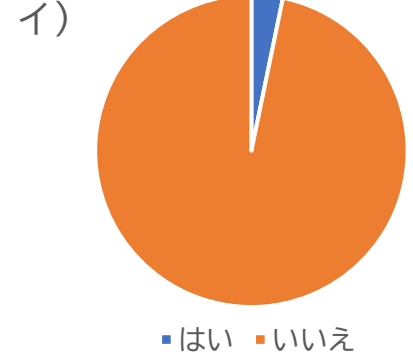
17. 進学や就職、転職に関して、不当な扱いを受けた

ア) 自分自身にある	はい	5
	いいえ	365
イ) 見聞きしたことがある	はい	4
	いいえ	366



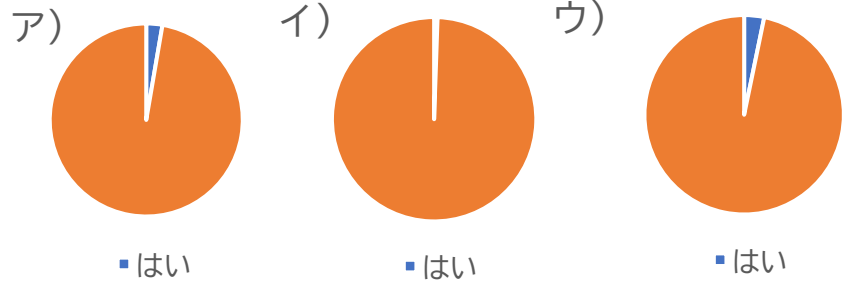
18. 要望や提案に対して理由も言わずに却下された

ア) 自分自身にある	はい	9
	いいえ	361
イ) 見聞きしたことがある	はい	12
	いいえ	358



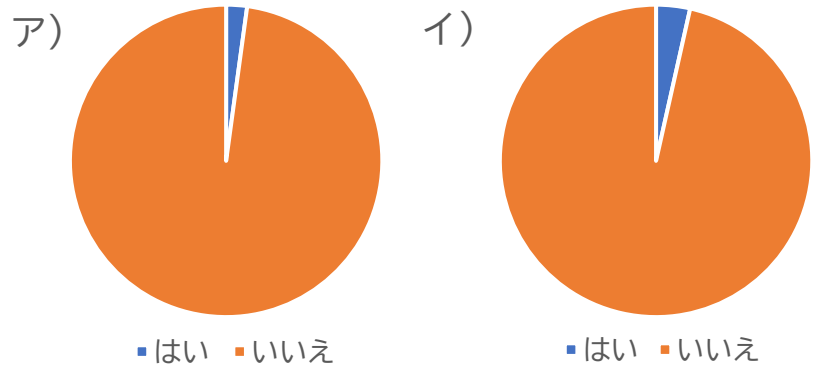
19. 人格否定や差別的な言動を受けた

ア) 自分自身にある	はい	10
	いいえ	360
イ) メールやSNSで自分自身にある	はい	2
	いいえ	368
ウ) 見聞きしたことがある	はい	12
	いいえ	358



20. 人前で激しく叱責された

ア) 自分自身にある	はい	8
	いいえ	362
イ) 見聞きしたことがある	はい	13
	いいえ	357



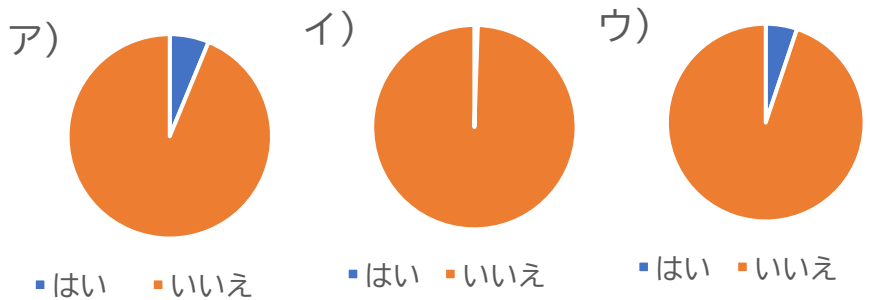
21. 性格や容貌などをからかわれたり非難された

ア) 自分自身にある	はい	5
	いいえ	365
イ) メールやSNSで自分自身にある	はい	1
	いいえ	369
ウ) 見聞きしたことがある	はい	9
	いいえ	361



22. 挨拶や話しかけを無視された

ア) 自分自身にある	はい	23
	いいえ	347
イ) メールやSNSで自分自身にある	はい	2
	いいえ	368
ウ) 見聞きしたことがある	はい	19
	いいえ	351



23. 悪質な悪口や陰口を言われた

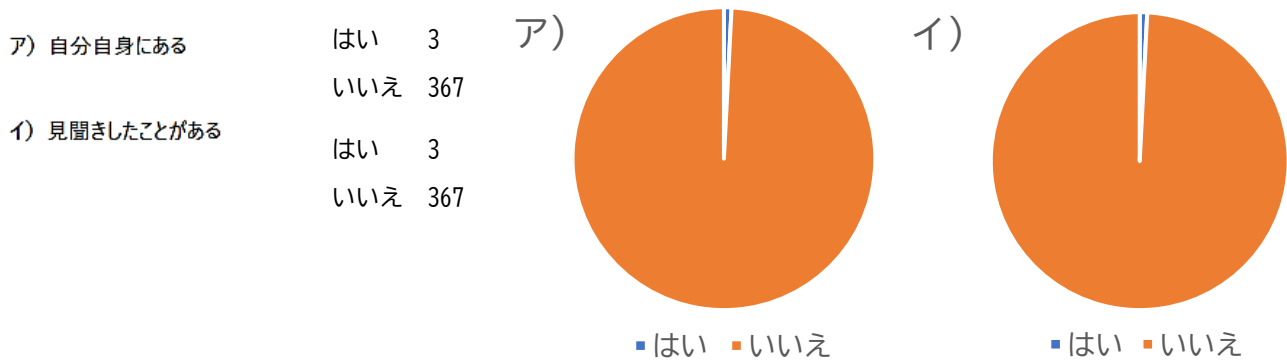
ア) 自分自身にある	はい	4
	いいえ	366
イ) メールやSNSで自分自身にある	はい	0
	いいえ	370
ウ) 見聞きしたことがある	はい	15
	いいえ	355



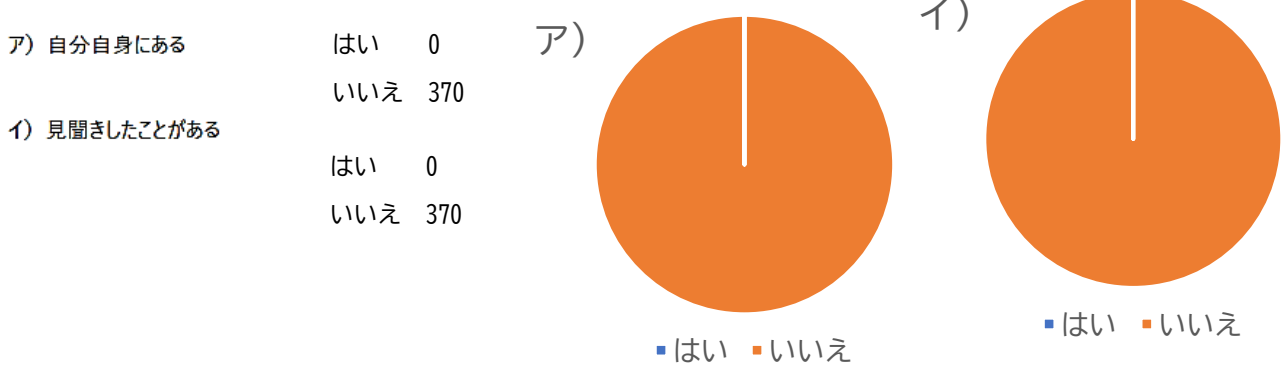
24. 事実無根の噂を流された



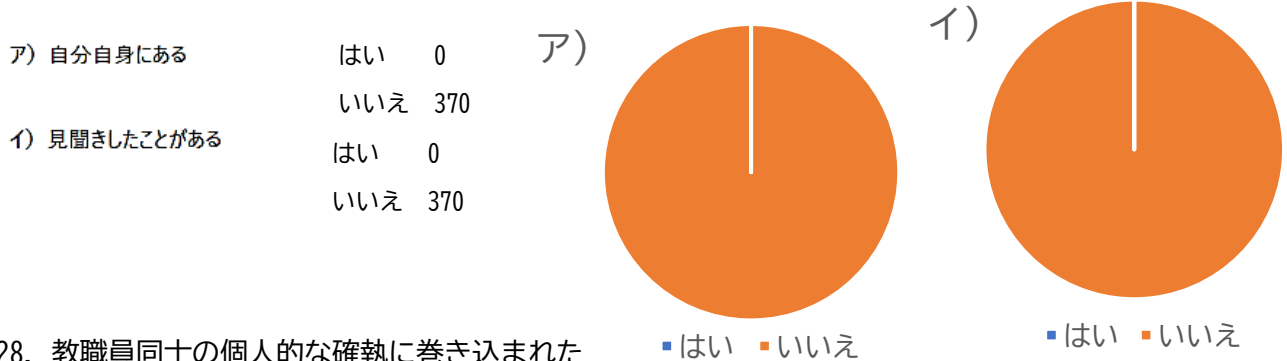
25. 性的な会話を聞かされたり、性的な絵や写真を目に入るような場所に置かれたりした



26. 執拗に身体を触られた（髪や身体を触られ不快に感じた）



27. 地位・立場を利用して、交際や性的関係を求められた



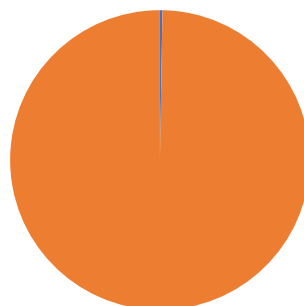
28. 教職員同士の個人的な確執に巻き込まれた



29. 休暇取得を拒否されたり、残業・休日出勤を強制された（教職員のみ回答）

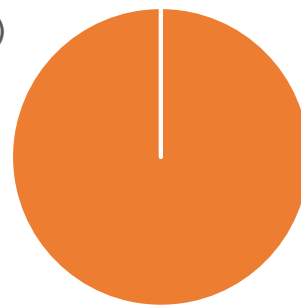
ア) 自分自身にある	はい	1
	いいえ	369
イ) 見聞きしたことがある	はい	0
	いいえ	370

ア)



■はい ■いいえ

イ)

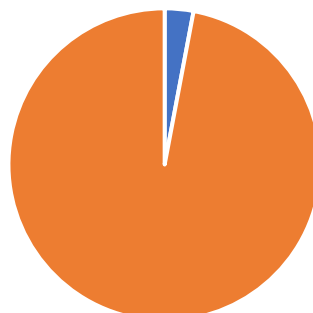


■はい ■いいえ

30. その他、ハラスメントと思われる行為を受けた

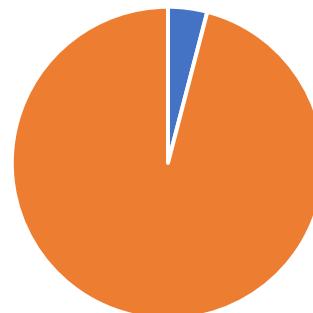
ア) 自分自身にある	はい	11
	いいえ	359
イ) 見聞きしたことがある	はい	15
	いいえ	355

ア)



■はい ■いいえ

イ)



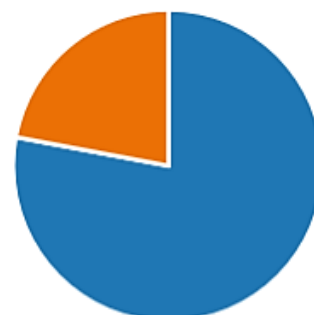
■はい ■いいえ

31. 6～30の項目で「ある」と答えた人の内容（自由記述）

【省略】

32. ハラスメントを受けた時、どこに相談したらよいか知っていますか。

● 知っている	265
● 知らない	75



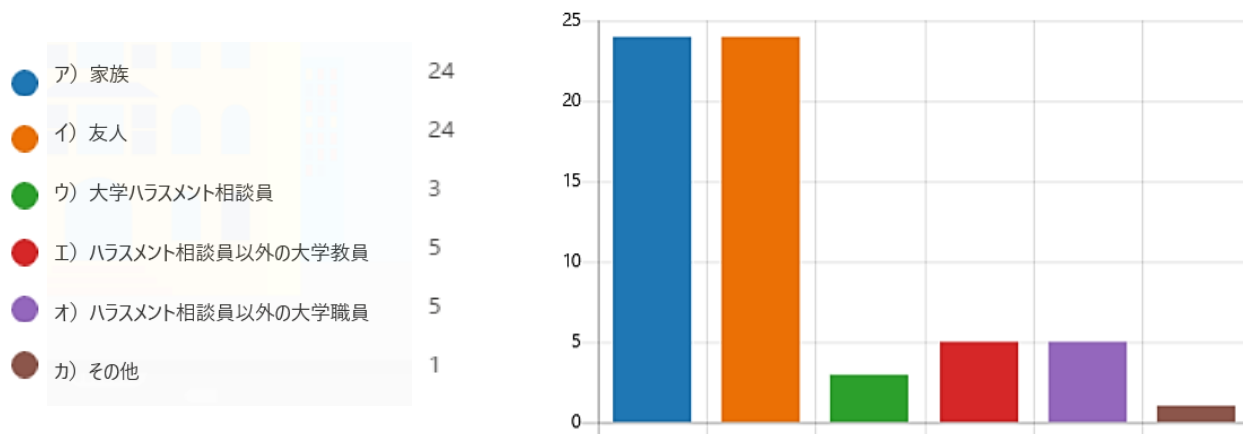
33. ハラスメントを受けた時、誰かに相談したことがありますか。

エ

● ある	34
● ない	303



34. 上記質問で「ある」と答えた人で相談した人(複数項目の選択可)

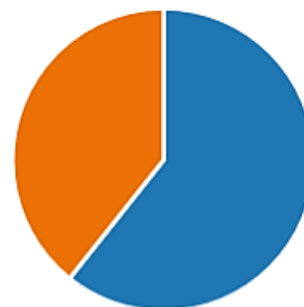


35. 上記質問でカ) その他を選択した方にお聞きします。相談した方を教えてください。

- ・弁護士 1 名

36. 誰がハラスメント相談員か知っていますか。

- 知っている・調べることができる 204
- 知らない 132



37. ハラスメント目安箱があることを知っていますか。

- 知っている 230
- 知らない 107



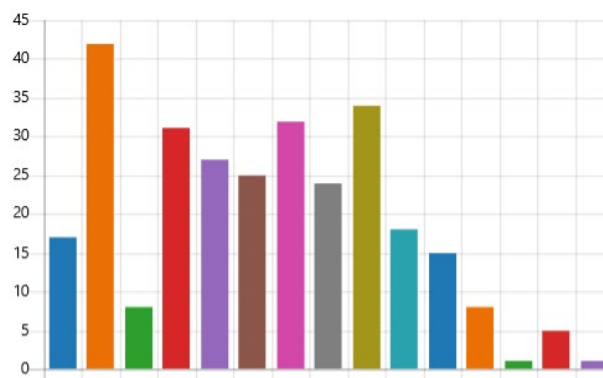
38. ハラスメントの相談を躊躇することがありますか、相談しにくいですか。

- そう思う 84
- どちらともいえない 146
- そう思わない 107



39. 上記質問で「そう思う」と答えた方はその理由の該当する項目をチェックしてください。また、該当する項目が無い場合はその他の項目を選択し、理由を入力してください。（複数項目の選択可）

・相談することが恥ずかしい	17
・他者に相談しづらい	42
・相談者や場所がわからない	8
・相談して良い内容がわからない	31
・相談内容についての秘密が守られないと思う	27
・悩みを理解してもらえないと思う	25
・相談（目安箱に投函も含む）しても解決につながらないと思う	32
・相談することで、教員や上司から不公平に扱われる可能性があると思う	24
・相談することで、人間関係に影響すると思う	34
・相談員と親しくない（知らない人に言いづらい）	18
・相談員が大学職員である	15
・相談員に適切な知識やスキルがあると思えない	8
・相談しても適切に対応されなかった	1
・相談しても状況が変わらなかった	5
・その他	1



40. 上記質問でその他を選択した方はその理由を入力してください。（自由記述）

【省略】

41. ハラスメントを防止していくためにどのようなことをしていくのがよいと思いますか。ご意見をお聞かせください。（自由記述）

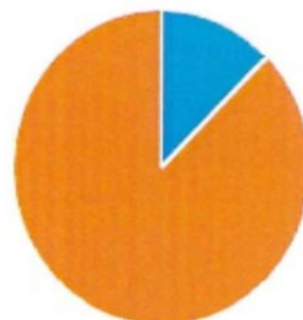
【省略】

2021年度 人権擁護委員会 ハラスメント防止セミナー ～充実した学生生活を送るためには～アンケート結果

- ・開催日時: 4月9日(金) 13:30~14:30
- ・場所: 4号館3階 4308 講義室(看護学科)・4号館3階 4304 講義室(栄養学科)
- ・講師: 学生相談室 臨床心理士 屋嘉比 瑞穂氏
- ・出席率: 98.2%(173名中 170名)
- ・アンケート回収率: 93.5%(170名中 159名)

1. あなたの性別を教えてください。

● 男	20
● 女	139

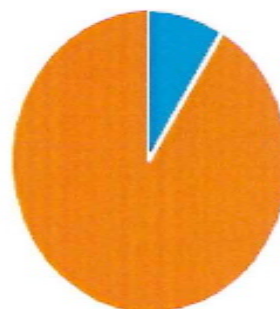


2. 今回の講演で一番学びになったことは何でしょう？(自由記述)

【省略】

3. これまでハラスメントと感じるようなことを受けたことがありますか？

● ある	14
● ない	145



4. あると答えた方はその内容を差支えのない範囲で書いてください。(自由記述)

【省略】

5. これまでハラスメントと感じるようなことを見たり聞いたりしたことがありますか？

● ある	18
● ない	141



6. あると答えた方はその内容を差支えのない範囲で書いてください。(自由記述)
【省略】

7. これまでに知らずにハラスメントをしていたのではないかと思うことはありますか？

● ある	14
● ない	145



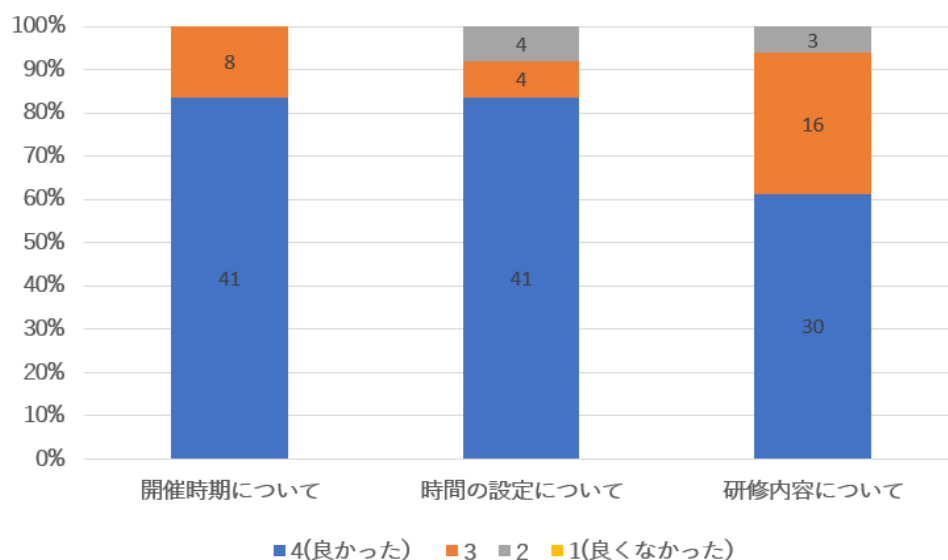
8. あると答えた方はその内容を差支えのない範囲で書いてください。(自由記述)
【省略】

9. ハラスメントのない大学のためにあなたができることは何があるでしょう？
(自由記述)
【省略】

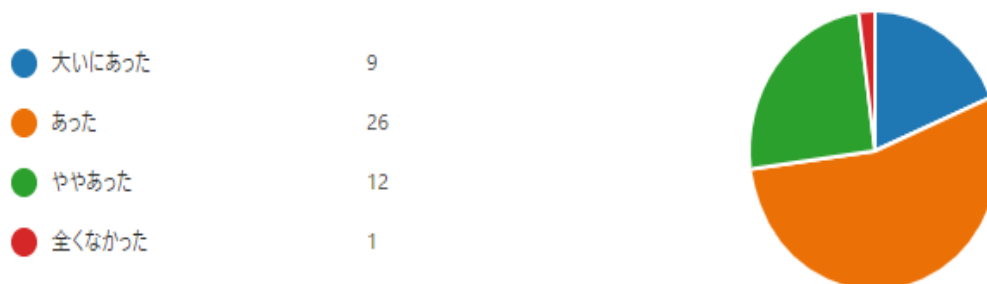
2021 年度 人権擁護委員会 ハラスメント防止研修会 ～ハラスメントをうまない職場風土を築くために～アンケート結果

- ・開催日時: 2022 年 2 月 18 日(金) 13:30～14:40
- ・場所: 5 号館 3 階 5314 講義室(オンライン)
- ・講師: 学生相談室 臨床心理士 屋嘉比 瑞穂氏
- ・出席率: 64.5%(76 名中 49 名)※育休 1 名は除く
- ・アンケート回収率: 100%(49 名中 49 名)

1. 本日の研修をどのようにお感じになったのかお尋ねします。



2. セミナーを通してご自身について何らかの気づきがありましたか。



3. 気づきがあった方、その内容をお聞かせください。(自由記述)

【省略】

2021 年度 委員会等活動報告書

委員会等	研究倫理委員会
作成者	千葉 仁志

項 目	内 容
<p>【前年度】 次年度への 課題・改善方策 (Problem)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) 適切な審査が行えるように審査を実施する委員への連絡態勢を整え、事務的な連絡が迅速にできるようにしていく。審査の日程や審査結果の報告が遅れないように、日程を決めて、タイミングを合わせていく。 2) コロナ禍であるため、講演会・説明会等が開催されない場合を想定して、Web で開催している情報も確認し、各委員との調整及び共有を図っていく。 3) 3年に一度、研修を行うこととなっているが、年単位で倫理審査の内容が変更となることから、より速やかに新情報の発信を行うことを検討したい。

項 目	内 容
<p>今年度の活動計画 (目標・課題) (Plan)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) 提出された申請書について、研究倫理要項などに基づいて適切に審査を行う。 2) 外部団体などが主催する研究倫理に関する講演・説明会などに参加をして情報収集を行う。 3) 学部全体の研究倫理向上を目的に学内の講習会などを開催する。
<p>活 動 内 容 (Do)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) 提出された申請はすべて迅速審査とした。審査は書類提出後 20 日程度 (3~25 日) の時間を要した。今年度の申請件数は 12 件で、すべて承認された。 2) 研修会に関しては、新型コロナウイルス感染症の影響により実施されなかったため、インターネット上での情報収集を行った。 3) 今年度の新任教員に対して、昨年度の研修会ビデオを見て、研究倫理研修会質問票を提出することで研究倫理番号の発行がされ、審査の申請書を提出できるようになった。
<p>活動内容の評価 (Check)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) 提出された申請に関して迅速に査読結果を返却できない事例が 1 件あった。新型コロナウイルス感染症の関係で委員が多忙な時期に重なったのが原因だが、そのような場合には査読者を交替するなどの対策を委員長が指示する必要がある。 2) インターネット上での情報に関して、新たな内容は見当たらなかったため、委員長に対して新情報がないことを報告した。 3) 対象となった今年度の新任者すべてが、研修のビデオを見て研究協作者の人権の保護、インフォームド・コンセントなどの手法を習得できた。
<p>次 年 度 へ の 課題・改善方策 (Action)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) 委員会は、審査日程に遅れが生じない管理システムを構築・稼働させて、迅速な審査の維持に努める。 2) コロナ禍が続くため、講演会・説明会等が開催されない場合を想定して、Web 開催情報を確認し、情報の共有を図っていく。 3) 3年に一度の研修の計画を、遠隔も想定して立てる。倫理審査の基準が変更となる場合には、速やかに新情報の発信を行うこととする。

2021 年度 委員会等活動報告書

委員会等	教務委員会
作成者	木津 由美子

項 目	内 容
<p>【前年度】 次年度への 課題・改善方策 (Problem)</p>	<p>1) 教育課程編成及び実施の方針に基づき、教育課程を円滑に運用し、学生の成長を促す。</p> <p>(1) ガイダンスの実施</p> <p>① 新生が大学での学修に円滑に対応できるよう、入学時の新生ガイダンス、後期ガイダンスを行う。</p> <p>② 在学生が新学年の学修に円滑に対応できるよう、前・後期でガイダンスを行う。</p> <p>③ 試験前のガイダンスを1年次の前・後期、2年次の前期に行う。日程は時間割の中に組み込む。</p> <p>④ 看護学科 1、2 年次生に対し、公衆衛生看護学履修希望（保健師国家試験受験資格取得希望）に関するガイダンスを行う。3 年次生には、公衆衛生看護学履修者の選抜を行い、履修のためのガイダンスを行う。</p> <p>⑤ 引き続きガイダンスを通じて本学の教育理念の理解が進むようにする。</p> <p>(2) 履修支援</p> <p>① 学生が履修の自己管理を行い、確実に単位取得ができるよう、履修登録、出欠席、試験に関する指導を学年担任とも協力しながら実施する。2021 年度からは、対面授業に戻す方針であるが、新型コロナウイルス感染症の状況によっては遠隔授業も併用される可能性があり、遠隔授業による学習意欲の低下、履修放棄とならないよう、学生の学修状況を学年担任と共有し、対応できるよう努める。</p> <p>② 学生の自己学修時間を確保するため、看護学科 3、4 年次前期を除いて、科目ごとに曜日を決め時間割を組むことを基本としてすすめる。また新型コロナウイルス感染症の関連で、遠隔授業が必要となる可能性はあるため、状況に対応し学生の学修がしっかり行われるよう努めていく。</p> <p>③ 本学の教育理念、カリキュラム等の情報を提供し、常勤・非常勤講師が情報交換・交流を図る。</p> <p>2) 退学、休学、留年等の学生の実態分析を行い、改善対策の検討を行う。必要時、学科・学年担任より情報提供を得て、状況の把握、改善対策に活かす。また、新型コロナウイルス感染症対策による学生動向への影響も検討する。</p> <p>3) 学生が快適な環境で学修できるための環境づくりを行う。 新型コロナウイルス感染症の流行を考慮し、できるだけスペースを確保した環境を作れるよう工夫する。</p> <p>4) 教務委員・教員としての能力向上及び教務に関する情報収集を行う。</p> <p>5) 栄養学科の 2021 年度新カリキュラム開始に必要な事項を審議・決定し進める。また、カリキュラム検討委員会からあがる看護学科の新カリキュラム（2022 年度から開始）に関する教育課程の検討と規定の見直しを行う。</p> <p>6) 出欠管理、履修申請手続きに関するシステム化について、情報収集し、必要時、意見を伝える。</p> <p>7) その他、教務上必要な規程等の整備を行う（科目等履修生に関する規程、合理的配慮が必要な学生への対応など）。</p>

項 目	内 容
<p>今年度の活動計画 (目標・課題) (Plan)</p>	<p>1) 教育課程編成及び実施の方針に基づき、教育課程を円滑に運用し、学生の成長を促す。</p> <p>(1) ガイダンスの実施</p> <p>① 新生が大学での学修に円滑に対応できるよう、入学時の新生ガイダンス、後期ガイダンスを行う。</p> <p>② 在学生が新学年の学修に円滑に対応できるよう、前・後期でガイダンスを行う。</p> <p>③ 試験前のガイダンスを1年次の前・後期、2年次の前期に行う。日程は時間割の中に組み込む。</p> <p>④ 看護学科1、2年次生に対し、公衆衛生看護学履修希望（保健師国家試験受験資格取得希望）に関するガイダンスを行う。3年次生には、公衆衛生看護学履修者の選抜を行い、履修のためのガイダンスを行う。</p> <p>⑤ 引き続きガイダンスを通じて本学の教育理念の理解が進むようにする。</p> <p>(2) 履修支援</p> <p>① 学生が履修の自己管理を行い、確実に単位取得ができるよう、履修登録、出欠席、試験に関する指導を学年担任とも協力しながら実施する。2021年度からは、対面授業に戻す方針であるが、新型コロナウイルス感染症の状況によっては遠隔授業も併用される可能性があり、遠隔授業による学習意欲の低下、履修放棄とならないよう、学生の学修状況を学年担任と共有し、対応できるよう努める。</p> <p>② 学生の自己学修時間を確保するため、看護学科3、4年次前期を除いて、科目ごとに曜日を決め時間割を組むことを基本としてすすめる。また新型コロナウイルス感染症の関連で、遠隔授業が必要となる可能性はあるため、状況に対応し学生の学修がしっかり行われるよう努めていく。</p> <p>③ 本学の教育理念、カリキュラム等の情報を提供し、常勤・非常勤講師が情報交換・交流を図る。</p> <p>2) 退学、休学、留年等の学生の実態分析を行い、改善対策の検討を行う。必要時、学科・学年担任より情報提供を得て、状況の把握、改善対策に活かす。また、新型コロナウイルス感染症対策による学生動向への影響も検討する。</p> <p>3) 学生が快適な環境で学修できるための環境づくりを行う。 新型コロナウイルス感染症の流行を考慮し、できるだけスペースを確保した環境を作れるよう工夫する。</p> <p>4) 教務委員・教員としての能力向上及び教務に関する情報収集を行う。</p> <p>5) 栄養学科の2021年度新カリキュラム開始に必要な事項を審議・決定し進める。また、カリキュラム検討委員会からあがる看護学科の新カリキュラム(2022年度から開始)に関する教育課程の検討と規定の見直しを行う。</p> <p>6) 出欠管理、履修申請手続きに関するシステム化について、情報収集し、必要時、意見を伝える。</p> <p>7) その他、教務上必要な規程等の整備を行う(科目等履修生に関する規程、合理的配慮が必要な学生への対応など)。</p>
<p>活 動 内 容 (Do)</p>	<p>1)</p> <p>(1) ガイダンスの実施</p> <p>① 新生に対しては入学式の翌週月曜日から金曜日までの5日間ガイダンスを実施した。昨年度同様に新型コロナウイルス感染症の感染防止の観点から、ガイダンスは新生歓迎行事の縮小など内容を精選し実施したが、教務関連内容は、全学年に共通する学事暦、時間割の見方、教育課程の概要、履修の方法、定期試験と成績評価、単位取得、卒業時の取得可能な資格等について一通り説明した。また</p>

栄養学科の新生に対して、新カリキュラムの運用の開始となることと、新しくコース制の導入について説明をした。またガイダンス終了後以降は、学生自らがシラバスを用い、シラバスに記載されていること、シラバスを確認することを強調し、シラバスの活用で情報を得ること、SharePoint や Teams により情報を得るように促した。

栄養学科編入生に対しては、新生ガイダンス、3年次生ガイダンス、編入生ガイダンスすべてを受けられるようにプログラムを組んだ。

後期ガイダンスでは、学生自身が前期の成績を基に、自身の学修姿勢を振り返り、後期の学修に臨むことができるように、履修に関する留意点について再度説明した。また、本学の教育理念に触れ、日常で意識した行動をとることの大切さを説明した。

②在生に対しては、両学科共、全学年に前後期でガイダンスを行った。学年が上がるとガイダンス内容も絞られてくるため、ガイダンス日の後半は学年に応じて授業と並行して実施した。

③定期試験ガイダンスは、1年次生は前後期、2年次生は前期のみ行った。

1年次生の前期ガイダンスの欠席者は、看護1名(108名中)、栄養5名(61名中：編入生除く)、であったが、後期は、看護3名(106名中)、栄養18名(57名中：編入生除く)欠席があり、オンデマンドで確認するよう再度アナウンスした。内容は、定期試験の受け方、追再試の手続き、成績評価について行っている。新型コロナウイルス感染症の関連で欠席し追試験になる学生がいることを想定し、体調管理の重要性と欠席の場合の連絡、追試験については手続で漏れないように強調した。

④看護学科の公衆衛生看護学履修に関する説明は、新生ガイダンス、前期ガイダンスの中でシラバスの内容を伝え、履修に関する詳細な説明が必要な場合は、公衆衛生看護学を担当している教員の研究室に来るように伝えた。

例年行っている2年次生への説明は、コロナ禍であるため遠隔で説明会を実施した。

3年次生に対して、教務委員長、公衆衛生看護学を担当している教員、学年担任を構成メンバーとして審査委員会を立ち上げた。手続きについては、保健師国家試験受験資格取得を希望する学生には、4月1日に履修申請書、志望理由書の配付を行い、必要書類を4月16日までに提出してもらい、1次審査を4月28日、2次審査を5月15日に遠隔で実施。判定会議を2次審査のあとに行っている。

⑤全学年で前後期のガイダンスを実施し、その中で教育理念について説明し、意識した大学生活につなげるよう伝えた。

(2)履修支援

①履修登録期間を経て学生が1年間の履修登録を行った。その後、確認期間を設けた。例年通り後期にも、学生が自身の学修状況を踏まえて変更することができる期間を設けた。

教務に関するガイダンスの翌日から看護学科は1年次生、栄養学科は1、2、3年次生と編入生を対象とする履修相談を設け、教務委員、学年担任が相談に応じた。履修に関しては、1年間だけではなく4年間の学修全体を捉えることが重要であると考え、4年間の履修スケジュール表を配布し、履修相談で活用した。

個々の在生に対する具体的な指導は学年担任の協力を得ながら実施した。学生が自己の履修の確認と管理を行うという点では、昨年より履修登録一覧を全員に一斉配布する形を取っている。

新型コロナウイルス感染症の関連で、やむを得ない事由での欠席の場合についての授業欠席の際の手続きを学生に周知し、また欠席

状況が全教員にわかるよう共有フォルダに記載した。

定期試験に関しては、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が発出下での試験実施について検討し、前期は定期試験・追試験は予定通りに実施した。再試験は、第2回新型コロナワクチン接種時期とその後の副反応が出現する時期と重複されることから、日程変更をしてワクチン接種後感染対策を万全にして対面で実施をした。

後期試験は、雪害による除雪の停滞とそれによる交通機関の運休により登校できない状態が発生し、試験日程を一部繰り下げて実施した。前後期ともに新型コロナウイルス感染症関連での試験欠席等について追試験対応をとったが、学生の待機期間が異なるため追試験対応に教員が追われる状況があった。

また、再試験の準備時間を確保する目的で、定期試験の結果は、科目責任者から随時発表する形をとっているが、今年度も Teams を使って行うため、印刷や変更ができない対応について教員に周知した。

最後の再試験不合格者の発表については、複数科目不合格になる学生がおりメンタル面への配慮から Teams での発表方法を一部変更して対応した。

②時間割の作成に関しては、可能な限り、科目ごとに曜日を定め時間割を組むことを基本としており、当初対面での実施であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から遠隔授業も導入し、ハイブリッドでの時間割となった。以下、今年度の時間割変更について説明する。

- ・危機管理委員会の決定を受け、6月21日以降から遠隔授業と対面授業を組み合わせる授業展開とした。後期も、遠隔授業と対面授業を組み合わせる授業展開となった。
- ・科目責任者と調整し、遠隔授業の時間割を作成した。遠隔授業と対面授業が組み合わされているため、学年ごとに曜日で遠隔授業のみの日、対面授業のみの日と分け、時間割を組んだ。
- ・栄養学科編入生の履修科目に関しては確実に単位取得ができるよう、土曜日開講を行った。

③次年度に向けて、看護学科も新カリキュラム運用開始のため、看護学科と栄養学科の両学科の2022年度にむけての非常勤講師会を3月18日に遠隔でオンデマンド配信で実施する予定である。事前に質問を受け付け、講師会の中で説明できる部分は説明を行う予定である。

その他：

シラバスに関しては、昨年より評価の視点を明確にするよう働きかけてきた。今年度はそれに合わせて、評価の基準で、履修規程等にある内容以上のものが盛り込まれている部分の修正を依頼した（定期試験受験の条件付け・事前事後課題に要する時間の明記など）。

- 2) 開学時からの学生の休学、留年、退学、除籍のデータをまとめた。(別紙参照)
- 3) 使用教室に関しては、看護学科4年次生を除き、学年で固定教室、固定席とした。また、遠隔授業の開始に当たっては、「遠隔授業受講の留意点(学生用)」「2021年度札幌保健医療大学遠隔授業実施についてのガイドライン」を作成し教員と学生へ周知をした。遠隔授業の際は、総務と連携し、授業が滞りなく進められているか確認し、フォローを行った。
- 4) 今年度は、研修参加はなかった。
- 5) 看護学科の2022年度新カリキュラム開始に合わせ、教育課程の確認と規程の改定を検討し、教授会審議にかけた。合わせて先行していた栄養学科の2021年度新カリキュラム規定の文言等の修正が生じ、教授会審議にかけた。
- 6) 出席管理では、遠隔授業の場合は、Forms送信による出席確認と Teams

	<p>の学生の出席状況のログの両方で教員が確認を行う方法を取り、授業受講状況を確認した。Wi-Fi 環境に不具合が発生した場合は、学務課に直ちに連絡することを周知し、授業を受けずに出席確認を送信するなど不正防止策を行った。申請手続きに関するシステムについては、情報管理委員会で検討されているため、委員会として動くことはなかった。</p> <p>7) 今年度は科目履修等の規定の検討を実施しなかった。</p>
<p>活動内容の評価 (Check)</p>	<p>1)</p> <p>(1) ガイダンスの実施</p> <p>① 新入生ガイダンスでは履修に関する内容だけではなく、大学生生活に関する多くの情報を幅広く伝える意図で、昨年度の4日間から5日間へと日程を延ばしたものの、実際は、新型コロナウイルス感染症の関係から新入生歓迎行事を縮小せざるを得なかった。教務関係に関しては、伝えるべき部分は伝えたが、途中から遠隔授業と対面授業の併用となり、大学に登校する時間が少なくなったことから、大学生生活に慣れるために時間を要したと思われる。履修相談もほぼ例年通り行い、履修登録等での混乱はなかった。6月21日より始まった遠隔授業では、Wi-Fi 環境の不具合や、新型コロナウイルス感染症陽性者や濃厚接触者となり補講対象となるケースがあり、大学での学業生活、授業にも全く慣れない中での遠隔授業開始の課題がみられた。</p> <p>② 在学生へのガイダンスを全学年、前後期2回に分けて実施することで、履修科目の登録変更など学習の取り組み姿勢を新たにすることができたと考え、今後も継続する。</p> <p>③ 定期試験ガイダンスは、再試験、追試験で手続き漏れの学生がなくなった点から後期のガイダンスは必要であると考え。欠席者が後期に多かったことから、後期の内容や方法について検討する必要がある。</p> <p>④ 3年次生に対する公衆衛生看護学の履修生の審査と履修生決定については、例年通りに進めることができた。応募の条件はGPAが概ね2.5以上となっていたが、それ以下の学生の応募が非常に多く書類審査で落ちる学生が多かった。保健師国家試験の水準が高くなっており、一定レベルの学力が必要であるため、学年担任の学生指導についても調整の必要が感じられた。また、3年次生で、履修を取りやめる学生が出たが、昨年度整備した手続きに従って履修取りやめの手続きを行った。だが今年度は2名の学生の履修取りやめがあり、選考する時点での学生の学習量の多さなど負担となる事項について丁寧に説明を行い、履修する学生が学習状況を具体的にイメージできる工夫が必要である。</p> <p>また、2年次生に対する説明や3年次生の第2次審査は、コロナ禍においては遠隔対応を行い、時期を逸せず実施していく。</p> <p>⑤ 全学年に対する前後期のガイダンスで教育理念に説明している。教育理念は、カリキュラム全体の中で意識され、それが積みかさって学生自身が体現していくものであるが、折に触れて言葉にし、自らの人間力を高めていく大学生活を考えるきっかけとして、意味があると考え。</p> <p>(2) 履修支援</p> <p>① 例年履修漏れが起きる状況があったが、今年度はみられなかった。学生自らが主体的に自己の履修を確認、管理できるよう担任と連携を取りながら働きかけていくなど、支援を継続する。</p> <p>現在行われている履修相談期間の相談(看護1年次生、栄養全学年)も行っていく。</p> <p>1年次で非常勤の科目で、毎回授業を欠席する学生が多く、非常勤講師より学担へ状況についての報告があった。学生の中には、授</p>

	<p>業の進捗についていけないという学生もおり、大学での受講態度について改めて周知する必要がある。また非常勤講師の科目については、出欠の記入を早めにしていただくことを依頼し、必要に応じて非常勤講師室のPCで出欠を確認してもらい、指導に活かせるようにする。</p> <p>②当初の対面授業実施予定が、遠隔授業と対面授業のハイブリッド方式となり、時間割の変更が必要となった。学務課が中心となり行ったが、2020年度の時間割変更の経験を活かし、短時間で非常勤講師や専任教員と調整をし、変更を行うことができた。今後も新型コロナウイルス感染症関連で授業方法の変更が予測されるため、スムーズな時間割調整を行う。</p> <p>③2021年度の非常勤講師会は、栄養学科のみであったが、2022年からの看護学科の新カリキュラム開始に合わせて行い、新カリキュラムで4年次生が卒業するまでは、両学科で非常勤講師会を開催する必要がある。</p> <p>2) 今年度は看護・栄養両学科の2018年度入学生が卒業した。看護学科のこれまでの入学年度別卒業生(4年間で卒業)は2013年度入学生:97名/106名、2014年度入学生:83名/105名、2015年度入学生:93名/105名、2016年度入学生:92名/109名、2017年度入学生:89名/106名、2018年度入学生:101名/123名である。栄養学科は2017年度入学生:24名/26名、2018年度入学生:19名/22名(編入生含まず)であった。退学した学生は看護学科2013年度入学生:6名、2014年度入学生:11名、2015年度入学生5名、2016年度入学生:6名、2017年度入学生:8名、2018年度入学生10名、栄養学科は1名(編入生含まず)、2名(編入生含まず)である。また、看護2018年度入学生の休学者は3名、栄養の休学者は0名である。2015年度入学生までは、3年次になってからの休学が主であったが、2016年度以降の入学生は1、2年次の低学年で休学する学生が増えてきている。詳細は添付資料のとおりである。</p> <p>3) 新型コロナウイルス感染症対策の関係で、教室と座る場所の固定を行い、履修生の人数に合わせた教室の調整を行い、十分なスペースを確保できた。</p> <p>4) 今年度は、新型コロナウイルス感染症対策により、研修に参加できなかった。</p> <p>5) 看護学科の新カリキュラム施行に向けて教育課程の確認と規程の改定を教授会審議にかけたが、先行している栄養学科の新カリキュラム規程等の文言修正等が生じた。次年度は、看護学科の新カリキュラムの運用が開始されることから、看護学科と連携調整をする。</p> <p>6) 出席管理では、対面授業・遠隔授業の両方でFormsを活用したが、Forms送信と実際の視聴とのギャップがあるケースがあり、出席管理が不十分であった。 申請手続きに関するシステムについては、情報ネットワーク委員会で検討されているため、引き続き情報収集を行う。</p> <p>7) 科目履修生に関する規程をはじめ<u>教務上必要な規程を整備する。</u></p>
<p>次年度への課題・改善方策(Action)</p>	<p>1) 教育課程編成及び実施の方針に基づき、教育課程を円滑に運用し、学生の成長を促す。</p> <p>(1)各種ガイダンスの日程・内容の検討と確実な実施(①新入生ガイダンス、②在学生ガイダンス、③試験ガイダンス、④公衆衛生看護学履修希望者ガイダンスに関するガイダンス)</p> <p>(2)履修支援</p> <p>①学生の履修登録、出欠席、試験に関する指導</p> <p>②新型コロナウイルス感染症対策時におけるスムーズな時間割の変更・調整の実施</p> <p>③本学の教育理念、カリキュラム等の情報を提供し、常勤・非常勤講師が情報交換・交流を図る。</p>

	<ul style="list-style-type: none">2) 退学、休学、留年等の学生の実態分析を行い、改善対策の検討3) 学生が快適な環境で学修できるための環境づくり4) 教務委員・教員としての能力向上及び教務に関する情報収集を行う。5) 看護学科の2022年度新カリキュラムの適切な運用の実施。6) 対面授業・遠隔授業時の確実な出席管理の実施と履修申請手続きに関するシステム化についての情報収集及び必要時、意見を伝える。7) 教務上必要な規程等の整備を行う（科目等履修生に関する規程、試験監督要領、合理的配慮が必要な学生への対応など）。
--	---

看護学科 2013年度入学生

入学者	正規就業 年限卒業者	5年以上で 卒業者	退学者	除籍者	休学中	在学中
106名	97名	3名	6名	0名	0名	0名

正規就業年限卒業者以外の内訳

	1年		2年		3年		4年		5年		6年		7年		8年		9年		てん末
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
1	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5									卒業
2	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5														退学
3	0.5	0.5	0.5	0.5															退学
4	0.5	0.5	0.5	0.5															退学
5	0.5	0.5																	退学
6	0.5	0.5	0.5	休学	0.5	0.5	0.5	休学	休学	休学	0.5	0.5	休学	休学	休学	休学	0.5	0.5	卒業
7	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	休学	休学	休学	休学										退学
8	0.5	0.5	0.5	0.5	休学	休学													退学
9	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	休学	休学	0.5	0.5									卒業

看護学科 2014年度入学生

入学者	正規就業 年限卒業者	5年以上で 卒業者	退学者	除籍者	休学中	在学中
105名	83名	11名	9名	2名	0名	0名

正規就業年限卒業者以外の内訳

	1年		2年		3年		4年		5年		6年		7年		8年		9年		てん末
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
1	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5										卒業
2	0.5	0.5	0.5	0.5	休学	休学	0.5	0.5	0.5	0.5									卒業
3	0.5	0.5	0.5	0.5	休学	休学													退学
4	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5										卒業
5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5									卒業
6	0.5	0.5	休学	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5									卒業
7	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	休学	休学	0.5	0.5									卒業
8	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5														退学
9	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	休学											退学
10	0.5	0.5	0.5	0.4															除籍
11	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5									卒業
12	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	休学	休学	休学											退学
13	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5									卒業
14	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5							卒業
15	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5									卒業
16	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	休学												退学
17	0.5	休学	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5										退学
18	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5														退学
19	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	休学													退学
20	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	休学	0.5	0.5	0.5	0.5									卒業
21	0.5	0.5	0.1																除籍
22	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	休学	休学											退学

看護学科 2015年度入学生

入学者	正規就業 年限卒業者	5年以上で 卒業者	退学者	除籍者	休学中	在学中
103名	93名	5名	5名	0名	0名	0名

正規就業年限卒業者以外の内訳

	1年		2年		3年		4年		5年		6年		7年		8年		9年		てん末
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
1	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	休学	休学	休学	休学										退学
2	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5											退学
3	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5									卒業
4	0.5	0.5	0.5	0.5	休学	休学	0.5	0.5	0.5	0.5									卒業
5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5									卒業
6	0.5	0.5	0.5	0.5	休学	0.5	0.5	0.5	休学	休学									退学
7	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	休学	休学											退学
8	0.5	0.5	0.5																退学
9	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5									卒業
10	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5									卒業

看護学科 2016年度入学生

入学者	正規就業 年限卒業生	5年以上で 卒業生	退学者	除籍者	休学中	在学中
109名	92名	8名	5名	1名	0名	0名

正規就業年限卒業生以外の内訳

	1年		2年		3年		4年		5年		6年		7年		8年		9年		てん末
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
1	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5									卒業
2	0.5	0.5	0.5	休学	0.5	0.5													退学
3	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5										卒業
4	0.5	0.5	休学	0.5	0.5	休学	0.3	休学											退学
5	0.5	0.5	休学	0.3															除籍
6	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5									卒業
7	0.5	0.5	休学	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5								卒業
8	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5									卒業
9	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5														退学
10	0.5	0.5	0.5	0.5	0.1														退学
11	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	休学	休学											退学
12	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5									卒業
13	0.5	0.5	0.5	0.5	休学	休学	休学	休学	0.5	0.5	0.5	0.5							卒業
14	0.5	0.5	休学	0.5	0.5	0.5	休学	0.5	0.5	0.5	0.5								卒業

看護学科 2017年度入学生

入学者	正規就業 年限卒業生	5年以上で 卒業生	退学者	除籍者	休学中	在学中
106名	89名	6名	8名	1名	1名	1名

正規就業年限卒業生以外の内訳

	1年		2年		3年		4年		5年		6年		7年		8年		9年		てん末
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
1	0.5	0.5	休学	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5										卒業
2	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5										卒業
3	0.5	0.5	0.5	休学															退学
4	0.5	0.5	0.5	0.5	休学	0.5	0.5	0.5	0.5										卒業
5	0.5																		退学
6	0.5	休学	休学																退学
7	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	休学	休学									
8	0.5	休学	0.5	0.5															退学
9	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5									卒業
10	0.5	休学	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	休学	0.3	休学									退学
11	休学	休学	休学	休学															退学
12	0.5	0.5	0.5	0.5	休学	休学	0.5												退学
13	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5														除籍
14	0.5	0.5	休学	0.5	0.5	0.5	休学	0.5	0.5	0.5									
15	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	休学													退学
16	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5									卒業
17	0.5	0.5	0.5	0.5	休学	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5									卒業

看護学科 2018年度入学生

入学者	正規就業 年限卒業者	5年以上で 卒業者	退学者	除籍者	休学中	在学中
123名	101名	0名	10名	0名	3名	9名

正規就業年限卒業者以外の内訳

	1年		2年		3年		4年		5年		6年		7年		8年		9年		てん末
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
1	0.5	0.5	0.5	0.5	休学	0.5	0.5	0.5											
2	0.5	0.5	0.5	0.5	休学	0.5	0.5	0.5											
3	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5											
4	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	休学	0.5												退学
5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	休学	休学											
6	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	休学	休学											
7	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	休学	休学											
8	0.5	0.5	0.5	0.5	休学	休学													退学
9	0.5	0.5	0.5																退学
10	0.5	0.5	0.5	0.5	休学	0.5	0.5	0.5											
11	0.5	休学	休学																退学
12	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5											
13	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	休学	0.5												退学
14	0.5	休学	休学	休学	休学														退学
15	0.5	0.5	休学																退学
16	0.5	0.5	0.5	0.5	休学	0.5	0.5	0.5											
17	0.5	休学	0.5																退学
18	0.5	0.5	0.5	0.5	休学	0.5	0.5	0.5											
19	0.5	0.5	休学	休学	休学	休学													退学
20	0.5	0.5	0.5	0.5	休学	休学	休学	休学											退学
21	0.5	0.5	0.5	0.5	休学	0.5	0.5	0.5											
22	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	休学	0.5	0.5											

栄養学科2017年度入学生

入学者	正規就業 年限卒業者	5年以上で 卒業者	退学者	除籍者	休学中	在学中
26名	24名	0名	1名	1名	0名	0名

正規就業年限卒業者以外の内訳

	1年		2年		3年		4年		5年		6年		7年		8年		9年		てん末
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
1	0.5	0.5																	除籍
2	休学																		退学

栄養学科2018年度入学生

入学者	正規就業 年限卒業者	5年以上で 卒業者	退学者	除籍者	休学中	在学中
22名	19名	0名	2名	0名	0名	1名

正規就業年限卒業者以外の内訳

	1年		2年		3年		4年		5年		6年		7年		8年		9年		てん末
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
1	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5											
2	0.5	休学	休学	休学	休学	0.5													退学
3	0.5																		退学

2021 年度 委員会等活動報告書

委員会等	学生委員会
作成者	千葉昌樹

項 目	内 容
<p>【前年度】 次年度への 課題・改善方策 (Problem)</p>	<p>1) 学友会の活動・課外活動実施の支援 2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、活動がほぼ止まってしまった。2021年度はこれらの活動を再スタートさせることになる。学友会執行部については、新入生の入部を増やして、上学年の学生が下学年の学生を指導して、次世代へと引き継ぐ形の基礎を築く。サークル活動に関しては、ほとんどのサークルが仕切り直してゼロからスタートすることになるが、サークルとしての形の確立に向かうようにする。体育大会と大学祭は、感染予防対策を講じたうえで実施するが、感染拡大の状況に応じて柔軟に対応する。 学生相談室については、遠隔相談を本格的に開始し、同時に実施状況を分析して、問題点があればそのつど改善する。</p> <p>2) スキルアップのための研修会参加 新型コロナウイルス感染症の状況が落ち着かないなか、研修会の開催がどのような形になるか不明だが、スケジュールの許す範囲で研修会に参加できるようにする。</p>

項 目	内 容
<p>今年度の活動計画 (目標・課題) (Plan)</p>	<p>1) 以下の学生支援を行う。 (1) 学友会活動 学生が中心となる自立した活動ができるように支援する。 (2) 奨学金 各種奨学金の手続きや選考を滞りなく支援する。 (3) 学生相談室の充実 健康管理室との連携、学担や科目担当者との連携、保護者との連携を一層強化する。 (4) 外部講師によるセミナー 1年次生を対象とした金融セミナーと防犯セミナーを実施する。 (5) 新入生のためのオリエンテーション 大学生活を充実したものとするために、入学当初に学生生活オリエンテーションを行う。 (6) 卒業祝賀会 学生の意向を調査した上で、実施する場合は支援する。 (7) その他：学生満足度調査の実施 より良いキャンパスライフを築くための資料とすることを目的に4年に一度の調査を実施する。</p> <p>2) スキルアップのための研修会参加 学生委員会委員が学生厚生補導に関する研修会に参加し、委員の資質の向上に努めるとともに、学生指導の充実を図る。</p>
<p>活 動 内 容 (Do)</p>	<p>1) 支援を行った主な活動は以下のとおりである。 (1) 学友会活動 ① 新入生歓迎会 (4月) 新型コロナウイルス感染症拡大のため、中止した。次年度に向けて「三密」を避けた開催方法の検討を始めることとし、ガイダンス終了時、お菓子を配布した。</p>

②体育大会（5月）

新型コロナウイルス感染症拡大で緊急事態宣言が発出されていたため、昨年度に続き中止した。次年度に向けて、実行委員会を立ち上げて、「三密」を避けた開催方法について引き続き検討を行った。

③学友会総会（6月）

新型コロナウイルス感染症予防の観点から、SharePoint を用いた Web 開催となった。審議事項となる昨年度の決算（案）と今年度の予算（案）を SharePoint で発信し、それに対する意見を募った。

④大学祭（11月）

新型コロナウイルス感染症予防の観点から、学内での直接の開催を避け、2021年11月13日（土）10:00～16:00（動画視聴は14日23:59まで可能）の日程で総合広告会社ノヴェロの協力のもと、Webにてオンライン大学祭を開催した。総アクセス数は7,897回であり、ゲスト（レバンガ北海道 折茂 武彦氏）を含む5種の動画企画と一般参加を含む2種の参加企画で構成した。参加企画では景品を準備し、フォトコンテスト（応募数105件、投票数240票）、ジャンケン大会（アクセス数1,230回）であった（別添資料参照）。

⑤学友会新役員（会長・副会長）選挙（12月）

新型コロナウイルス感染症予防の観点から、Teams を用いた Web 選挙となった。選挙公示・立候補者の抱負発表は Teams で発信し、投票は Teams の Forms で行った。従来、投票日は1日だったが、投票者数を確保するため5日間とした。

⑥卒業記念品選定

学友会からの記念品として、昨年度と同様にネームペンを選んだ。

⑦サークル活動

新型コロナウイルス感染症拡大及び予防のため、活動はほとんどできなかった。新入生にサークルを紹介するために、年度当初から Teams によりパワーポイントを使って活動紹介を行った。また、オンライン大学祭にて、サークル紹介のコーナーを設置した。

⑧その他：後援会から学友会への助成金

大学祭に対し、大学祭助成金（50万円）を受けた。サークル助成金（30万円）については、サークル活動がほとんど出来ない状況で学友会のサークル活動予算もあまり消化されていないことから、辞退をした。なお、次年度はサークル活動の助成も含め従来通り、後援会に依頼する。

（2）奨学金

①「札幌保健医療大学学業成績優秀者給付奨学金」受給候補者を選考（5月）し、22名に給付を決定した。

②「札幌保健医療大学兄弟姉妹同時在学時授業料減免」受給候補者を選考（5月）し、申請のあった4名を授業料減免者として決定した。

③「札幌保健医療大学給付奨学金」受給候補者を選考（7月）し、9名に給付を決定した。

④「公益財団法人北海道信用金庫奨学財団 給付型奨学生」受給者を選考（9月）し、4月に第1学年に入学した学生で、ひとり親家庭または両親のいない家庭等の子女、経済的理由により修学困難な状況にある学生を対象に、2名に給付を決定した。

⑤日本学生支援機構の奨学金手続き

新型コロナウイルス感染症予防に配慮しながら昨年度よりは多くの手続きを対面で実施した。登校禁止期間中等は、郵送・メール・電話を利用し手続きを行った。

（3）学生相談室の充実

新型コロナウイルス感染症拡大によって、対面授業の日数が大幅に減ったため、学生が相談室を訪ねる機会が激減していることから、メール相談予約や、電話相談を行い、相談方法の選択肢を増やすために、

	<p>Teams を用いた遠隔相談も実施するとともに、学生相談室を健康管理室の隣に移設したことで、より綿密な連携が可能になった。また、相談員作成による学生向けの「学生相談室通信」と教職員向けの「学生相談室レター」をそれぞれ7号分発行した。</p> <p>(4) 外部講師によるセミナー 新型コロナウイルス感染症拡大と感染予防のため、中止した。</p> <p>(5) 新入生のためのオリエンテーション 年度当初に新入生を対象に、学生生活を送るうえでの注意事項を説明した。対象学生はほぼ全員出席した。</p> <p>(6) 卒業祝賀会 新型コロナウイルス感染症拡大により、Teams を活用して希望調査を行った結果、中止することとした。</p> <p>(7) その他：「学生満足度調査」について 4年に一度実施している「学生満足度調査」について、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、通常の授業や行事などが行えないことから「札幌保健医療大学学生に対するコロナ禍の影響についてのアンケート調査」を行うこととし、「学生満足度調査」については、来年度に延期することとした。</p> <p>2) スキルアップのための研修会参加 新型コロナウイルス感染症拡大のため、オンラインで実施する独立行政法人 日本学生支援機構主催「学生生活にかかる喫緊の課題に関するセミナー」に参加を促した。</p>
<p>活動内容の評価 (Check)</p>	<p>1) 学生支援</p> <p>(1) 学友会活動 新型コロナウイルス感染症の拡大と予防でさまざまな活動に制限がかかる中、Teams を利用して学友会から学生に向けてさまざまな情報の発信を行った。活動には限界があり新入生歓迎会や体育大会は中止せざるを得ない状況であったが、大学祭はオンラインで開催した。登校制限などスケジュール調整が難しい中での初めてのオンライン開催で、内容の充実度に限界はあったがアクセス数や企画参加数は妥当であった。今後もオンラインで開催する場合、実行委員を中心に早期からのスケジュール調整や広報活動などを含む内容の充実化に向け支援する必要がある。</p> <p>(2) 奨学金 新型コロナウイルス感染症拡大で登校禁止の制約もあり、手続き全てを対面では実施できなかったが、適切に対応ができた。</p> <p>(3) 学生相談室の充実 学生相談室を健康管理室の隣に移設したことで、より綿密な連携が可能になった。</p> <p>(4) 外部講師によるセミナー 新型コロナウイルス感染症予防のために、実施できなかった。</p> <p>(5) 新入生のためのオリエンテーション 緊急事態宣言の発出前だったため、予定通り実施できた。</p> <p>(6) 卒業祝賀会 希望調査を行った結果、中止となった。</p> <p>(7) 「札幌保健医療大学学生に対するコロナ禍の影響についてのアンケート調査」の実施は、看護学科 431 名、栄養学科 158 名の計 589 名を対象とし、回答者数（率）は全体で 538 名（91.3%）、学科別で看護学科 390 名（90.5%）、栄養学科 148 名（93.7%）であった。コロナ禍による学生への影響が明らかとなった（別途資料参照）。</p> <p>2) スキルアップのための研修会参加（オンラインセミナー） テーマ「コロナ禍における学生のメンタルヘルスと支援」への勧奨を図り、1名の参加があった。</p>

<p>次年度への 課題・改善方策 (Action)</p>	<p>1) 学友会の活動・課外活動実施の支援 2021年度は新型コロナウイルス感染症拡大が続く影響下で、活動がほぼ止まっている状況である。2022年度はこれらの活動の再スタートに向けて準備が出来るように支援する。特に執行部については、新入生の入会を増やして、上学年の学生が下学年の学生に向けて、次世代へと引き継ぐ形の基礎を築く。サークル活動に関しては、ほとんどのサークルが仕切り直してゼロからスタートになることから、サークルとしての形が整うようにする。体育大会は、例年と時期をずらして感染予防対策を講じたうえで実施を考えるが、実施の際は、人数を分散するなどの工夫を行い、感染拡大の状況に応じて柔軟に対応する。また、大学祭については、対面とオンラインのハイブリッド開催を考える。</p> <p>学生相談室については、遠隔相談も併せた形で行い、実施状況等を分析して、問題点があればそのつど改善する。</p> <p>2) スキルアップのための研修会参加 新型コロナウイルス感染症の状況が落ち着かない中、研修会の開催がどのような形になるか不明だが、スケジュールの許す範囲で研修会に参加できるようにする。</p>
---------------------------------------	---

実施期間：2021年9月～10月 後期ガイダンス実施時(後期ガイダンス日～2週間)

調査方法：formsにてアンケートを作成し、QRコードを学生に配信または、QRコード記載用紙の配布を行い、回答してもらう。

調査目的：本学学生のコロナ禍における経済面・生活面の実態を明らかにする。

I. 全学年のアンケート状況

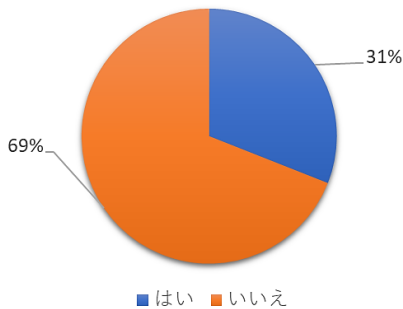
1. 参加人数およびアンケート回収数(率)

対象学生数を看護学科431名、栄養学科158名の計589名で設定した中、回答数は全体で538名(91.3%)であり、学科別では看護学科390名(90.5%)、栄養学科148名(93.7%)と効率であった。回収率が高かった理由としては、ガイダンスにおいてその場で回答を依頼したこと、学生にとって興味関心が高かった可能性がある。

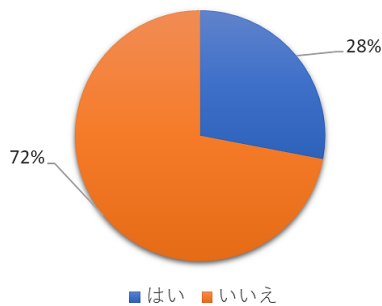
2. コロナ禍での経済面への影響について

(1)仕送りが減少した者は、はい58名(11%)いいえ466名(89%)であり、(2)アルバイトを続けられなくなった者は、はい146名(28%)いいえ384名(72%)、(3)アルバイトで予定していた収入が減少した者は、はい279名(53%)、いいえ246名(47%)となった。このことから、コロナ禍により、家族の収入への影響による仕送りの減少や、アルバイトの機会の減少等も含むアルバイトからの収入の減少が目立つ結果となった。

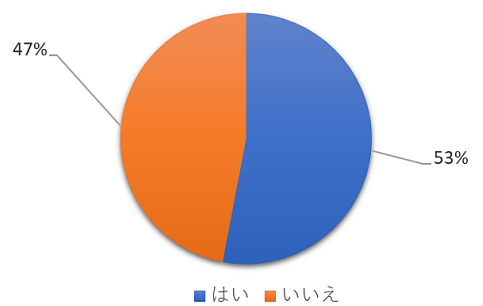
(1) 仕送りが減少した



(2) アルバイトが続けられなくなった

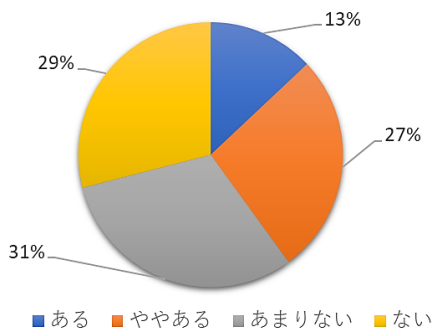


(3) アルバイトで予定していた収入が減少した。

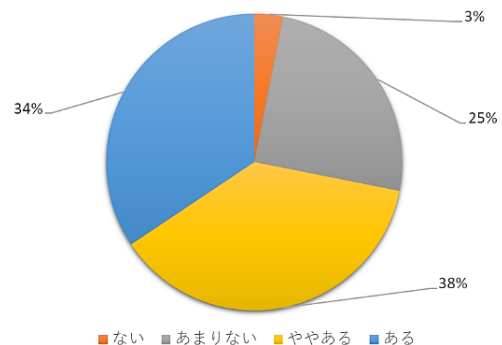


(4) の今後の大学の継続的に経済的不安があるかについては、ある68名(13%)・ややある147名(27%)・あまりない・166名(31%)・ない157名(29%)と回答しており、ある者、ややある者を併せて40%だった。しかし、仕送りが減少し、アルバイトで予定していた収入が減少した学生の大学継続への経済的不安がある学生は

(4) 今後の大学の継続に経済的不安がある

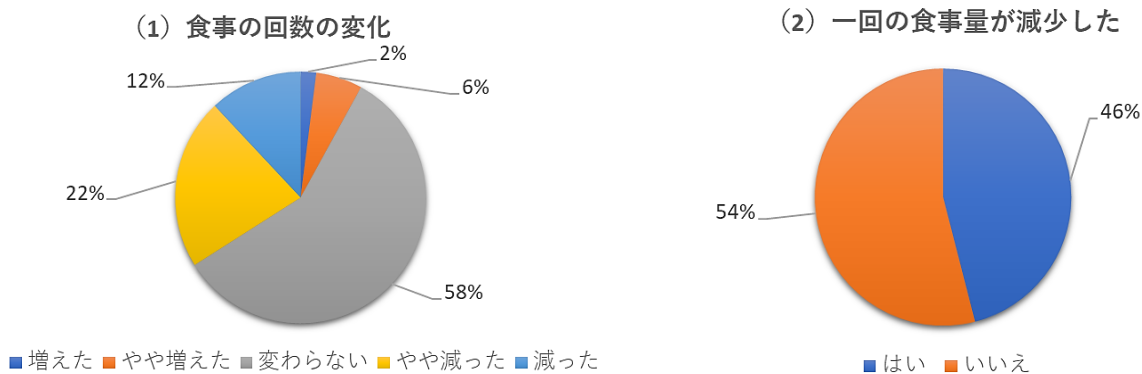


(5) 仕送りが減少し、アルバイトで予定していた収入が減少した学生の大学継続への経済的不安



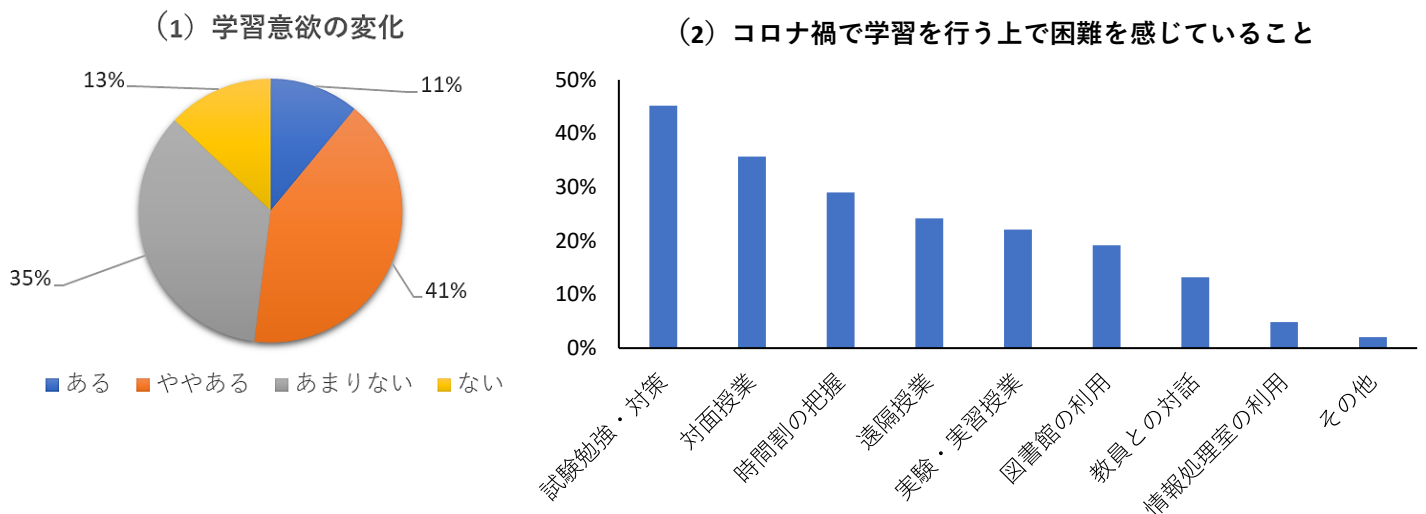
3. コロナ禍による生活面への影響について

食事の変化については、食事の回数が増えたものは、11名(2%)、やや増えた31名(6%)、変わらない314名(58%)、やや減った118名(22%)、減った64名(12%)となり、コロナ禍において、半数近くの方で回数に変化が見られたことが明らかになった。また、食事内容が変化したものは全体の178名(33%)おり、その中でも一回の食事に減少した者は81名(46%)存在した。



4. 学習意欲への変化について

変化があったものは、ある61名(11%)、ややある222名(41%)を合わせて283名(52%)に変化が見られた。コロナ禍により学習時間や意欲に影響があることがわかった。意欲の変化の内容については今回の調査ではわからないが、コロナ禍で学習を行う上で困難を感じていることとして、試験勉強・対策(45%)や、対面授業(35%)に対する問題を感じている者が多いことがわかった。遠隔授業と対面授業の混合体制により、試験勉強のしにくさや時間割の把握、資料の印刷を含めた入手方法に問題を感じていることが浮き彫りとなった。



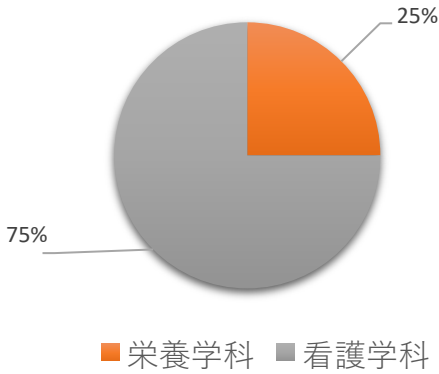
II. 一人暮らしで仕送り、アルバイトによる収入が減少した学生の状況

(1)～(3)から、該当する学生は32名であり、在学生数の影響から看護学科の人数が多い。学年では3年次の割合が高い状況である。すでに奨学金を受給している学生が(23名)72%いるが、現在大学継続に経済的不安を抱えている学生も同様に(23名)72%となっている(I-2グラフ参照)。

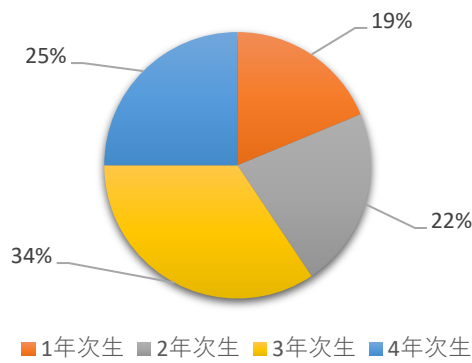
生活状況を見ると、(4)から食事回数が減少した(減った・やや減った)と回答した学生が(19名)60%、(5)から一回量が減少したと回答した学生が(12名)38%おり、(6)から昨年9月と比較して体重が減少した(減った・やや減った)学生も(14名)42%いる。また日用品の購入に困る、交通費などの移動手段に困ると回答した学生は両方の項目で3割程度いた。生活面で困難を抱えている学生がいることが推測される。

また、(8)看護や栄養の興味・関心に変化している(ある・ややある)学生は(24名)75%で、(7)学習意欲が低下している(ない・あまりない)と回答した学生が(19名)60%いた。今回の調査では経済的不安を持つ学生と学習意欲の低下した学生で、統計的に有意な関連性がみられなかった。しかし、経済的不安を抱えていることが影響している可能性もあり、相談体制を強化する必要がある。

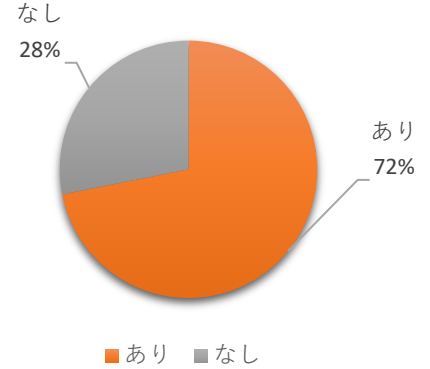
(1) 学科



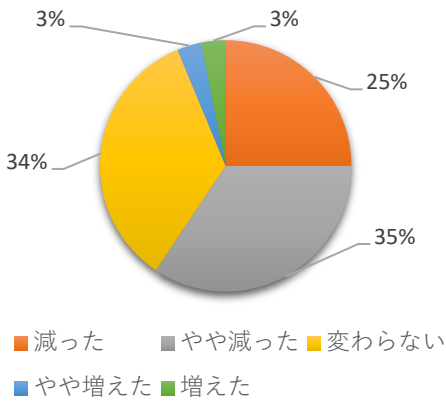
(2) 学年



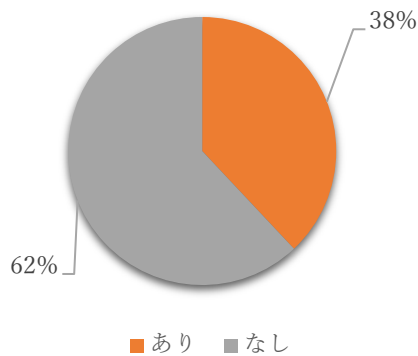
(3) 奨学金の受給



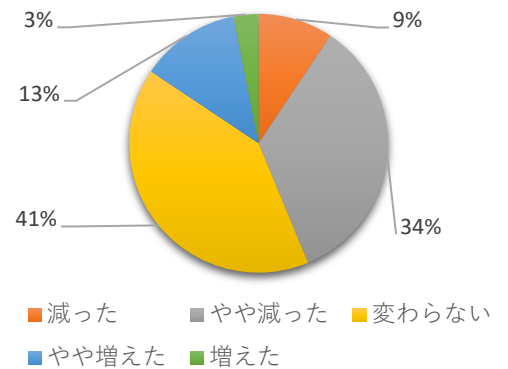
(4) 食事回数の変化



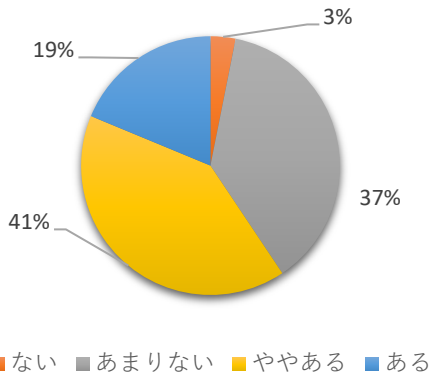
(5) 一回の食事量の減少



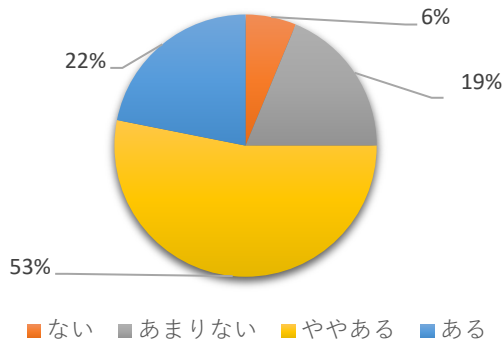
(6) 昨年9月と比較しての体重変化



(7) 学習意欲の変化



(8) 看護や栄養の興味・関心への変化



III. コロナ禍における生活への影響

学科・学年・学生の居住状況による生活への影響を分析した。栄養学科では「時間割の把握」、看護学科では「図書館の利用」に困難感が見られた。また、表1に挙げた項目は学年によって差があった。ただし、学年による相関関係は認められなかった。

一人暮らしの学生は家族と同居している学生より日用品の購入に困る状況があった。また、仕送りやアルバイト収入の減少があった学生は表2の通り日用品の購入や学習に必要な物品の購入に困っている実態が共通してあった。さらに、仕送りが減少した学生は1回の食事量の減少や睡眠の質(熟眠感)の低下がみられた。一方アルバイトで収入減少している学生は、仕送りが減少している学生とは異なり、インスタント食品・加工品の利用の増加や家族や友人とのコミュニケーション状況の変化がみられた。必要時、奨学金などの制度の紹介を行うと共に、食生活への支援も検討する必要がある。

現在、大学継続に経済的不安がある学生は睡眠状況に変化があることや学習意欲や看護や栄養に関する関心に変化していた。どのような変化かは今回のアンケートでは把握できなかったが、学習に向けての不安を抱えている可能性もあり個別相談など支援の強化を行う必要がある。

2021 年度 委員会等活動報告書

委員会等	FD 委員会
作成者	濱岡直裕

項 目	内 容
<p>【前年度】 次年度への 課題・改善方策 (Problem)</p>	<p>1) 本年度実施した FD・SD 研修会・学術セミナーは一定の成果が得られたと評価している。次年度テーマは「With Corona and Beyond Corona」として、コロナ禍のなかで得た新しい教育経験・知見を集約し、そこから有用性の高い情報を抽出し、FD・SD 活動のなかで共有することが望ましい。また、本学が発展を目指しているスポーツ栄養学に関して教職員の知識向上を図るため、専門家を招いて FD・SD 研修会を開催することが望ましい。新人教育研修の内容を FD・SD 研修会のなかに含めることについて、次年度以降の在り方を FD 委員会で継続して審議する必要がある。</p> <p>学術セミナーについては、「本学教員の一体化」（2021 年度大学運営に関する基本方針）の観点から、今後も看護、栄養、事務の三部門から講師を選ぶ形を維持する。学術セミナー講師に対して「学内共同研究へ発展させるための提案」を求めることも検討したい。</p> <p>2) 研修会・セミナーへの出席率改善や欠席者の視聴用データ視聴率向上のために、次年度以降も一週間程度のオンデマンド視聴期間を設けることを継続する。研修会と学術セミナーの終了時刻は、勤務時間内に収めることを継続する。</p> <p>3) 授業評価アンケート「予習・復習など授業時間以外に学習をした」の項目について、スコアの変化を観察していく。必要に応じて、スコア改善の具体的な方策を検討する。</p> <p>4) アンケート回収率については、次年度は対面授業となる予定であるため改善が期待できるが、科目担当教員への働きかけの強化、学生への働きかけを最終講義回よりも早い回から開始して学生に複数回働きかけるなどの工夫が必要である。今年度は Teams 学生掲示板にも回答の URL を掲載していたが、次年度の授業評価アンケートの回答については、他の通知に紛れることを防止するために、学生掲示板とは別に Teams 「授業評価アンケート」を設けて、学生がいつでもすべての科目の URL を確認しやすくするなどの工夫を行う。授業アンケートの意義についても Teams に掲載することとする。</p> <p>5) 今年度実施できなかった授業見学は、次年度は通年で実施する予定であり、アンケートも実施する。もし次年度、遠隔授業が主体となる場合には、遠隔授業の授業見学について検討する。</p> <p>6) 北海道 FD・SD フォーラムが開催される場合には、本学も貢献する。札幌大谷大学・札幌保健医療大学合同 SD 研修会など他大学との SD 共同開催については Web 開催も視野に入れて検討する（2021 年度大学運営に関する基本方針）。</p>
項 目	内 容
<p>今年度の活動計画 (目標・課題) (Plan)</p>	<p>1) 今年度テーマを「With Corona and Beyond Corona」として、コロナ禍とその後における新しい教育研究について考えることを念頭に活動する。本年度の FD・SD 研修会・学術セミナーは、各教職員が新型コロナウイルス感染症の正しい知識を身に付けるとともに、経験の差を超えてこれからの教育を考える上でその基本の考え方を確認することを主眼に、各事業を実施する。FD・SD 研修会は 5 回、学術セミナーは 3 回開催する。</p>

	<p>2) 研修会・学術セミナーの開催にあたっては、教職員の出席率改善につながるよう開催日時と方法について十分に検討する。</p> <p>3) 授業評価アンケートについては、今年度も継続して、各教員の積極的な取り組みを共有し、授業の質を向上する方策を検討する。</p> <p>4) 授業評価アンケート回収率向上のため、学生に対しては授業アンケートの意味を説明するとともに、各教員のさらなる理解を向上する機会を作る。授業評価アンケートの集計及びフィードバック方法について、よりよい形式を継続して検討する。</p> <p>5) 授業見学については、新型コロナウイルス感染症対策を考慮しながら実施の是非を検討する。</p> <p>6) 道内他大学との FD・SD 活動の連携については、機会に応じて検討する。</p>
<p>活 動 内 容 (Do)</p>	<p>1) 委員会は通算回 7 回開催した。5 月中旬以降は新型コロナウイルス感染症対策のため学生に対しても集合を自粛指示したことから、新型コロナウイルス感染症対応による教員の業務負担増のため同一時間に集合することが難しくなったことから、集合形式とメール形式をおりまぜて実施した。さらに集合形式の会議後の追加議論をメールで行うなど、各委員が時間を有効的に使用できる方法を模索した。FD・SD 研修会についても、同様の考え方から、Teams を利用した遠隔開催を主たる手法とした。</p> <p>FD・SD 研修会は、新型コロナウイルス感染症対策のために必要な最新知見を得る講演、新たな教学体制となったことを受けた看護・栄養両学科長による講演、本学が発展を目指しているスポーツ栄養学に関して教職員の知識向上を図る講演、これに加えて学園が主催する職員研修会の聴講の計 5 回開催した。</p> <p>学術セミナーは栄養、看護、事務から講師を推薦し計 3 回開催した。FD・SD 研修会及び学術セミナーの概要は以下のとおりである。</p> <p>○FD・SD 研修会</p> <p>第 1 回 FD 研修会 講 師：本学学長 小林清一先生 講演名：「新型コロナウイルスと変異株について」 2021 年 8 月 27 日公開 参加者数：37 名 (Teams を利用した遠隔開催・オンデマンド)</p> <p>第 2 回 FD 研修会 講 師：本学看護学科長 針金加代子先生 講演名：「学士教育（大学教育）において、不変なこととは何か —学生の学びを支えるために—」 2021 年 9 月 22 日公開 参加者数：33 名 (Teams を利用した遠隔開催・オンデマンド)</p> <p>第 3 回 FD 研修会 講 師：本学栄養学科長 山部秀子先生 講演名：「すべてのことにはときがある」 2021 年 11 月 4 日公開 参加者数：37 名 (Teams を利用した遠隔開催・オンデマンド)</p> <p>第 4 回 FD 研修会 講 師：同志社大学 石井好二郎先生 講演名：「運動と健康 Up To Date」 2021 年 11 月 26 日実施 参加者数：42 名 (Teams を利用した生配信の講演を講義室で視聴)</p> <p>第 5 回 SD 研修会 講 師：橋本聖子氏 講演名：「東京大会の成果と課題」 2022 年 3 月 17 日公開 参加者数：13 名 (学園教職員研修会での動画を Teams で配信・オンデマンド)</p>

○学術セミナー

第1回学術セミナー

講師：本学栄養学科 金高有里先生

講演名：「妊娠期栄養と OCM の重要性～DOHaD 研究における葉酸～」

2021年6月21日公開 参加者数：37名

(Teams を利用した遠隔開催・オンデマンド)

第2回学術セミナー

講師：本学看護学科 吉田祐子先生

講演名：「科研費の獲得について（自分の経験から）」

本学事務局総務課 駒澤尚忠課長代理

講演名：「科研費の事務手続き及び不正使用・不正行為について」

2021年8月27日公開 参加者数：40名

(Teams を利用した遠隔開催・オンデマンド)

第3回学術セミナー

講師：本学看護学科 河崎和子先生

講演名：「母子保健に関する研究と地域における活動」

2022年2月21日公開 参加者数：20名

(Teams を利用した遠隔開催・オンデマンド)

2) FD・SD 研修会と学術セミナーは、第4回を除きオンデマンドとした。また FD・SD 研修会のうち4回を FD 研修会として、1回を SD 研修会として実施した。

全ての回について、昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症対策を考慮して、マイクロソフト社の Teams を利用し、Web を経由した講演会形式とした。第1回～第3回及び第5回 FD 研修会と第1回～第3回学術セミナーは、教職員が自分の時間に合わせて視聴することが出来るオンデマンド方式で実施した。公開後の視聴推奨期間を土曜日曜を含む10日間程度に設定し、参加人数が少ない際には、教職員へのアナウンスを行うとともに視聴期間の延長も行った。視聴後にはアンケートを Teams 上で回答する方式をとり、参加者集計は全聴取期間を合算した。

3) 授業評価アンケートは、昨年度と同様に QR コードを利用した Web 経由で収集する形式とした。よりよいアンケートを目指して、今年度の結果をみながら授業評価アンケートの質問項目を見直すことにした。教室環境や遠隔授業の通信状況など学習にまつわる環境に関する事項、学生自身の学習態度に関する事項を整理し、授業そのものに対する質問事項に集約する方向性を確認した。

授業評価アンケートの結果は、科目別・項目別平均点、経年変化グラフ、自由記載意見を集約して、科目担当教員に配布するとともに、改善点・工夫点・その他の意見を回収して、「学生の授業評価アンケート結果及び学生の授業評価に対する科目担当教員の改善点」として大学共有フォルダに保存した。冊子印刷物は今後できあがり次第、教員、学生ともに確認できるよう、図書館で閲覧可能にする。

4) 授業評価アンケートでは、回収率向上のため、2学科とも学期当初のガイダンスや、1年次生においては学びの理解の講義を通じて学生に対しアンケートの意義を伝え、回答を促した。また、教員に対しては、授業の最終回の最後に学生がアンケート回答する時間を確保して戴くお願いを委員長名で発出することとした。

授業評価アンケートの集約方法は、ほぼ従前通りとしたが、学生の自由記載意見の中に個人が特定可能な表現が含まれることから、個人名を伏せ字（該当文字を■に変換）とする修正を委員会が施すこととした。ただし、受講学生がごく少数のため意見者が想像できるケースについては、貴重な意見であることを尊重し、記載の意見をそのまま集約することとした。また、記載欄に「なし」「特になし」等については拾い出し集約から外すこととした。

	<p>5) 授業見学は新型コロナウイルス感染症対策を考慮して、実施することを見送った。</p> <p>6) 道内他大学との FD・SD 活動の連携については、従前行ってきた札幌大谷大学・札幌保健医療大学合同 SD 研修会が、札幌大谷大学からの意向で事業終了となり、第 5 回 FD・SD 研修会を共同開催から本学の単独開催 SD 研修会に変更した。</p>
<p>活動内容の評価 (Check)</p>	<p>1) 今年度は 7 回の委員会を開催したが、新型コロナウイルス感染症対応で各教員の業務が例年より多忙になっていること、教員自身の感染対策のことより、リモート開催を検討したが委員全員の日程確保が難しく、一部の回をメール開催として、全員宛のメールで議論を行った。タイムリーな議論のやりとりはできないデメリットもあったが、各委員が自身の都合の良いタイミングで他者の意見をじっくり検討し、各自が意見を整理した上で文字をもって発信することは、議論が明確になり有意義であったと考えられ、メール開催で検討不十分となった案件はほとんどなかったと思われた。</p> <p>FD・SD 研修会、学術セミナーについては、前年度以来、各教職員は新型コロナウイルス感染症対応で業務が膨大となっている中、例年通り各研修会や学術セミナーを開催でき、様々な知見を深く学ぶ機会を作ることができた点は大きな意義があったと評価できる。特に教員も相当数が入れ替わってきており、学長、各学科長から最新知見や教育研究に対する考え方などについて講演を戴けたことは大変有意義であった。</p> <p>2) 今年度の実施形式は、4 月の時点で新型コロナウイルス感染症の流行状況について見通しが悪く、集合形式での開催が年間を通じて見通せず、また学生に対して可能な限り大人数が集合しないよう求めていたこと、新型コロナウイルス感染症対策による教員の負担増なども考慮して、日時と講義室を設定した従来の講演会方式ではなく、全ての回を昨年度と同様に Teams を用いたオンライン開催とした。</p> <p>講演者は自身の好みの時間に講演を準備し、自室でひとりで収録していただき、その点ではストレスや感染リスクは軽減されたと考えられた。また聴取者も自身の好みの時間に講演を自身一人で聴取でき、ストレスや感染リスクは軽減されたと考えられた。</p> <p>また、できるだけ多くの教職員に視聴して戴くため、推奨視聴期間を 10 日間程度と広げ、また、必要時は期間を延長したことで、それぞれの予定に合わせて研修を受けられるようになった。</p> <p>今年度の実施形式に対する課題としては、いつでも聴取可能であることが聴取の失念や日程の先送りにつながった可能性があり、従前の集合形式に比べ、オンライン・オンデマンド方式が参加率の向上に貢献することはなかったことがあげられる。</p> <p>しかし、オンラインではあるがリアルタイム集合形式で行った第 4 回 FD 研修会は、オンデマンド開催より参加率が高く、集合形式による講演が重要かつ効果的であることが示された。講演者が実際に来られなくても、リアルタイムでの集合形式が良い方法であると考えられた。</p> <p>各研修会やセミナーは、アンケートで「参考になった」(「とても参考になった」、「参考になった」、「やや参考になった」の合計)と回答した参加者が、90%以上と非常に高い評価を得たと評価している。建設的な意見とともに、次につながる感想もアンケートに記されており、教職員の資質向上にむけたきっかけ作りに貢献していると評価した。</p> <p>視聴後には講演の内容や設定時期などに関するアンケートに回答いただいたほか、講演者への質問などは Teams 上か講演者に直接尋ねる方式とした。しかし Teams 上での質疑はほとんどなく、講演者との直接のやりとりになったことが推定された。一方で、外部講師に講演を依頼した第 4 回 FD 研修会は、学内講義室に教職員が集まり、Teams を用いて同志社大学・石井好二郎先生にご講演戴くことができた。感染症対策の時期であったため、講演者は来学せず、教職員と直接会うことは出来な</p>

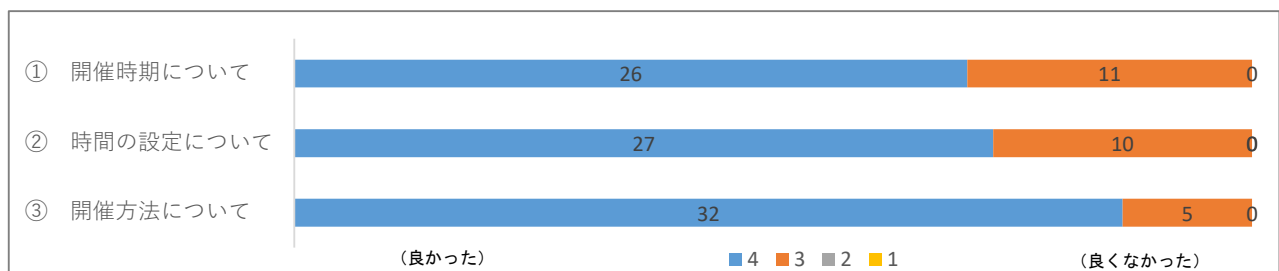
	<p>ったが、リアルタイム（生配信）でかつすべての教職員が同時に講演を聴取することができただけでなく、積極的な質疑討論もあり、有意義な開催となったと評価した。</p> <p>3) 授業評価アンケートでは、実施意義を高めるため、かつて実施されたガイダンス時での説明や、各講義の最終回に委員が説明を実施していたことを踏まえて、機会を見つけてその都度にアンケートの必要性和回答の依頼を学生に提示した。一方で、アンケート項目を整理し、回答しやすさを目指すとして、スリム化することが決定できたと評価した。</p> <p>4) 授業評価アンケートは、道内のどの大学でも Web で回答を得る形式に変更した以降の回収率の低下がみられ、このことは本学においても同じような状況であった。このため、回収率向上については次年度以降も継続して検討する事項と評価した。授業評価アンケートに記載された意見に関するとりまとめ方法の検討では、作業が膨大となっているが、個人情報保護や個人攻撃と、生の意見の尊重と情報開示の間の中庸を得ることが課題となった。委員会としては、個人の特定を避け、誹謗中傷となる事項は削除する以外は原文通りの記載を集約する方針を協議することが出来、有意義であったと評価した。</p> <p>授業評価アンケートのフィードバック方法では、閲覧できる冊子体のほかに、Web 上での公表を検討することが提案されたが、検討未了のため次年度に継続検討する課題となった。</p> <p>5) 授業見学は感染症対策を考慮すると、継続実施の可否が検討必要とみられたため、次年度に適宜検討する課題とした。</p> <p>6) 他大学との連携は、その方法を検討しつつも、研修会等は当面単独開催することが適切と考えられた。</p>
<p>次年度への課題・改善方策 (Action)</p>	<p>1) 本年度実施した FD・SD 研修会・学術セミナーは一定の成果が得られたと評価している。引き続き、様々な知見を深く学ぶ機会を作る必要性はあり、また新しい教育方法に対応することも必要である。次年度テーマは「次世代の教育を考える」として、これまでの期間で得られた経験と明らかになった課題を解決するため、FD・SD の活動を通じて新しい情報や考え方を各教職員が共有し、次の教育研究に生かすことを主眼とする。</p> <p>FD・SD 研修会では、これまでの新型コロナウイルス感染症対策で得られた教育方法を踏まえて、新しい次の世代の教育方法や、それにまつわる教育活動に関する知見を、学外の様々な専門家を招いて開催するよう務める。</p> <p>学術セミナーについては、これまで実施している形式を踏襲し、学内教職員間の意識の共有化を促すため、今後も看護、栄養、事務の三部門から講師を選ぶ形を維持する。互いによく知ることから学内連携につながることを目指す。</p> <p>2) 研修会等の参加率向上については、リアルタイム集合形式と画像配信を組み合わせる方式を活用し、オンデマンド開催より高い参加率を目指す。</p> <p>3) 授業評価アンケートは、教員の教育方法向上に有用であり、継続する。教育向上に向けて授業自体に対する質問事項に集約することを引き続き検討する。</p> <p>4) 授業評価アンケート回収率向上のために、学生への呼びかけ方、アンケート項目や、回答を得る方法について検討を重ねる。あわせて、結果の開示方法と時期について、よりよいアンケートとなるよう検討する。</p> <p>5) 授業見学については、依然として感染症問題が残っているため、各科目における授業の進め方を知る別の方法も検討し、改めて実施の是非を検討する。</p>

2021年度 第1回 FD・SD研修会 アンケート結果

配信日	2021年8月27日（金）～9月6日（月）			開催形式	遠隔 オンデマンド		
テーマ：「新型コロナウイルスと変異株について」 講師：札幌保健医療大学 小林 清一 学長		看護学科	栄養学科	事務局	計		
	対象者	31名	21名	25名	77名		
	視聴数	19名	10名	8名	37名		
	全視聴率（教員のみ）	56%		(52名中 29名)			
	全視聴率	48%		(77名中 37名)			

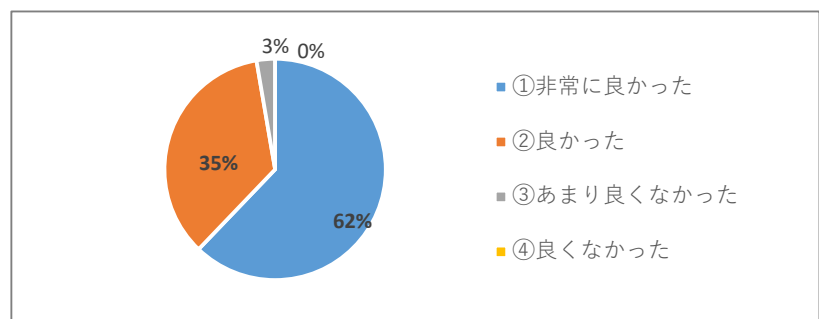
	教員	職員	計	回答率
アンケート回答者数	29名	8名	37名	100%

項目	4 (良かった)	3	2	1 (良くなかった)
① 開催時期について	26	11	0	0
② 時間の設定について	27	10	0	0
③ 開催方法について	32	5	0	0



今後の教育・業務の参考になりましたか

①非常に良かった	23
②良かった	13
③あまり良くなかった	1
④良くなかった	0

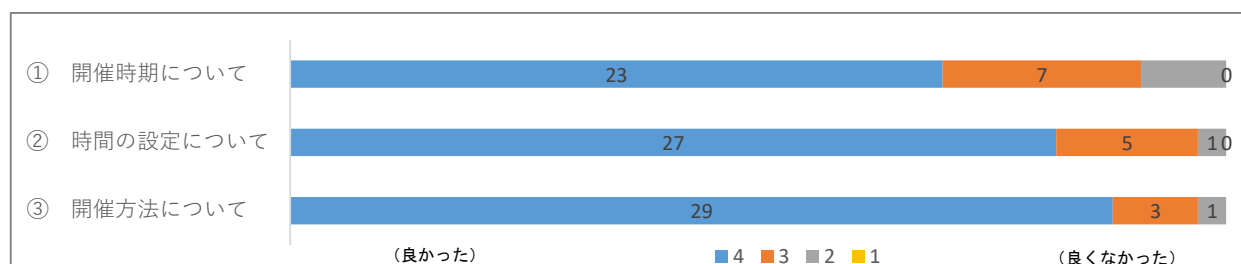


2021年度 第2回 FD・SD研修会 アンケート結果

配信日	2021年9月22日（水）～10月8日（金）	開催形式	遠隔 オンデマンド		
テーマ：「学士教育（大学教育）において、不変なこととは何か―学生の学びを支えるために―」 講師：札幌保健医療大学 保健医療学部 看護学科 学科長 針金 佳代子 先生		看護学科	栄養学科	事務局	計
	対象者	30名	21名	22名	73名
	視聴数	17名	11名	5名	33名
	全視聴率(教員のみ)	55%		(51名中 28名)	
	全視聴率	45%		(73名中 33名)	

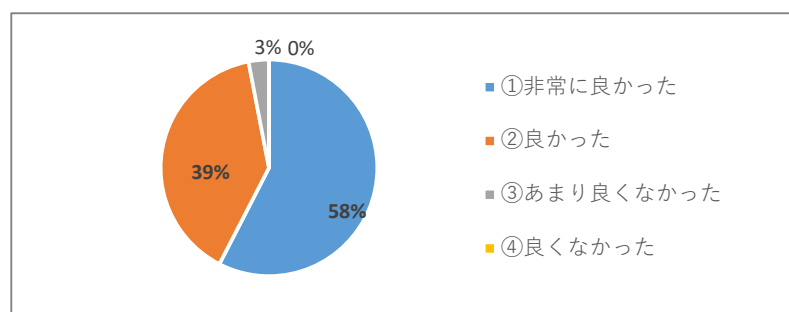
	教員	職員	計	回答率
アンケート回答者数	28名	5名	33名	100%

項目	4 (良かった)	3	2	1 (良くなかった)
① 開催時期について	23	7	3	0
② 時間の設定について	27	5	1	0
③ 開催方法について	29	3	1	0



今後の教育・業務の参考になりましたか

①非常に良かった	19
②良かった	13
③あまり良くなかった	1
④良くなかった	0

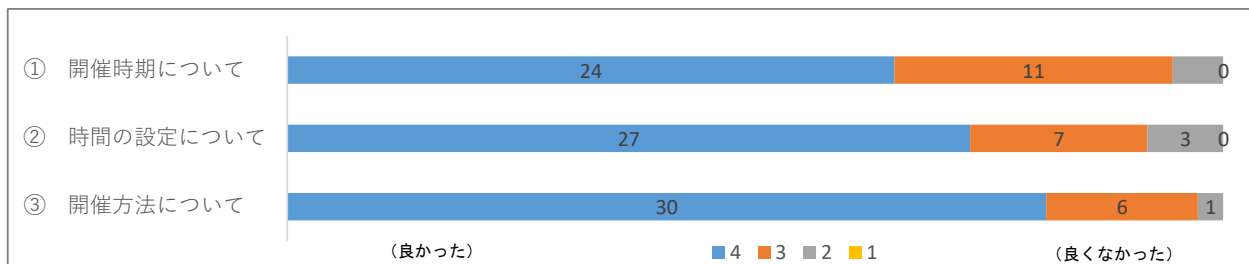


2021年度 第3回 FD・SD研修会 アンケート結果

配信日	2021年11月4日（木）～11月15日（月）	開催形式	遠隔 オンデマンド		
テーマ：「すべてのことにはときがある」 講師：札幌保健医療大学 保健医療学部 栄養学科 学科長 山部 秀子 先生		看護学科	栄養学科	事務局	計
	対象者	30名	21名	22名	73名
	視聴数	18名	14名	5名	37名
	全視聴率(教員のみ)	63%		(51名中 32名)	
	全視聴率	51%		(73名中 37名)	

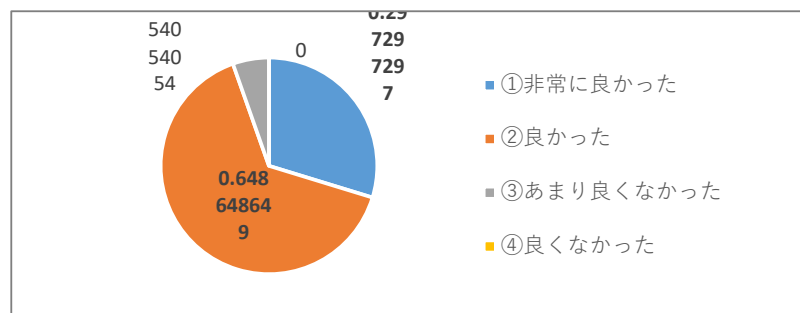
	教員	職員	計	回答率
アンケート回答者数	32名	5名	37名	100%

項目	4 (良かった)	3	2	1 (良くなかった)
① 開催時期について	24	11	2	0
② 時間の設定について	27	7	3	0
③ 開催方法について	30	6	1	0



今後の教育・業務の参考になりましたか

①非常に良かった	11
②良かった	24
③あまり良くなかった	2
④良くなかった	0

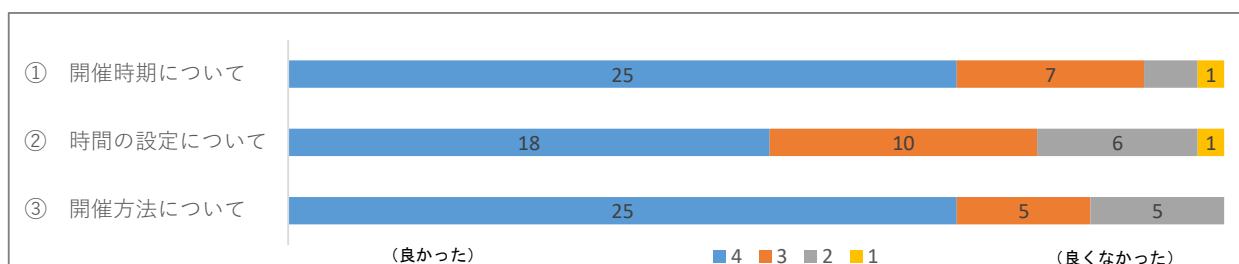


2021年度 第4回 FD・SD研修会 アンケート結果

配信日	2021年11月26日（金）	開催形式	オンライン（於：5314講義室）		
テーマ：「運動と健康Up To Date」 講師：同志社大学 スポーツ健康科学部 教授 石井 好二郎 先生		看護学科	栄養学科	事務局	計
	対象者	30名	21名	22名	73名
	参加者	17名	12名	13名	42名
	参加者(教員のみ)	57%		(51名中 29名)	
	全出席率	58%		(73名中 42名)	

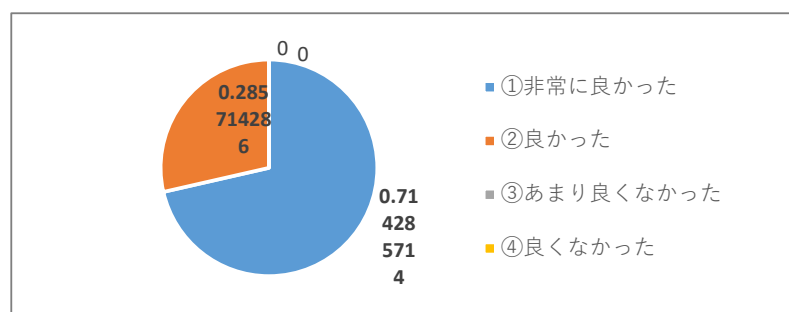
	教員	職員	計	回答率
アンケート回答者数	26名	9名	35名	83%

項目	4 (良かった)	3	2	1 (良くなかった)
① 開催時期について	25	7	2	1
② 時間の設定について	18	10	6	1
③ 開催方法について	25	5	5	0



今後の教育・業務の参考になりましたか

①非常に良かった	25
②良かった	10
③あまり良くなかった	0
④良くなかった	0



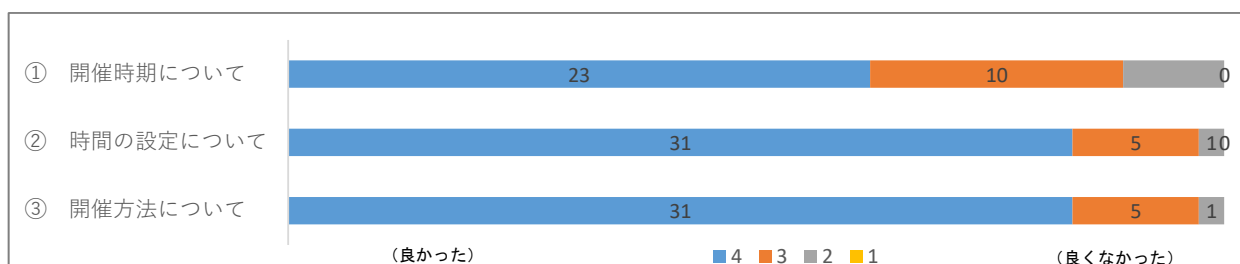
2021年度 第1回学術セミナー アンケート結果

配信日	2021年6月21日（月）～2021年6月25日（金）	開催形式	遠隔 オンデマンド		
テーマ：「妊娠期栄養とOCMの重要性 ～DOHaD研究における葉酸～」 講師：札幌保健医療大学 栄養学科 准教授 金高 有里 先生		看護学科	栄養学科	事務局	計
	対象者	31名	21名	25名	77名
	視聴数	18名	14名	5名	37名
	全視聴率(教員のみ)	62%		(52名中 32名)	
	全視聴率	48%		(77名中 37名)	

	教員	職員	計	回答率
アンケート回答者数	32名	5名	37名	100%

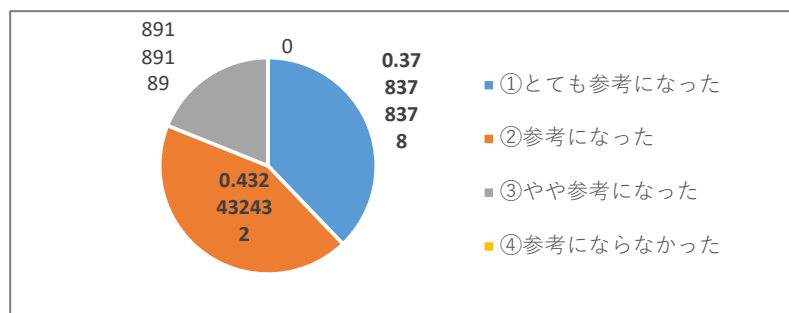
視聴した月日
6/21、22、23、24、25、27、28、29

項目	4 (良かった)	3	2	1 (良くなかった)
① 開催時期について	23	10	4	0
② 時間の設定について	31	5	1	0
③ 開催方法について	31	5	1	0



今後の教育・業務の参考になりましたか

①とても参考になった	14
②参考になった	16
③やや参考になった	7
④参考にならなかった	0



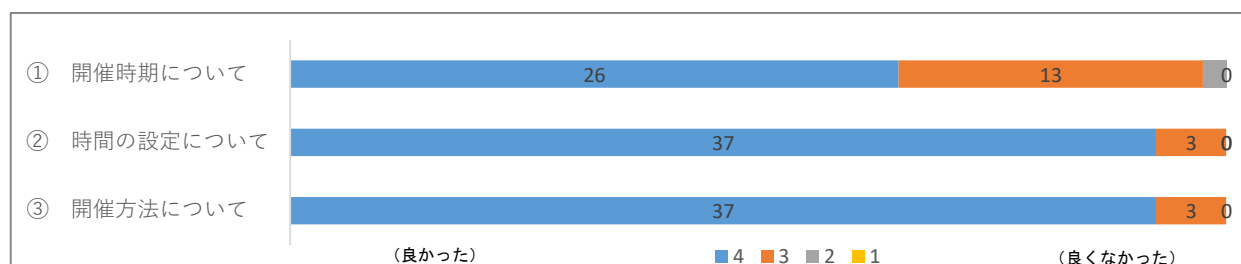
2021年度 第2回学術セミナー アンケート結果

配信日	2021年8月27日（金）～2021年9月6日（月）	開催形式	遠隔 オンデマンド			
テーマ：「科研費について」 ①科研費の事務手続きおよび不正使用・不正行為について ②科研費の獲得について（自分の経験から） 講師：札幌保健医療大学 ①総務課 駒澤 尚忠 課長代理 ②看護学科 講師 吉田 祐子 先生		看護学科	栄養学科	事務局	計	
	対象者	31名	21名	25名	77名	
	視聴数	20名	15名	5名	40名	
	全視聴率(教員のみ)	67%		(52名中 35名)		
	全視聴率	52%		(77名中 40名)		

	教員	職員	計	回答率
アンケート回答者数	35名	5名	40名	100%

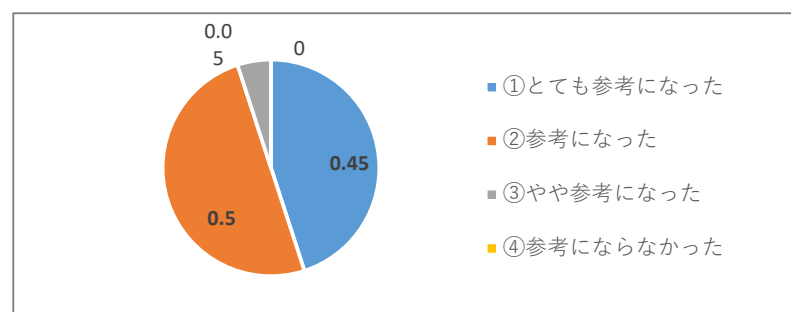
視聴した月日
9/2、3、5、6、7、8、10、13、14、15

項目	4 (良かった)	3	2	1 (良くなかった)
① 開催時期について	26	13	1	0
② 時間の設定について	37	3	0	0
③ 開催方法について	37	3	0	0



今後の教育・業務の参考になりましたか

①とても参考になった	18
②参考になった	20
③やや参考になった	2
④参考にならなかった	0



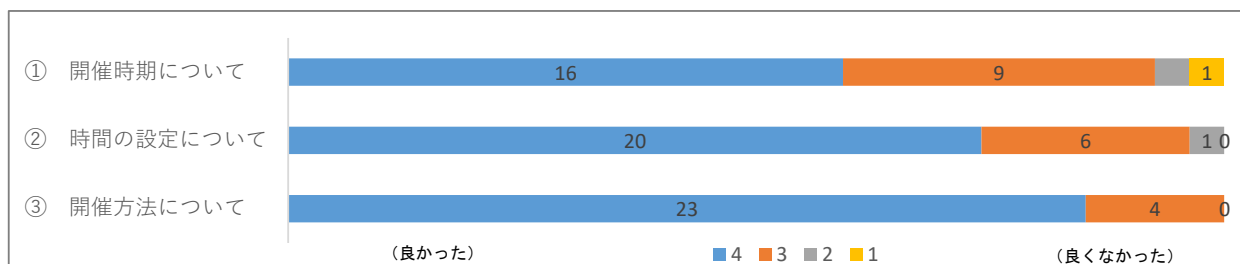
2021年度 第3回学術セミナー アンケート結果

配信日	2022年2月24日（木）～2022年3月13日（日）	開催形式	遠隔 オンデマンド		
テーマ：「母子保健に関する研究と地域における活動」 講師：札幌保健医療大学 看護学科 教授 河崎 和子 先生		看護学科	栄養学科	事務局	計
	対象者	31名	21名	25名	77名
	視聴数	15名	9名	3名	27名
	全視聴率(教員のみ)	46%		(52名中 24名)	
	全視聴率	35%		(77名中 27名)	

	教員	職員	計	回答率
アンケート回答者数	24名	3名	27名	100%

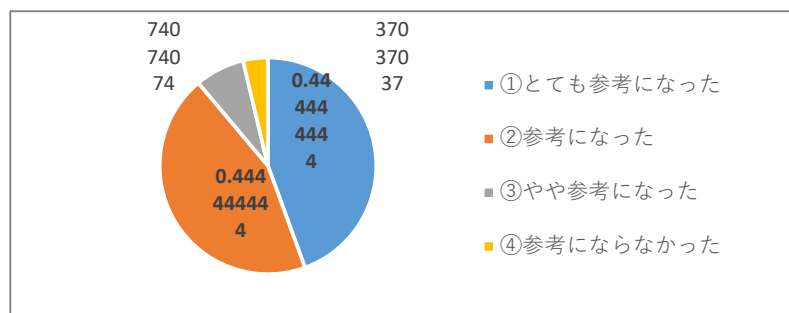
視聴した月日
2/24, 25, 26, 28 3/1, 2, 3, 4, 7, 8, 9, 10, 11, 13

項目	4 (良かった)	3	2	1 (良くなかった)
① 開催時期について	16	9	1	1
② 時間の設定について	20	6	1	0
③ 開催方法について	23	4	0	0



今後の教育・業務の参考になりましたか

①とても参考になった	12
②参考になった	12
③やや参考になった	2
④参考にならなかった	1



2021年度前期 授業評価アンケート科目・項目別平均点 【1年次】(実習科目を除く)

Table with columns for 'No.' (1-15), '授業科目' (科目), and 'アンケート項目'. It contains 15 rows of evaluation data for various subjects like '理学' (Physics) and '看護学' (Nursing), including scores and percentages.

※ 点数は、4点を満点とし、科目・項目別の平均点は、小数第2位以下四捨五入。学年科目平均点は、小数第3位以下四捨五入。回収率は、小数第2位以下四捨五入。

★ ☆ 合同科目、学科別に集計。

2021年度前期 授業評価アンケート科目・項目別平均点 【2年次】(実習科目を除く)

No.	授業科目 アンケート項目	看護学科										栄養学科										看護・栄養学科 全学年科目平均 (前期)	栄養学科 (前期)科目平均	栄養学科 (全学期)科目平均	看護・栄養学科 全学年科目平均 (前期)													
		英語Ⅲ(読解)	★社会貢献と活動	★生活環境論	薬理学	栄養代謝学	臨床心理学	疾病治療論Ⅰ	★生命倫理	看護技術論Ⅱ	地域保健医療看護論	高齢者看護学概論	小児看護学概論	母性看護学概論	看護学科 (前期)学年科目平均	看護学科 (前期)科目平均	英語Ⅲ(読解)	★社会貢献と活動	★生活環境論	★現代看護1年論と合同	★生命倫理					医療概論	公衆衛生学	形態機能学実習Ⅰ	病理学	生化学Ⅱ	生化学実験	食品衛生学	食品衛生学実験	基礎栄養学実験	★心用栄養学Ⅰ	★栄養教育論Ⅰ	給食経営管理論Ⅱ	教育課程論
1	この授業に意欲的に取り組めましたか	3.9	3.5	3.4	3.7	3.5	3.8	3.6	3.5	3.7	3.6	3.6	3.6	3.62	3.60	3.9	3.2	3.6	3.3	4.0	3.5	3.6	3.6	3.5	3.4	3.7	3.4	3.8	3.4	3.4	3.7	3.5	2.5	2.5	3.3	3.44	3.47	3.53
2	この授業の予習・復習を行いましたか(授業時間以外の自学自習を行いましたか※課題を含む)	3.8	2.9	2.7	2.9	2.8	2.5	2.7	3.0	3.0	2.9	2.9	2.88	2.98	3.5	3.0	3.2	2.8	4.0	2.6	3.3	3.3	3.1	3.3	3.3	2.7	3.2	2.9	2.9	3.2	3.1	1.5	1.5	2.3	2.94	2.96	2.97	
3	自分の学習態度は良かったと思いますか(私語をしない、遅刻しないなど)	4.0	3.5	3.7	3.6	3.7	3.9	3.5	3.8	3.4	3.5	3.6	3.66	3.61	3.7	3.3	3.6	3.4	4.0	3.6	3.6	3.6	3.5	3.4	3.6	3.3	3.8	3.5	3.5	3.5	3.4	3.0	3.0	3.3	3.48	3.52	3.56	
4	この授業は授業計画変更により新たに示されたシラバスまたは学習要項に基づいて行われましたか	3.9	3.3	3.7	3.7	3.7	3.8	3.8	3.6	3.6	3.7	3.68	3.69	4.0	3.4	3.6	3.7	4.0	3.8	3.8	3.8	3.8	3.7	3.7	3.7	3.7	3.7	3.7	3.7	3.4	2.5	2.5	3.5	3.57	3.50	3.58		
5	教員の声、話し方は聞き取りやすかったですか	4.0	3.4	3.8	3.7	3.6	3.9	3.8	4.0	3.7	3.5	3.6	3.73	3.60	4.0	3.5	3.8	3.4	4.0	3.7	3.8	3.4	3.6	3.5	3.5	3.7	3.6	3.3	3.5	3.8	3.4	3.0	3.0	3.0	3.53	3.39	3.49	
6	板書やスクリーン、パワーポイント、DVDなどは見やすかったですか	4.0	3.2	3.7	3.8	3.6	3.9	3.7	4.0	3.7	3.6	3.68	3.62	4.0	3.1	3.7	3.7	4.0	3.8	3.7	3.7	3.5	3.6	3.2	3.7	3.6	3.4	3.4	3.7	3.4	3.0	3.0	2.9	3.49	3.43	3.52		
7	教員は学生の質問、発言に適切に対応していたと思いますか(メールでの質問も含む)	4.0	3.3	3.6	3.5	3.7	3.7	3.9	3.7	3.0	3.5	3.62	3.65	4.0	3.6	3.8	3.9	4.0	3.7	3.7	3.7	3.5	3.8	3.7	3.7	3.8	3.5	3.4	3.9	3.2	2.5	3.0	3.7	3.61	3.58	3.61		
8	授業の内容や要点はよく理解できましたか	3.8	3.2	3.6	3.5	3.6	3.7	3.5	3.8	3.4	3.1	3.55	3.50	3.8	3.4	3.5	3.5	4.0	3.5	3.7	3.5	3.4	3.2	3.3	3.5	3.7	3.5	3.2	3.6	3.4	2.5	2.0	3.3	3.38	3.34	3.41		
9	教科書や補助教材は授業内容の理解に役立ちましたか	3.9	3.1	3.5	3.7	3.6	3.6	3.7	3.5	3.7	3.1	3.56	3.52	3.9	3.5	3.7	3.5	4.0	3.4	3.7	3.3	3.6	3.6	3.3	3.6	3.7	3.5	3.8	3.5	2.0	2.5	3.0	3.43	3.43	3.47			
10	事前に授業のイメージができましたか(初回に提示された授業内容・配付された資料はわかりやすかったですか)	3.9	3.1	3.4	3.6	3.6	3.5	3.6	3.4	3.4	3.2	3.50	3.43	3.8	3.2	3.5	3.5	4.0	3.7	3.7	3.7	3.5	3.6	3.4	3.5	3.7	3.0	3.4	3.5	3.4	1.5	1.5	2.7	3.29	3.27	3.34		
11	この授業によって、知識が得られ自分の考えを深めることができましたか	3.9	3.2	3.5	3.6	3.6	3.7	3.6	3.8	3.7	3.3	3.63	3.62	3.6	3.4	3.6	3.6	4.0	3.5	3.7	3.5	3.7	3.4	3.6	3.5	3.8	3.5	3.7	3.4	2.5	2.0	3.0	3.43	3.45	3.53			
12	この授業によって、刺激を受けさらに学びを広げたいと思いましたが	3.9	3.3	3.4	3.5	3.6	3.6	3.7	3.6	3.2	3.7	3.58	3.52	3.5	3.3	3.6	3.2	4.0	3.4	3.6	3.6	3.4	3.4	3.5	3.5	3.8	3.4	3.5	3.5	2.5	2.5	3.0	3.40	3.32	3.41			
13	この授業によって、刺激を受けさらに学びを広げたいと思いましたが	3.9	3.3	3.7	3.8	3.8	3.9	3.7	3.9	3.7	3.7	3.74	3.70	3.8	3.3	3.7	3.5	3.0	3.6	3.7	3.6	3.7	3.6	3.6	3.6	3.7	3.2	3.6	3.6	3.5	3.0	2.5	3.4	3.46	3.48	3.58		
14	この授業の人的環境は学習する上で適切だったと思いますか(人的環境とは私語・周囲の騒音など)	3.8	3.5	3.7	3.8	3.8	3.9	3.8	4.0	3.8	3.6	3.77	3.73	3.9	3.4	3.6	3.5	4.0	3.8	3.7	3.5	3.8	3.7	3.6	3.7	3.7	3.6	3.7	3.6	3.0	3.0	3.6	3.61	3.58	3.65			
15	総合的に判断して、この授業は満足できるものでしたか	4.0	3.3	3.6	3.7	3.7	3.8	3.7	3.9	3.6	3.0	3.66	3.64	3.8	3.4	3.8	3.5	4.0	3.7	3.7	3.5	3.7	3.4	3.4	3.7	3.8	3.4	3.4	3.8	2.0	2.5	3.1	3.45	3.45	3.54			
平均		3.9	3.3	3.5	3.6	3.6	3.7	3.6	3.7	3.6	3.3	3.59	3.56	3.8	3.3	3.6	3.5	3.9	3.6	3.7	3.5	3.6	3.5	3.5	3.7	3.7	3.4	3.4	3.7	3.4	2.5	2.5	3.1	3.43	3.41	3.48		
回収率		42.3%	55.6%	47.7%	40.7%	42.6%	63.9%	88.0%	57.1%	91.7%	58.7%	48.6%	38.5%	58.1%	45.8%	35.1%	43.6%	29.5%	50.0%	72.0%	66.7%	53.8%	74.4%	65.9%	41.0%	92.1%	51.3%	63.6%	84.6%	63.6%	81.8%	15.4%	15.4%	76.9%	56.1%	63.1%	64.1%	

※ 点数は、4点を満点とした科目。項目別の平均点は、小数点第2位以下四捨五入。学年科目平均点は、小数点第3位以下四捨五入。回収率は、小数点第2位以下四捨五入。

★ ☆ 合同科目、学科別に集計。

2021年度前期 授業評価アンケート科目・項目別平均点 【3年次】(実習科目を除く)

No.	授業科目 アンケート項目	看護学科										栄養学科										看護学科 (全学年科目平均 前期)	栄養学科 (全学年科目平均 前期)	看護・栄養学科 (全学年科目平均 前期)
		看護学										栄養学												
		疫学	成人看護活動論Ⅲ	高齢者看護活動論Ⅱ	小児看護活動論Ⅱ	母性看護活動論Ⅱ	精神看護学概論	医療安全論	公衆衛生看護学概論	看護学(3 前期次科目平均)	看護学 (全学年科目平均 前期)	病態診療学Ⅱ	食品科学実験Ⅱ	応用栄養学Ⅲ	栄養教育論Ⅲ	栄養力カウンセリング演習	食生活論	臨床栄養学Ⅱ	臨床栄養学実習Ⅰ	公衆栄養学Ⅰ	総合演習Ⅰ (今年度は後期に終了) 注			
1	この授業に意欲的に取り組みましたか	3.6	3.8	3.7	3.8	3.6	3.3	3.3	3.0	3.51	3.4	3.7	3.6	3.6	3.6	3.2	3.4	3.4	3.5	2.8	3.42	3.53		
2	この授業の予習・復習を行いましたか(授業時間以外の自学自習を行いましたか※課題を含む)	3.2	3.4	3.4	3.2	3.3	2.4	2.8	2.1	2.98	3.2	3.5	3.3	2.9	3.1	2.6	3.1	3.1	3.3	2.4	3.05	2.97		
3	自分の学習態度は良かったと思いますか(私語をしない、遅刻しないなど)	3.5	3.7	3.6	3.8	3.8	3.4	3.6	2.9	3.54	3.2	3.6	3.4	3.4	3.4	3.5	3.4	3.6	3.5	3.2	3.44	3.56		
5	この授業は授業計画変更により新たに示されたシラバスまたは学習要項に基づいて行われましたか	3.7	3.8	3.9	3.7	3.7	3.5	3.6	3.4	3.66	3.3	3.3	3.4	3.6	3.5	3.2	3.7	3.1	3.3	2.4	3.28	3.58		
6	教員の声、話し方は聞き取りやすかったですか	3.7	3.7	3.8	3.7	3.6	3.5	3.4	3.1	3.56	3.4	3.6	3.6	3.8	3.4	3.2	3.6	3.4	3.7	1.8	3.35	3.49		
8	板書やスクリーン、パワーポイント、DVDなどは見やすかったですか	3.6	3.7	3.8	3.7	3.6	3.1	3.4	3.2	3.51	3.5	3.6	3.5	3.8	3.4	2.8	3.4	3.3	3.4	2.4	3.31	3.52		
10	教員は学生の質問、発言に適切に対応していたと思いますか(メールでの質問も含む)	3.8	3.9	4.0	3.7	3.6	3.4	3.5	3.3	3.65	3.5	3.7	3.6	3.8	3.4	3.5	3.6	3.4	3.6	2.2	3.43	3.61		
11	授業の内容や要点はよく理解できましたか	3.5	3.8	3.8	3.5	3.5	3.0	3.3	2.9	3.41	3.5	3.6	3.6	3.8	3.6	3.4	3.5	3.4	3.5	2.0	3.39	3.41		
12	教科書や補助教材は授業内容の理解に役立ちましたか	3.6	3.6	3.8	3.6	3.6	3.2	3.5	3.3	3.53	3.5	3.7	3.6	3.8	3.4	3.3	3.5	3.3	3.7	2.6	3.44	3.47		
13	事前に授業のイメージができましたか(初回に提示された授業内容・配付された資料はわかりやすかったですか)	3.6	3.6	3.6	3.5	3.5	3.1	3.5	3.0	3.43	3.5	3.5	3.5	3.8	3.1	3.4	3.4	3.3	3.5	2.4	3.35	3.34		
14	この授業によって、知識が得られ自分の考えを深めることができましたか	3.5	3.8	3.9	3.7	3.6	3.3	3.7	3.2	3.59	3.5	3.8	3.6	3.7	3.5	3.2	3.4	3.3	3.7	2.4	3.41	3.53		
15	この授業によって、刺激を受けさらに学びを上げたいと思いましたが	3.3	3.7	3.7	3.5	3.4	3.3	3.3	2.9	3.39	3.4	3.8	3.5	3.7	3.1	3.3	3.4	3.4	3.4	2.6	3.36	3.41		
16	この授業によって、刺激を受けさらに学びを上げたいと思いましたが	3.8	3.6	3.9	3.8	3.8	3.5	3.6	3.3	3.66	3.4	3.5	3.6	3.8	3.3	3.5	3.4	3.3	3.5	2.6	3.39	3.58		
18	この授業の人的環境は学習する上で適切だったと思いますか(人的環境とは私語・周囲の騒音など)	3.8	3.7	3.9	3.7	3.6	3.5	3.4	3.4	3.63	3.5	3.5	3.6	3.8	3.4	3.5	3.5	3.4	3.7	2.6	3.45	3.65		
19	総合的に判断して、この授業は満足できるものでしたか	3.6	3.8	3.8	3.8	3.6	3.2	3.5	3.1	3.55	3.5	3.8	3.7	3.6	3.5	3.3	3.6	3.6	3.7	2.4	3.47	3.54		
平均		3.6	3.7	3.8	3.6	3.6	3.2	3.4	3.1	3.51	3.4	3.6	3.6	3.7	3.4	3.3	3.5	3.4	3.5	2.5	3.37	3.48		
回収率		39.6%	51.0%	24.8%	22.8%	16.8%	34.7%	17.8%	57.9%	65.3%	63.2%	42.1%	72.7%	55.2%	41.9%	84.2%	18.4%	36.4%	31.3%	47.4%	64.1%			

※ 点数は、4点を満点とした科目。項目別の平均点は、小教点第3位以下四捨五入。学年科目平均点は、小教点第2位以下四捨五入。回収率は、小教点第2以下四捨五入。
 ★☆ 合同科目、学科別に集計。 注 総合演習Ⅰは、終了が後期にずれ込んだため、全体の平均値の計算に入れていない

2021年度前期 授業評価アンケート科目・項目別平均点 【4年次】（実習科目を除く）

No.	授業科目 アンケート項目	看護学科								栄養学科						看護学科 (前期)		栄養学科 (前期)			
		★保健医療福祉行政論Ⅱ	保健統計学Ⅱ	精神看護活動論Ⅱ	リハビリテーション看護論	がん看護論	クリティカル看護論	慢性看護論	終末期看護論	公衆衛生看護活動論Ⅲ	看護学科 (4年次)	看護学科 (前期)	★保健医療福祉行政論Ⅱ	食品機能学	臨床栄養学Ⅳ	臨床栄養学実習Ⅲ	地域栄養活動演習	総合演習Ⅱ	栄養学科 (4年次)	栄養学科 (前期)	看護・栄養学科 (前期)
1	この授業に意欲的に取り組みましたか	3.7	3.0	3.7	3.8	3.6	3.8	3.2	3.9	3.9	3.62	3.60		3.8	3.9	3.6	3.9	3.7	3.78	3.47	3.53
2	この授業の予習・復習を行いましたか(授業時間以外の自学自習を行いましたか※課題を含む)	3.1	2.1	2.9	2.8	3.0	2.6	3.2	3.9	2.93	2.98	2.98		2.5	3.6	3.8	4.0	3.7	3.52	2.96	2.97
3	自分の学習態度は良かったと思いますか(私語をしない、遅刻しないなど)	3.4	3.1	3.6	3.8	3.4	3.7	3.1	3.9	3.61	3.61	3.61		3.5	3.9	3.7	3.9	3.9	3.78	3.52	3.56
4	この授業は授業計画変更により新たに示されたシラバスまたは学習要項に基づいて行われましたか	3.7	3.2	3.5	3.8	3.7	3.8	3.2	3.8	3.63	3.69	3.69		3.3	3.4	2.6	3.8	3.4	3.30	3.50	3.58
5	教員の声、話し方は聞き取りやすかったですか	3.4	2.9	3.6	3.9	3.8	3.6	3.1	3.9	3.58	3.60	3.60		2.8	3.5	3.2	3.8	3.5	3.36	3.39	3.49
6	板書やスクリーン、パワーポイント、DVDなどは見やすかったですか	3.6	2.8	3.8	3.8	3.6	3.9	3.1	3.9	3.61	3.62	3.62		3.0	3.4	3.3	3.6	3.5	3.36	3.43	3.52
7	教員は学生の質問、発言に適切に対応していたと思いますか(メールでの質問も含む)	3.7	3.3	3.8	3.9	3.7	3.9	2.6	3.9	3.65	3.65	3.65		4.0	3.4	2.4	4.0	3.5	3.46	3.58	3.61
8	授業の内容や要点はよく理解できましたか	3.6	3.0	3.6	3.6	3.6	3.8	2.4	3.8	3.49	3.50	3.50		3.3	3.2	3.3	3.8	3.5	3.42	3.34	3.41
9	教科書や補助教材は授業内容の理解に役立ちましたか	3.7	2.9	3.4	3.6	3.6	3.6	2.6	3.6	3.45	3.52	3.52		3.8	3.4	3.3	3.8	3.4	3.54	3.43	3.47
10	事前に授業のイメージができましたか(初回に提示された授業内容・配られた資料はわかりやすかったですか)	3.7	2.8	3.6	3.4	3.5	3.4	2.2	3.7	3.37	3.43	3.43		3.3	3.4	2.7	3.6	3.1	3.22	3.27	3.34
11	この授業によって、知識が得られ自分の考えを深めることができましたか	3.7	3.0	3.7	3.8	3.7	3.9	2.8	4.0	3.59	3.62	3.62		3.3	3.4	3.5	3.9	3.5	3.52	3.45	3.53
12	この授業によって、刺激を受けさらに学びを広げたいと思いますか	3.7	2.7	3.7	3.9	3.7	3.8	2.7	4.0	3.58	3.52	3.52		3.5	3.2	3.0	3.4	2.9	3.20	3.32	3.41
13	この授業によって、刺激を受けさらに学びを広げたいと思いますか	3.4	3.1	3.6	3.4	3.6	3.7	3.4	3.9	3.57	3.70	3.70		3.0	3.5	3.4	3.9	3.5	3.46	3.48	3.58
14	この授業の人的環境は学習する上で適切だったと思いますか(人的環境とは私語・周囲の騒音など)	3.7	2.8	3.7	3.9	3.6	3.8	3.6	4.0	3.68	3.73	3.73		3.8	3.9	3.5	3.8	3.7	3.74	3.58	3.65
15	総合的に判断して、この授業は満足できるものでしたか	3.7	3.0	3.7	3.9	3.8	3.9	2.7	4.0	3.63	3.64	3.64		3.5	3.2	2.7	3.7	3.2	3.26	3.45	3.54
	平均	3.6	2.9	3.6	3.7	3.6	3.7	2.9	3.8	3.53	3.56	3.56		3.4	3.5	3.2	3.8	3.5	3.46	3.41	3.48
	回収率	33.3%	27.5%	84.7%	80.0%	40.4%	44.6%	45.9%	57.5%	54.6%	65.3%	65.3%		100.0%	77.3%	50%	64%	68.2%	71.9%	63.1%	64.1%

※ 点数は、4点を満点とした科目。項目別の平均点は、小数点第3位以下四捨五入。学年科目平均点は、小数点第2位以下四捨五入。回収率は、小数点第2位以下四捨五入。

★ 合同科目、学科別に集計。

2021年度前期 実習評価アンケート科目・項目別平均点

【看護学科 前期 実習科目】

No.	授業科目 アンケート項目	1年次	4年次			4年次実習科目平均	前期実習科目平均
		看護基礎実習Ⅰ	精神看護実習	在宅看護実習	看護総合実習		
1	この実習に意欲的に取り組んだ	3.83	3.88	3.89	3.88	3.88	3.87
2	実習期間中、予習・復習などの事前・事後学習をした（実習時間以外の自学自習を行いましたか？）	3.87	3.79	3.44	3.67	3.63	3.69
3	自分の実習態度（挨拶、身だしなみ・言葉遣い・学習の取組み）はよかった	3.83	3.79	3.94	3.93	3.89	3.87
4	この実習では実習要項を活用した	3.79	3.74	3.89	3.76	3.80	3.80
5	実習オリエンテーションはわかりやすく事前に実習のイメージができた	3.63	3.55	3.44	3.19	3.39	3.45
6	教員の指導・助言は適切でわかりやすかった	3.73	3.93	3.94	3.60	3.82	3.80
7	教員に質問や相談、援助を求めやすかった	3.56	3.83	3.67	3.74	3.75	3.70
8	この実習により看護への興味や関心を深めることができた	3.87	3.83	3.83	3.76	3.81	3.82
9	この実習により実習目標に到達できた。	3.62	3.69	3.56	3.52	3.59	3.60
10	総合的に判断して、この実習は満足できるものだった	3.69	3.90	3.83	3.48	3.74	3.72
平均		3.74	3.79	3.74	3.65	3.73	3.73
回収率		48.6%	37.8%	16.2%	37.8%	30.6%	35.1%

※ 点数は、4点を満点とし小数点第3位以下四捨五入。回収率は小数点第2位以下四捨五入。

2021 年度 委員会等活動報告書

委員会等	キャリア開発委員会
作成者	萩野 悦子

項 目	内 容
<p>【前年度】 次年度への 課題・改善方策 (Problem)</p>	<p>1) 国家試験に向けた学修支援</p> <p>(1) キャリア支援室の活用 (看) (栄) キャリア支援室にある DVD や国試対策の書籍の閲覧は次年度も継続する。キャリア支援室が 4 号館 2 階に移動したことを、4 月のガイダンス周知し活用されるようつなげていく。</p> <p>(2) 国家試験対策ガイダンスの実施 (看) (栄)</p> <p>① 看護学科 学期初めガイダンスは継続する。ただし、1 年次、2 年次、3 年次に対する事前学修課題 (春期休業中の課題) が演習・実習前課題の出題になっていることから、科目担当者とキャリア開発委員間でガイダンスの内容の整理が必要である。</p> <p>② 栄養学科 次年度も学生の学修状況を確認しながら、取り組み方法の改善、追加していく。</p> <p>(3) 学年進行にあわせた模擬試験や補講の実施 (看) (栄) 両学科とも今後も学担との連携を強化しながら、キャリア開発委員が担うべき成績不振者の国家試験対策について検討していく必要がある。また、国試対策委員を中心とした学生の主体的な国試対策の活動を 4 年次まで継続できるよう支援する必要がある。 看護学科の補講は、公衆衛生看護の履修生のスケジュールを把握して日程調整を行うこと、出席率を上げるためには感染症予防対策を講じながら対面形式で開催できるよう調整する。</p> <p>(4) 保護者と連携した学修支援 (看) (栄) 新型コロナウイルス感染症の動向を見ながら、可能であれば例年通り保護者懇談会にて 4 年次生の具体的な国家試験対策の現状、奨学金、国家試験対策、就職活動の現状、学修成績・実習成績と就職活動が密接に関連している事等を説明し、保護者と大学と連携して学修支援にあたることの重要性を説明する。</p> <p>(5) 視聴覚教材や Web サービスの活用による学修支援 (看) 次年度も継続する。</p> <p>(6) 国家試験が不合格となった既卒生への対応 (看) 卒業直後の既卒生は比較的連絡が取れやすいが、数年経過した既卒生とは連絡がとれない例もあり、キャリア開発委員会として卒後何年間対応するか今後検討していく。</p> <p>(7) 国家試験対策教員セミナーへの参加 (看) 次年度も継続する。</p> <p>2) 適切な就職・進学先を見つけるための支援活動</p> <p>(1) キャリア支援室の活用 (看) (栄) 両学科ともキャリア支援室が 4 号館 2 階に移動したことを「就職活動のてびき」に明記する、4 月のガイダンスで周知することで活用されるようつなげていく。 次年度も SharePoint を用いて求人情報や就職説明会、就職セミナーの情報を発信していく。今年度急遽 SharePoint を導入したが、学生から利用の仕方がわからない、うまく情報を探せないといった声が聞かれ有効に活用されなかったため、次年度の 4 月のガイダンスでは</p>

	<p>SharePoint の利用方法を周知していく。</p> <p>(2) ガイダンスによる支援 (看) (栄) 次年度も、ガイダンスを継続するとともに、学年担当教員、看護課題研究担当教員と連携していく。オンライン上でも「就職活動のてびき」を閲覧できるように電子ファイルでの掲示方法を検討する。</p> <p>(3) 職業観や専門職意識の育成を図る (看) (栄) 次年度も継続する。</p> <p>(4) 業者による就職活動ガイダンスの実施 (看) (栄) 次年度以降も同様に計画し、学年進行にあわせて計画的に実施していく。</p> <p>(5) 学内就職説明会の実施 (看) 新型コロナウイルス感染症の動向を見ながら、可能であれば開催する。対面式と遠隔の混合など方法を工夫する。</p> <p>(6) 進路希望調査の実施 (看) (栄) 次年度も継続する。看護学科は3・4年次の4月に進路希望調査をしていたが、3年次生は未決定の学生がほとんどだったことから、今後は4年次4月のみの調査に変更する。</p> <p>(7) 進学及び就職に関する学校推薦選考基準の作成 (看) (栄) 次年度も必要時、学校推薦選考基準を適用する。次年度は、学生の進路が明らかになる4月の時点で、学校推薦選考基準について教員に周知する。</p> <p>(8) 4年次就職・進学支援と状況把握報告 (看) (栄) 次年度も継続する。</p> <p>(9) 保護者との連携・支援 (看) (栄) 新型コロナウイルス感染症の動向を見ながら、可能であれば例年通り保護者懇談会にて4年次生の具体的な国家試験対策の現状、奨学金、国家試験対策、就職活動の現状、学修成績・実習成績と就職活動が密接に関連している事等を説明し、保護者と大学と連携して学修支援にあたることの重要性を説明する。</p> <p>(10) 求職求人への来客対応 (看) (栄) 次年度も継続する。</p>
--	---

項 目	内 容
今年度の活動計画 (目標・課題) (Plan)	<p>1) 国家試験に向けた学修支援</p> <p>(1) キャリア支援室の活用の促進 (看) (栄)</p> <p>(2) 計画的な自己学修のためのガイダンスと課題配付 (看) (栄)</p> <p>(3) 学年進行にあわせた模擬試験や補講の実施 (看) (栄)</p> <p>(4) 視聴覚教材やWEBサービスの活用による学修支援 (看)</p> <p>(5) 保護者と連携した学修支援 (看) (栄)</p> <p>(6) 国家試験対策教員セミナーへの参加 (看)</p> <p>(7) 国家試験が不合格となった既卒生への対応 (看) (栄)</p> <p>2) 適切な就職・進学先を見つけるための支援活動</p> <p>(1) キャリア支援室の活用の促進 (看) (栄)</p> <p>(2) ガイダンスによる支援 (看) (栄)</p> <p>(3) 職業観や専門職意識の育成を図る (看) (栄)</p> <p>(4) 業者による就職活動ガイダンスの実施 (看) (栄)</p> <p>(5) 学内就職説明会の実施 (看)</p> <p>(6) 進路希望調査の実施と進路決定状況の把握 (看) (栄)</p> <p>(7) 進学及び就職に関する学校推薦選考基準の運用 (看) (栄)</p> <p>(8) 4年次就職・進学支援と状況把握報告 (看) (栄)</p> <p>(9) 保護者との連携・支援 (看) (栄)</p> <p>(10) 求職求人への来客対応 (看) (栄)</p>
活 動 内 容 (Do)	<p>1) 国家試験に向けた学習支援</p> <p>(1) キャリア支援室の活用の促進 (看) (栄)</p>

移動後のキャリア支援室の場所は4月のガイダンスで周知した。平日の10:00~17:00に開室しDVDの貸し出しや国試対策の書籍の閲覧をできるようにした。

(2) 計画的な自己学修のためのガイダンスと課題配付(看)(栄)

両学科とも、前期・後期の学生ガイダンスで、計画的な国家試験対策の必要性について説明した。

① 看護学科

学生が低学年から主体的かつ計画的に学修できるよう、数年の移行期間を設けながら国家試験対策を前倒していく体制に変更した。これにより、3年次の3月末に行っていた業者による国家試験ガイダンスを11月に早めて実施した。加えて、前年度の改善案件であった1~3年次の春期休業中の国家試験対策課題を、演習・実習に関連する内容から国家試験過去問題に変更した。

② 栄養学科

早期に受験対策に取り組む意識づけをするために、昨年度まで夏期休業中前に配付していた国家試験過去問題は、学年を前倒しして春期休業中の課題に変更した。

(3) 学年進行にあわせた模擬試験や補講の実施(看)(栄)

新型コロナウイルス感染症の状況によって、危機管理委員会に開催方法(対面もしくは自宅受験)を諮りながら実施した。自宅受験時のマークシートの返送費用は大学負担とした。

① 看護学科

4年次の模擬試験は、学修のタイミングに合わせて必修問題模擬試験を2回、一般・状況問題を含む模擬試験5回、その他学生有志による模擬試験1回のサポートを実施した。昨年まで自己採点結果を担当委員がExcelに入力していたが、今年度からは採点結果と自己評価、今後の取り組みを学生自身がFormsに入力する方法に変更した。

業者による補講は、8月下旬には専門基礎補講(4コマ×4日・さわ研究所)と9月に専門基礎補講(8コマ・東京アカデミー)、10月末には専門補講(24コマ・東京アカデミーを原則対面で行った。

保健師国家試験対策は、業者模擬試験及び過去模擬試験を計4回、専門基礎・専門科目の補講18コマを学内教員が担当し実施した。

3年次の模擬試験は、学生国家試験対策委員が企画し、学年末に1回自宅受験で実施した。11月に業者補講(2コマ・東京アカデミー)を実施した。2年次の模擬試験は年度末に実施できず、次年度前期ガイダンス終了後に実施予定である。

② 栄養学科

4年次の業者模擬試験の実施、その他学生有志による模擬試験のサポートを実施した。また国家試験対策講座を実施した。模擬試験の成績が基準に達していない学生に対しては「強化クラス」を設け、自己学修のための教室を確保し、授業の空き時間に自主的に学内で学修する習慣をつけられるように支援した。

12月の模擬試験で科目別得点率が50%以下の学生を必須参加対象に1月下旬から2月上旬にかけて教員による補講を実施した。その他の学生は任意出席とした。

今年度もチューター制を採用し、学科全教員が各々1~2名の学生を担当して模擬試験の結果を参考に個別面談を行いながら各学生に適した学修計画の添削、学修方法の助言を行った。

3年次は、前期ガイダンスに合わせて模擬試験を実施し春期休業中の学修の成果を確認した。編入3年次も含み業者模擬試験を行い、国家試験対策講座を実施した。

2年次は、前・後期ガイダンスに合わせて模擬試験を行い休業中

の学修成果を確認した。

1年次は、後期ガイダンス日に模擬試験を実施した。

(4) 視聴覚教材や Web サービスの活用による学修支援 (看)

2~4年次は学年ごとに国家試験対策用の Teams を作成し、国家試験に関する情報を学生に発信した。国家試験対策進捗管理ツール「Sessa Takuma」を作成し、国家試験過去問題の取り組みを学生個々が匿名で入力した一覧表を学年全体で共有することで学修意欲を維持・向上させるシステムを開始した。

4年次に対して模擬試験業者の看護師・保健師国家試験アプリの情報を提供した。

3年次は、機能形態学の DVD 学修会を国家試験対策委員が企画して5回実施した。

教員は、医学書院が提供している「系統別看護師(保健師)国試 WEB 法人サービス 看護師国家試験 WEB (教員用プラン)」を講義や看護課題研究担当学生への国家試験対策に活用した。

(5) 保護者と連携した学修支援 (看) (栄)

両学科ともに、例年は保護者懇談会で国家試験対策の概要を説明していたが、今年度も新型コロナウイルス感染症対策のため中止となった。

栄養学科では、4年次生の保護者に対して郵送にて国家試験模擬試験結果報告、国家試験に関するスケジュール、学生への保護者の支援等について依頼した。

(6) 国家試験対策教員セミナーへの参加 (看)

業者が遠隔で開催した教員対象の看護師国家試験対策セミナー(看護師国家試験新出題基準の傾向と対策、成績不振学生への対応)に参加し、適宜学科教員へ情報発信した。

(7) 国家試験が不合格となった既卒生への対応 (看) (栄)

看護学科ではこれまでキャリア開発委員と看護課題研究担当教員で協力しながら行ってきたが、栄養学科も初の卒業生を出したことから改めて検討をした。結果、卒業後1年間は既卒生の希望があれば、心理面の支援や国家試験対策の進捗状況について把握し希望に応じて模擬試験(自費)を受けられるようサポートする。サポートを希望しないもしくは連絡が途絶えた既卒生の窓口は進路支援課とすることで整理した。

2) 適切な就職・進学先を見つけるための支援活動

(1) キャリア支援室の活用 (看) (栄)

両学科ともキャリア支援室の活用の仕方、SharePoint での求人情報や合同就職説明会、就職セミナーの情報発信について、前期ガイダンスで周知した。栄養学科では、SharePoint にある就職に関する情報を Teams にて時系列に整理し、一覧に整理したものを学生と教員に配信した。

(2) ガイダンスによる支援 (看) (栄)

「就職活動のてびき」を携行しやすい B5 判で作成し、前期ガイダンスで配付した。「就職活動のてびき」SharePoint 上でも閲覧できるようにした。前期・後期ガイダンスでは講座の紹介をおこなった。

(3) 職業観や専門職意識の育成を図る (看) (栄)

看護学科は、11月に1年次を対象に専門職業人としての意識を涵養するために三職種講演を実施した。

栄養学科は、2年次(集合型)と編入生を含む3・4年次(オンデマンド)を対象に管理栄養士として活躍する卒業生の講話を実施した。

(4) 業者による就職活動ガイダンスの実施 (看) (栄)

新型コロナウイルス感染症の状況によって、危機管理委員会に開催方法(対面もしくは遠隔)を諮りながら実施した。

	<p>①看護学科 3年次に、5月に「就職・実習マナーガイダンス」、11月に「就職活動マナーガイダンス」を行った。3、4年次の保健師志望学生に対し、12月に「公務員試験ガイダンス」（リアルタイムオンライン）を実施した。</p> <p>②栄養学科 1年次に行う予定であった業者による「コミュニケーションガイダンス」と、3年次に行う予定であった業者による「着こなしセミナー」は、新型コロナウイルス感染症対策のために延期した。 2年次（集合型）と編入生を含む3・4年次（オンデマンド配信）を対象に管理栄養士として活躍する卒業生の講話を実施した。 2、3年次に向けて12月に「公務員・栄養教諭採用試験対策ガイダンス」を遠隔で実施した。 3年次には、5月に「就活スタートアップ講座」、6月に「就職サイト（インターンシップ）活用について」、11月に「履歴書・自己PR講座」（進路支援課）、1月「メイクアップ講座」を対面で実施した。</p> <p>(5)学内就職説明会の実施（看） 3年次に、11月に学内就職説明会を実施した。1～4年次の保健師希望学生向けに5月に「保健師就職説明会（オンデマンド配信）」を実施した。</p> <p>(6)進路希望調査の実施と進路決定状況の把握（看）（栄） 両学科とも4年次の4月に進路希望調査を行った。また、就職試験後の受験報告書と進路決定届の提出を励行した。提出のない学生については、看護学科は看護課題研究担当教員と連携し、栄養学科は学担・チューターと連携して、進路の把握に努め定例のキャリア開発委員会で進路決定状況を共有した。</p> <p>(7)進学及び就職に関する学校推薦選考基準の運用（看）（栄） 今年度は適用事例がなかった。</p> <p>(8)4年次就職・進学支援と状況把握報告（看）（栄） 就職試験の受験報告書や進路決定届の提出状況を確認し、提出のない学生については学担・チューターと連携して、学生の進学、就職状況について把握した。</p> <p>(9)保護者との連携・支援（看）（栄） 例年11月の保護者懇談会にて、就職活動状況について説明していたが、今年度も新型コロナウイルス感染症対策のために中止となった。</p> <p>(10)求職求人への来客対応（看）（栄） 今年度はコロナ禍の中でも道内外併せて看護学科22件、栄養学科9件の来学者があり対応した。また、看護学科では道立病院局説明会をZoomで開催したい希望があり対応した。</p>
<p>活動内容の評価 (Check)</p>	<p>1) 国家試験に向けた学習支援 2020年度の看護師国家試験の結果は、新卒者合格率が95.4%のところ本学は98.9%（94名中93名）、保健師は新卒者合格率が97.4%のところ本学は100%（11名全員）、管理栄養士は新卒者合格率が91.3%のところ本学は75.0%（28名中21名）だった。</p> <p>(1)キャリア支援室の活用の促進（看）（栄） キャリア支援室にあるDVDや国試対策の書籍は活用されていた。DVD視聴や資料閲覧、国試対策学修についての対応は165回だった。次年度も引き続き支援していく。</p> <p>(2)計画的な自己学修のためのガイダンスと課題配付（看）（栄） 看護学科3年次の11月に行った国家試験ガイダンスの結果は、出席者101名欠席者5名であった。受講後のアンケートでは、92%の学生が「参考になった」と回答し、「国試対策の具体的な方法が分かった</p>

ので頑張ろうと思う」「今から準備を始めようと思った」との意見が多く聞かれたことから時期を早めた成果は得られたものとする。

両学科とも今年度から国家試験対策を前倒して成果については今年度に評価する。

(3) 学年進行にあわせた模擬試験や補講の実施（看）（栄）

①看護学科

4年次の模擬試験後の自己採点入力方法を変更したことで委員の作業の省力化されたこと、看護学科全教員がリアルタイムで学年全体の状況を把握できたこと、模擬試験後に学生自身で振り返ることで対策がより具体的に記述されるようになった。成績不振者の対策を例年の対面式の強化クラスから委員と看護課題研究担当教員が連携して遠隔支援に変更した。Formsを用いることで学修の進捗状況が把握しやすかったため、今後も継続していく。

保健師国家試験対策は、例年模擬試験の結果を見ながら学内教員が予定された補講以外に追加補講（疫学・保健統計）を実施しているが、今年度は12月の模擬試験で既に全員が合格圏内であったため、追加補講は実施しなかった。模擬試験の成績が下がる傾向にある学生には看護課題研究担当教員とタイムリーに学生の情報を共有し、個別支援した。補講は、公衆衛生看護学実習前に実習事前学習として活用できるようにすることで全員が参加し、実習と国家試験に対する意識づけができた。

3年次の任意受験の模擬試験の申込み者は58名（54.2%）であった。

2年次の任意受験模擬試験は、新年度前期ガイダンス後に実施予定である。次年度は2・3年次の模擬試験の受験率を上げていく必要がある。

②栄養学科

4年次の業者模擬試験は、4月から概ね月1回程度行い、その他学生有志による模擬試験1回のサポートを実施した。

国家試験対策講座は（28コマ・東京アカデミー）実施した。模擬試験の成績が基準に達していない学生の「強化クラス」（自己学習室）は、毎日3～5名程度の学生が利用し学習していた。

12月の模擬試験で科目別得点率が50%以下の学生を必須参加対象に1月下旬から2月上旬にかけて教員による補講は、コロナ禍でリモートではあったが対象者となる学生だけに留まらず、自身の学習の仕上げを確認する学生も参加していたことが目立った。

チューター制については月1～2回程度の面談を行っていたが年度後半は自身で取り組むべきことが明確になっているため面談の間隔は減ってきていた。

3年次は、前期ガイダンスに合わせて模擬試験を実施し春期休業中の学修の成果を確認した。編入3年次も含み業者模擬試験は2回行い、国試対策講座（8コマ・東京アカデミー）を実施した。

2年次は、前・後期ガイダンスに合わせて模擬試験を行い休業中の学修成果を確認した。

1年次は、後期ガイダンス日に模擬試験を実施した。

(4) 視聴覚教材やWebサービスの活用による学修支援（看）

今年度途中から国家試験対策進捗管理ツール「Sessa Takuma」を運用したところ、4年次は15名程度、3年次は10名程度の利用者がいた。3年次生からは、「1・2年次の復習が必要だ、現在の講義に関連したことが出題されていることがわかり日々の講義が大切」という感想もあり講義と国家試験の関連の理解が深まったと考えられる。次年度は、低学年から国家試験対策進捗管理ツールの活用しながら自己学修進められるよう、引き続き利用を促進していく。

3年次の国家試験対策委員が企画したDVD学習会は12～3月の間で5

回実施され、各回15～40人程度の任意参加があった。参加率は昨年度より高く、国家試験ガイダンスを早めた効果と考えられた。

今後は主体的に学修を進めている学生に影響され、学年全体の国家試験対策の取り組みが盛んになるよう、Teamsで情報発信して支援していく。次年度は1・2年次についても国家試験対策進捗管理ツールの活用を促進していく。

「系統別看護師（保健師）国試WEB法人サービス 看護師国家試験WEB（教員用プラン）」の活用状況は、延べ2,984時間（4月～3月）、73回のアクセスがあった。保健師国家試験対策WEB サービス教員用は、延べ368時間（4月～3月）、22回のアクセスがあった。

特に実習後、明確になった弱点科目の克服に活用し基礎学力の定着につながったと考えられる。

(5) 保護者と連携した学修支援（看）（栄）

両学科ともに、今年度も新型コロナウイルス感染症対策のために中止となったが、今後も保護者懇談会を通じて国家試験対策の概要と支援を伝えていく。

(6) 国家試験対策教員セミナーへの参加（看）

看護師国家試験対策セミナーは、学生の到達度や時期に合わせた対策方法についての情報を得ることができた。

(7) 国家試験が不合格となった既卒生への対応（看）（栄）

昨年度不合格者に対して、模擬試験受験のサポートや再受験の意思確認等、国家試験対策進捗状況を確認するために定期的に連絡を取った。

2) 適切な就職・進学先を見つけるための支援活動

(1) キャリア支援室の活用（看）（栄）

移動後のキャリア支援室の場所は4月のガイダンスで周知した。平日の10：00～17：00に開室し学生の面接練習や履歴書等の文書指導など個別対応をした。個別対応の内訳は、模擬面接の回数は272回、履歴書、小論文の添削指導は116回、進路相談は52回だった。対面式に加えて、今年度も新型コロナウイルス感染症防止対策のためにWeb面接練習やメールによる添削も行い、遠隔での対応数は172件だった。

栄養学科では、SharePointにある就職に関する情報をTeamsにて時系列に整理し、一覧に整理したものを配信したところ、学生からの評価は高かった。併せて就職に関する情報を学担・チューターにも提供することが出来た。

(2) ガイダンスによる支援（看）（栄）

就職関連行事の時期を前もって学生に周知することで、スケジュール調整や参加にあたっての心構えができたと思われる。今後もガイダンスを継続するとともに、看護学科では学年担当教員、看護課題研究担当教員と連携しながら、栄養学科では学担・チューターと連携しながら、適切な時期に必要な支援ができるように取り組む必要がある。

ガイダンスに用いる「就職活動のてびき」は、次年度から電子ファイルに変更して両学科のSharePointに格納し、必要時は印刷して配付することに変更する。

(3) 職業観や専門職意識の育成を図る（看）（栄）

各アンケート結果は資料1に示す。両学科とも参加した学生がほぼ「とても参考になった」「参考になった」と回答しており、本学卒業生の在学中の学びと現在の仕事の活動を聞くことで、将来像を描くことができ現在の学修の重要性を認識していた。

(4) 業者による就職活動ガイダンスの実施（看）（栄）

各アンケート結果は資料2に示す。

3年次を対象（一部4年次も対象）に計4回の業者ガイダンスを遠隔で実施した。参加した学生がほぼ「とても参考になった」「参考にな

った」と回答しており、就職活動のイメージが付き、必要な準備について理解できたと考える。

「公務員試験ガイダンス」は、視聴希望者 23 名に対し、アンケート回答者は 20 名（回収率 87%）であった。1 名以外（ガイダンス内容の把握が不十分）は、「札幌市の採用試験内容を知ることができた」、「公務員試験の内容が分かった」と今後の保健師採用試験に向けた準備として効果的であったと思われる。

栄養学科では、1 年次を対象に、コミュニケーション力を磨くための「コミュニケーションガイダンス」を、3 年次を対象に就職活動に向けた「着こなしセミナー」を対面によりガイダンスを行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症対策のために延期した。

2 年次を対象に、管理栄養士として活躍する卒業生の講話「管理栄養士さんからお話を伺ってみよう。」は、出席者は 2 年次 26 名、このほか任意で 3 年次 15 名、4 年次 4 名の出席があった。2・3 年次生を対象に行った「公務員・栄養教諭採用試験対策ガイダンス」の出席者は 2 年次 24 名、3 年次 16 名であった。

3 年次を対象に行った「就活スタートアップ講座」は出席者 32 名、「就職サイト（インターンシップ）活用について」の出席者は 35 名、「履歴書・自己 PR 講座」の出席者は 33 名、「メイクアップ講座」の出席者は 27 名であった。どのガイダンスも受講した学生からは、とても参考になり今後の就職準備活動に活用したいとの意見が多く聞かれていた。様々な就職先の存在を理解でき、自己のキャリア形成に繋げることができるガイダンスとなっていた。

(5) 学内就職説明会の実施（看）

アンケート結果は資料 3 に示す。

3 年次に行った学内就職説明会に参加した学生は、ほぼ「とても参考になった」「参考になった」と回答しており、熱心に参加施設のブースを回る姿が見られた。ただし、感染対策上 1 施設当たりブースの席数を減らしたため「希望する施設の説明を受けられなかった」「アクリル板を設置することで声が聞こえにくい」等の課題があった。また施設参加者のアンケート結果からは開催時期や開催方法に関する満足度は高く、参加施設にとっても広報活動の一環としてよい機会になったと考える。

1～4 年次を対象とした保健師就職説明会のオンデマンド配信はアンケート回答者が 17 名と少なかったものの、視聴した 9 割以上の学生が「とても参考になった」「参考になった」と回答しており、保健師の多様な活動について理解が深まったと考えられた。

(6) 進路希望調査の実施と進路決定状況の把握（看）（栄）

コロナ禍で合同就職説明会やインターンシップが中止になることも多く、4 月には進路を決定できずにいる学生も多かったため、委員と担当教員が連携してサポートした。看護学科では、数か所の医療機関への就職希望が集中した状況などを適宜学科教員に周知した。

両学科ともに、最終進路確認票が未提出の学生については、国家試験模擬試験日や国試受験票配付日などの登校日に記載を促す、担当教員から連絡などにより回収率が上昇した。

なお、2021 年度卒業生の進路状況として、内定率推移、決定した就職先に対する満足度調査、進路決定届アンケートを資料 4 に示す。

(7) 進学及び就職に関する学校推薦選考基準の運用（看）（栄）

今年度の適用事例はなかった。

(8) 保護者との連携・支援（看）（栄）

両学科ともに、今年度も新型コロナウイルス感染症対策のために中止となったが、今後も保護者懇談会を通じて就職支援の概要を伝えていく。

(9) 求職求人に来客対応（看）（栄）

	<p>昨年同様にコロナ禍ではあったが来学者数は昨年よりも増加したため、委員だけでなく、学科教員にも来学予定施設（者）について共有し、関係者が対応できるように調整した。今後、Zoomでの病院説明も増加する可能性がある。</p>
<p>次年度への課題・改善方策 (Action)</p>	<p>2022年度に重点的に取り組む課題は以下のとおりである。</p> <p>1) 国家試験に向けた学習支援（看）（栄）</p> <p>(1) 看護学科 各学年の国家試験対策委員とも協力し低学年のうちから自分にあった学修方法を考え計画的に学修を進めていくことができるように、今年度から着手した国家試験対策を従来よりも前倒して実施する。これによって、4年次の8月までにほぼ全員が必修問題の合格基準に到達し、9月から一般状況問題対策に着手できることをめざす。 保健師国家試験は、新出題基準に対応するために、模擬試験結果を考慮しながら補講を行うことで、ひきつづき全員合格をめざす。</p> <p>(2) 栄養学科 4年次生に対しては、今年度同様に月1回の模擬試験と、対策講座を実施する。 3年次と2年次として「学習のめやす」を作成してガイダンスで説明する。当該年度初めに既習分野模擬試験を実施し成績が6割に満たない学生をフォローアップする体制を構築する。これによって当該学年で修得すべき分野を確実に学びにつなげられることをめざす。</p> <p>2) 適切な就職・進学先を見つけるための支援活動（看）（栄）</p> <p>(1) 看護学科 年次の進行にあわせて系統立てたキャリア形成と就職支援を検討する。学科としてポートフォリオを活用することが予定されていることから、学年担任やキャリア開発委員の役割を考慮しながら立案していく。これにあわせて、業者による就職ガイダンスの時期や内容を再考する。 保健師学内就職説明会について検討する。市町村及び北海道立保健所は当該年度に就職予定がある学生の参加を希望している。しかし、大学側としては保健師学内就職説明会に参加することで保健師としてのキャリア形成の機会づくりという意図もあることから、対象学年や開催方法、開催時期について再考していく。</p> <p>(2) 栄養学科 年次の進行にあわせて系統立てたキャリア形成と就職支援を検討する。1・2年次から管理栄養士の活動の場をイメージすることで主体的な就職活動につながることをめざす。そのために、年次にあわせた効果的な就職ガイダンスを検討していく。 また、4年次での就職活動を円滑に進めるために、最新の求人情報をSharePoint等でわかりやすく提供していく方法をさらに工夫する。</p> <p>(3) 進路支援課 管理栄養士の多様な就職先を開拓する。主体的な就職活動につながるような意識づけや意欲が乏しい学生に対して働きかけていく。 大学に届く求人やキャリア関連情報をSharePoint等でわかりやすく周知する。</p>

看護学科 三職種講演会

参加者：1年次102名

	人 (%)
とても参考になった	90 (88.2)
参考になった	11 (10.8)
あまり参考にならなかった	1 (1.0)
参考にならなかった	0 (0.0)

参加者の感想（自由記述）

【省略】

栄養学科 管理栄養士さん（先輩）からお話を伺ってみよう

参加者

集合型：2年次（26名）、オンデマンド3年次・編入3年次（15名）、4年次次・編入4年次（4名）

	人 (%)
とても参考になった	15 (62.5)
参考になった	7 (29.2)
あまり参考にならなかった	2 (8.3)
参考にならなかった	0 (0.0)

参加者の感想（自由記述）

【省略】

看護学科 3 年次・4 年次 実習前ガイダンス～就職活動と実習マナーの要点確認～

アンケート回答者：3年次・4年次 計78名

	人 (%)
とても参考になった	48 (61.5)
参考になった	30 (38.4)
あまり参考にならなかった	0 (0.0)
参考にならなかった	0 (0.0)

参加者の感想（自由記述）

【省略】

看護学科 3 年次 就職ガイダンス

（就職スタートアップ講座、WEB 面接対策講座、自己 PR 作成講座）

アンケート回答者：3年次 計55名

	人 (%)
とても参考になった	31 (56.3)
参考になった	23 (41.8)
あまり参考にならなかった	1 (1.8)
参考にならなかった	0 (0.0)

参加者の感想（自由記述）

【省略】

栄養学科2年次、3年次（編入生含む） 公務員・栄養教諭採用試験対策ガイダンス（オンデマンド配信）

アンケート回答者：2年次（24名）、3年次・編入3年次（16名）、計40名

	人 (%)
とても参考になった	27 (67.5)
参考になった	12 (30.0)
あまり参考にならなかった	1 (2.5)
参考にならなかった	0 (0.0)

参加者の感想（自由記述）

【省略】

栄養学科1年次 コミュニケーション講座（対面）

【延期】

栄養学科3年次 就活スタートアップ講座（対面）

	人 (%)
とても参考になった	18 (69.2)
参考になった	7 (26.9)
あまり参考にならなかった	1 (3.8)
参考にならなかった	0 (0.0)

参加者の感想（自由記述）

【省略】

栄養学科3年次 就職サイト（インターンシップ）活用について（対面）

	人 (%)
とても参考になった	11 (34.4)
参考になった	21 (65.6)
あまり参考にならなかった	0 (0.0)
参考にならなかった	0 (0.0)

参加者の感想（自由記述）

【省略】

栄養学科3年次 履歴書・自己PR講座（対面）

	人 (%)
とても参考になった	22 (66.7)
参考になった	11 (33.2)
あまり参考にならなかった	0 (0.0)
参考にならなかった	0 (0.0)

参加者の感想（自由記述）

【省略】

栄養学科3年次 メイクアップ講座（対面）

アンケート回答者：3年次女子 計25名

	人 (%)
とても参考になった	13 (52.0)
参考になった	12 (48.0)
あまり参考にならなかった	0 (0.0)
参考にならなかった	0 (0.0)

参加者の感想（自由記述）

【省略】

栄養学科3年次 着こなしセミナー（対面）

【延期】

看護学科 学内就職説明会（対面）

アンケート回答者：3年次 85名

	人 (%)
とても参考になった	44 (51.8)
参考になった	38 (44.7)
あまり参考にならなかった	3 (3.5)
参考にならなかった	0 (0.0)

参加者の感想（自由記述）

【省略】

看護学科 保健師就職説明会（オンデマンド配信）

アンケート回答者：4年次生 3名、3年次生 2名、2年次生 7名、1年次生 5名/計17名

	人 (%)
とても参考になった	9 (52.9)
参考になった	7 (41.2)
どちらともいえない	1 (5.9)
あまり参考にならなかった	0 (0.0)
参考にならなかった	0 (0.0)

参加者の感想（自由記述）

【省略】

2021年度卒業生の進路状況について

1. 内定率推移

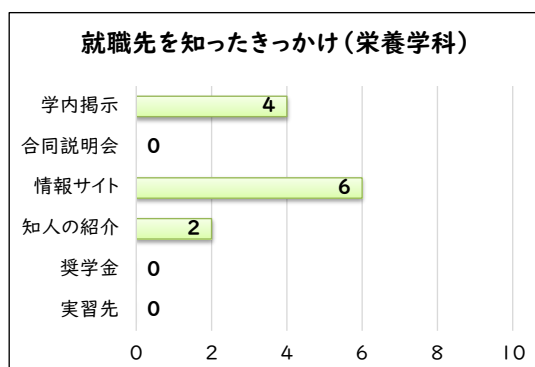
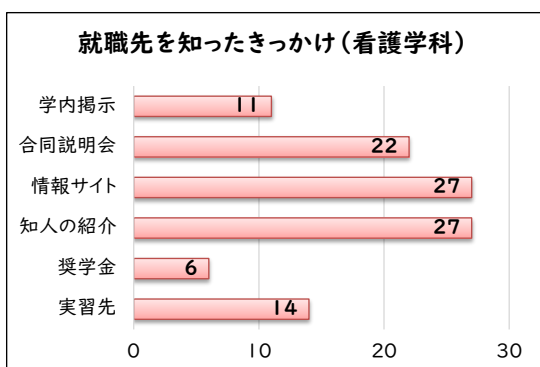
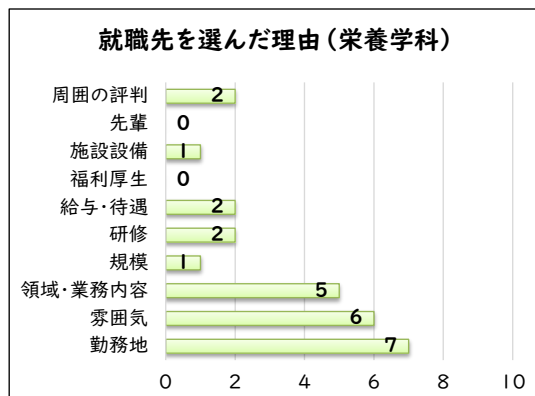
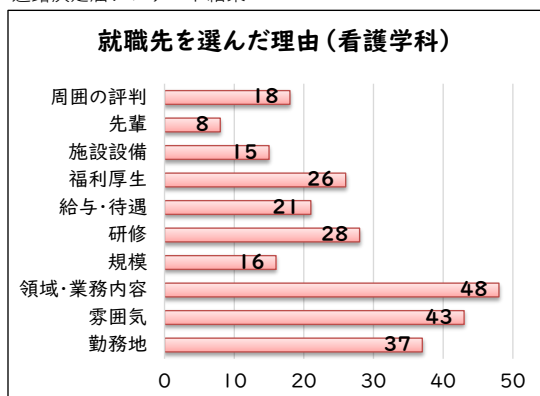
2020年度卒業生 3月末日時点				
区分		保健医療学部	看護学科	栄養学科
卒業生数		122	94	28
就職希望者数		114	86	28
内定者数	単月	7	1	6
	延べ	112	86	26
進学者数		7	7	0
進路未決定者数		2	1	1
内定率		98.2%	100.0%	92.9%

2021年度卒業生 3月10日時点				
区分		保健医療学部	看護学科	栄養学科
卒業見込み者数		132	111	21
就職希望者数		127	106	21
内定者数	単月	2	0	2
	延べ	124	105	19
進学者数		1	1	0
進路未決定者数		7	5	2
内定率		97.6%	99.1%	90.5%

2. 就職満足度調査

2021年度卒業生 3月10日時点				
区分		保健医療学部	看護学科	栄養学科
就職決定者数		122	105	17
満足度調査回答数		113	98	15
満足者数		113	98	15
満足度		100%	100%	100%

3. 進路決定届アンケート結果



2021 年度 委員会等活動報告書

委員会等	図書・紀要委員会
作成者	松尾 文子

項 目	内 容
<p>【前年度】 次年度への 課題・改善方策 (Problem)</p>	<p>1) 各学科、学年にあわせて情報リテラシー教育を行う等、図書館の利用を促進する活動を継続する。</p> <p>2) 蔵書構成及び利用率等を勘案し適切な選書を行う。また、蔵書の収容能力に限界があるため電子資料の収集及び書庫の整備を継続する。書架の狭隘化対策として計画的に除籍処理を行う。</p> <p>3) 図書購入費を充実させるため外部資金獲得に向けて情報収集に努める。</p> <p>4) 後援会の学修助成費を活用して実施する「ブックハンティング」「図書リクエストキャンペーン」の再開を検討する等、学生の読書環境の充実及び読書推進のための活動を行う。</p> <p>5) 図書館を利用する上でのマナーや著作権遵守の啓発活動を継続的に実施する。</p> <p>6) 紀要の安定した刊行を継続する。また、電子媒体での公開を検討する。</p>

項 目	内 容
<p>今年度の活動計画 (目標・課題) (Plan)</p>	<p>1) 各学科、学年にあわせた情報リテラシー教育支援を実施する。</p> <p>2) 看護学及び栄養学分野資料の充実はもとより幅広い分野の資料を収集するため蔵書構成及び利用率等を勘案し適切な選書を行う。また、新型コロナウイルス感染症拡大による登校禁止等の措置に備え非来館型の利用環境整備に努める。この他、書架の狭隘化対策として紛失図書等の除籍処理を計画的に実施する。</p> <p>3) 図書購入費の補充を図るため外部資金獲得に向けて情報収集に努める。</p> <p>4) 後援会の学修助成費を活用して実施する「ブックハンティング」及び「図書リクエストキャンペーン」の再開を検討するとともに、昨年度導入した電子図書館「LibrariE」の利用推進を図る等、学生の読書環境の充実及び読書推進のための活動を行う。</p> <p>5) 図書館を利用する上でのマナーや著作権遵守の啓発活動を継続的に実施する。</p> <p>6) 本学における教育の向上と研究の推進並びにそれらの成果を発表する場を提供することを目的として、札幌保健医療大学紀要第 8 巻の刊行を目標とする。また、電子媒体での公開を検討する。</p>
<p>活 動 内 容 (Do)</p>	<p>1) 各学科、学年にあわせた内容でガイダンス及び講義、講習会を実施した。</p> <p>(1) 看護学科・栄養学科 1 年次生</p> <p>① 図書館の利用方法 (2021/4/6, 7, 8 実施) 感染拡大防止のため看護学科 2 グループ及び栄養学科に分けて、図書館の利用方法についての説明 (30 分)、情報リテラシーと大学図書館に関する DVD の視聴 (30 分)、図書館見学 (30 分) の内容でガイダンスを実施した。</p> <p>② 資料の探し方 (2021/4/21 実施) 講義「学びの理解」において、資料の探し方について 60 分程度の講義を実施した。講義では、目的の資料を探せるようになることを目標として、図書館資料の種類、自館の資料の探し方(図書の分</p>

類と請求記号、OPAC の使い方と検索結果の見方)、他館資料の探し方及び利用方法 (CiNii Books、ILL 等)、電子書籍 (Maruzen eBook Library) の利用方法について説明した。また、図書館で実際に図書を探す演習を行った。講義終了後、受講アンケートを実施した。

(2) 看護学科 3 年次生 (2021/11/4 実施)

「看護学研究法」で文献検索について、2 グループに分けて演習形式の講義 (各 1 コマ) を実施した。講義では、医中誌 Web を使った文献検索について理解し、実際に文献を入手できるようになることを目標として、資料の種類と調べ方、各種文献検索データベースの概要、医中誌 Web を使った文献検索及び文献の入手方法について説明した。講義終了後、受講アンケートを実施した。

(3) 栄養学科 3 年次生 (2021/10/6 実施)

「英語文献講読演習」で、文献検索について演習形式の講義 (1 コマ) を実施した。講義では、文献検索データベースを使った文献検索について理解し、実際に文献を入手できるようになることを目標として、資料の種類と調べ方、各種文献検索データベースの概要、医中誌 Web、PubMed を使った文献検索及び文献の入手方法について説明した。講義終了後、受講者アンケートを実施した。

(4) 栄養学科 4 年次生 (2021/4/20 実施)

3 年次に「英語文献講読演習」を未履修であった「卒業研究」履修者を対象に、文献検索講習会を実施した。講習会では、文献検索データベースを利用して研究に必要な学術論文を探し、実際に文献を入手できるようになることを目標として、資料の種類と調べ方、各種文献検索データベースの概要、JDreamIII を使った文献検索及び文献の入手方法について説明した。講習会終了後、受講者アンケートを実施した。

2) 今年度は教員による図書選定を 2 回実施した他、継続購入図書 (主に参考図書)、シラバス掲載の教科書・参考書等の受入、また冊子体購入費用とは別に電子書籍購入費用を予算計上し電子書籍を受入した。教員による図書選定では、電子コンテンツの充実を図るため選書を依頼する際、和書について「Maruzen Book Library」で購入可能なタイトルは電子書籍を優先的に購入することとした。

また、書架の狭隘化対策として保健看護大学校からの転用図書で紛失してから複数年経過している図書 165 冊 (1,271,712 円) について、除籍処理を行った。

3) 「令和 3 年度私立大学等研究設備整備費等補助金 (私立大学等研究設備等整備費 (研究設備)) 事業」の募集に、電子書籍「栄養学コレクション」(1,296,515 円) を申請した。

4) 後援会の学修助成費を利用して、以下の活動を行った。

(1) ブックハンティング及びブックハンティング on the Web

年度当初 6 月及び 1 月にブックハンティング実施を計画したが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて 6 月の実施は見送った。学生から実施の要望もあり、感染状況が多少落ち着いた 10 月 29 日に紀伊國屋書店で実施した。

また、書店でのブックハンティングが 1 回しか実施できなかったため、オンラインシステム (丸善雄松堂提供「Knowledge Worker」) を利用したブックハンティングを計画、実施した。

(2) 「札幌保健医療大学 Digital Library 後援会文庫」の充実

昨年度導入した「札幌保健医療大学 Digital Library 後援会文庫」に就職活動関連のコンテンツを購入した。

(3) 健康管理室との連携

健康管理室や学生相談室を利用する学生が読書に親しむ契機となるよう絵本等の蔵書を設置、名称「ほっと文庫」として運用することとした。特にメンタル面に問題を抱える学生が、読書を通じて精神的

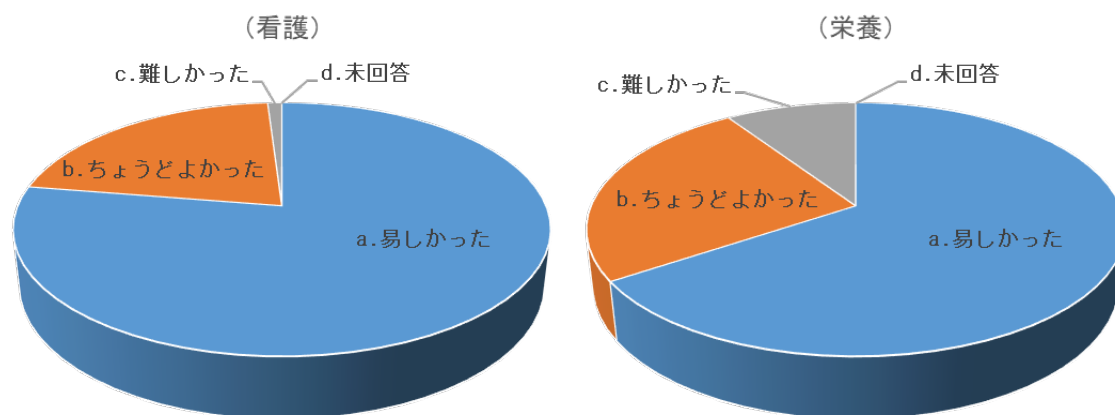
	<p>な健康を取り戻す一助となることを期待する。「ほっと文庫」の選書は、健康管理室及び学生相談室担当者の協力を得て行う。今年度は絵本 14 冊を選定、設置に向けて準備中である。</p> <p>(4) その他 学生の読書への興味関心を喚起するため企画展示の実施や資料を紹介するポスター等を作成し学内に掲示した。 【企画展示・資料紹介】 4 月：大学生生活に役立つ本展示 ：「本屋大賞 2021」展示、紹介 6 月：医療系コミック展示 7 月：本屋大賞歴代作品展示 10 月：2021 年公開映画・ドラマ原作展示 11 月：「瀬戸内寂聴さんを偲んで」関連作品展示 上記の他、新着図書、ブックハンティング選定図書等を随時、展示及び掲示等にて紹介した。</p> <p>5) 学生便覧及び図書館利用案内に利用上の注意事項、著作権について掲載しガイダンスで周知した。新型コロナウイルス感染症に対応して変更した利用方法等について引き続き周知、注意喚起を行った。</p> <p>6) 投稿予定エントリーシートの締切りを 2021 年 10 月 8 日までとし投稿を募った。エントリーの周知を徹底するため教授会での委員会報告や学科会議、メールでの全体通知を行った。その結果、7 編のエントリーがあった。原稿締切りは 2021 年 11 月 12 日とした。一部、提出が遅れたものもあったが 5 編の投稿、2 編の取り下げがあった。査読は、執筆者からの推薦を考慮しつつ 1 論文につき 2 名の査読者を委員長が選定、依頼を行った。現在、2022 年 3 月末の刊行に向けて作業を進めている。また、既刊掲載論文を電子媒体で公開することについて、図書館ホームページで本文データの公開が可能か検討するとともに、各論文の筆頭著者に対し電子化公開の許諾に関する文書を送付した。</p>
<p>活動内容の評価 (Check)</p>	<p>1) 各学科、学年にあわせた内容でガイダンス及び講義、講習会を実施したことは評価できる（別添資料参照）。</p> <p>(1) 看護学科・栄養学科 1 年次生 ガイダンス及び講義をとおして大学での学びにおける図書館の有用性や図書館の利用方法等について説明したが、②学びの理解で実施した演習への取り組みや成果から概ね理解されたと思われる。また、受講アンケートで全員が図書館に対し「興味を持てた」、「まあまあ興味を持てた」と回答しており、今後の利用を喚起するものとなったと考える。</p> <p>(2) 看護学科 3 年次生 受講アンケートの結果、全ての質問項目（資料及び説明のわかりやすさ、文献検索及び文献の入手方法の理解、全体的な内容の難易度）において高評価であった。</p> <p>(3) 栄養学科 3 年次生 「英語文献講読演習」は選択科目であり履修登録者 7 名（当日出席者 6 名）、アンケート回答数 5 件であった。アンケート結果は、全ての質問項目（資料及び説明のわかりやすさ、文献検索及び文献の入手方法の理解、全体的な内容の難易度）において高評価であった。</p> <p>(4) 栄養学科 4 年次生 3 年次開講の「英語文献講読演習」未履修者 8 名が受講、アンケート回答数は 2 件であった。2 件の回答とともに、全ての質問項目（資料及び説明のわかりやすさ、文献検索及び文献の入手方法の理解、全体的な内容の難易度）において高評価であった。</p> <p>2) 今年度は図書 165 冊（1,271,712 円）を除籍したが、それにかかわらず蔵書を増やすことができたことは評価できる。2022 年 3 月 31 日現在の蔵書数は以下のとおり。</p>

	<p>【図 書】 35,559 冊 (和 34,580 冊、洋 979 冊) 【製本雑誌】 2,206 冊 (和 2,149 冊、洋 57 冊) 【電子書籍】 910 点 (和 910 点) 【学術雑誌】 230 種 (和 211 種、洋 19 種) 【電子ジャーナル】 65 種 (和 1 種、洋 64 種) 【視聴覚資料】 1,160 点 (和洋区分なし)</p> <p>3) 電子書籍コンテンツの充実を図るため「令和 3 年度私立大学等研究設備整備費等補助金(私立大学等研究設備等整備費(研究設備))事業」の募集に応募したが、結果は不採択であった。電子書籍コレクションで採択されている大学等もあることから、引き続き外部資金獲得に向けて情報収集等を行う必要がある。</p> <p>4) 後援会からの学修助成費を有効に活用し、読書環境の充実を図ったことは評価できる。</p> <p>(1)ブックハンティング及びブックハンティング on the Web 1年ぶりにブックハンティングを開催できたことは評価できる。また、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止に対応してオンラインシステムを利用したブックハンティング on the Web を開催したことは、学生参加の新たな機会創出となった。 実施結果は以下のとおり。</p> <p>【ブックハンティング】 参加者：5名(看護学科1年次1名、4年次3名、栄養学科1年次1名) 選書冊数：61冊(88,718円)</p> <p>【ブックハンティング on the Web】 参加者：5名(看護学科1年次2名、栄養学科1,2,3年次各1名) 選書冊数：13冊(12,310円)</p> <p>(2)「札幌保健医療大学 Digital Library 後援会文庫」の充実 「札幌保健医療大学 Digital Library 後援会文庫」で就職活動関連のコンテンツ 58 タイトル(298,654円)が利用可能となったが、2月末に購入したため利用はまだない。今後、利用促進のためキャリア支援室との連携を検討する。</p> <p>(3)健康管理室との連携 図書館以外の場所に蔵書を設置することで学生が本に触れる機会が増え、読書に親しむ契機となる、特にメンタル面での問題を抱える学生の助けとなる本を置くことで精神的な健康回復の一助となる、蔵書の有効活用、他部署との連携等の点で評価できる。</p> <p>5) 図書館を利用する上でのマナーや著作権遵守について、規則に則りガイドランスや館内掲示、口頭での注意喚起等を適宜実施できているが、依然として注意することがなくなるわけではないため継続して注意喚起を行っていく必要がある。</p> <p>6) 年度当初予定したスケジュールで概ね進行できた。エントリー原稿 7 編のうち取り下げが 2 編あったが、年度内に第 8 巻発行にかかわる作業を終了したことは紀要発行の継続性から評価できる。また、既刊掲載論文の電子化公開について、図書館ホームページで公開可能なことから、次年度予算に本文データの PDF 化にかかる費用を計上したこと、筆頭著者に対し電子化公開に関して許諾を得たことは評価できる。</p>
<p>次年度への課題・改善方策 (Action)</p>	<p>1) 各学科、学年にあわせた情報リテラシー教育を行う等、図書館の利用を促進する活動を継続する。</p> <p>2) 蔵書構成及び利用率等を勘案し適切な選書を行う。また、蔵書の収容能力に限界があるため電子資料の収集及び書庫の整備を継続して行う。また、書架の狭隘化対策として計画的に除籍処理を行う。</p> <p>3) 蔵書を充実させるため外部資金獲得に向けて情報収集に努める。</p> <p>4) 後援会の学修助成費を活用して実施するブックハンティング等を継</p>

	<p>続して実施し、学生の読書環境の充実及び読書推進のための活動を行う。</p> <p>5) 図書館利用のマナーや著作権法遵守の啓発活動を継続的に実施する。</p> <p>6) 紀要の安定した刊行を継続する。また、既刊掲載論文を電子化公開する。</p>
--	--

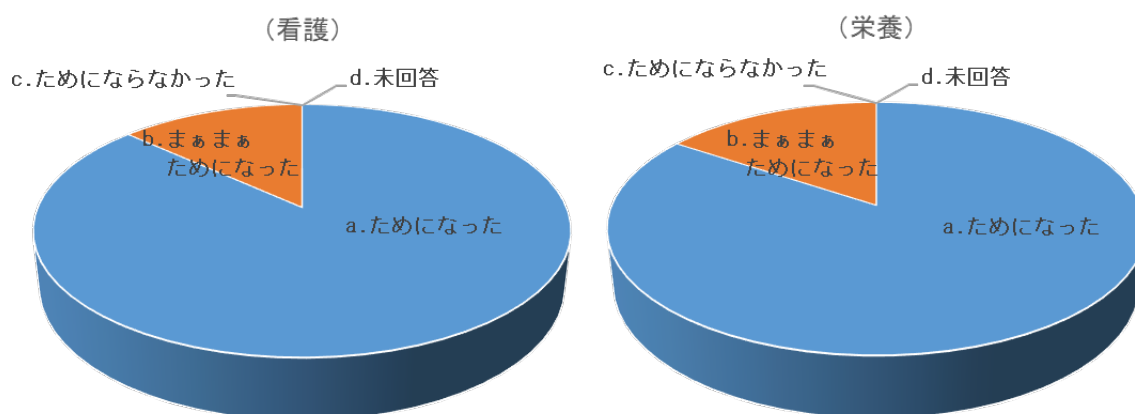
「学びの理解」受講者アンケート集計結果

1. 全体的なレベルについて



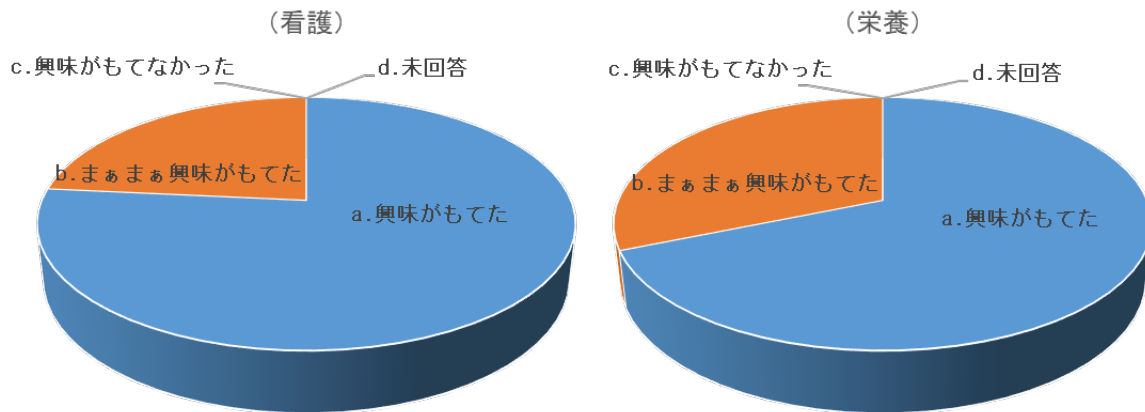
	看護	栄養
易しかった	76	21
ちょうどよかった	21	8
難しかった	1	3
未回答	0	0

2. 内容について



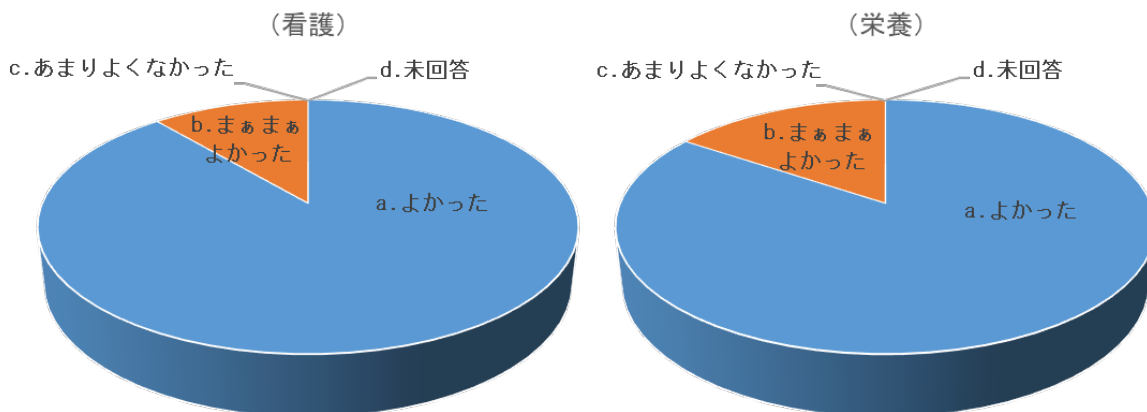
	看護	栄養
ためになった	85	27
まあまあためになった	13	5
ためにならなかった	0	0
未回答	0	0

3. 図書館について



	看護	栄養
興味をもてた	75	22
まあまあ興味をもてた	23	10
興味をもてなかった	0	0
未回答	0	0

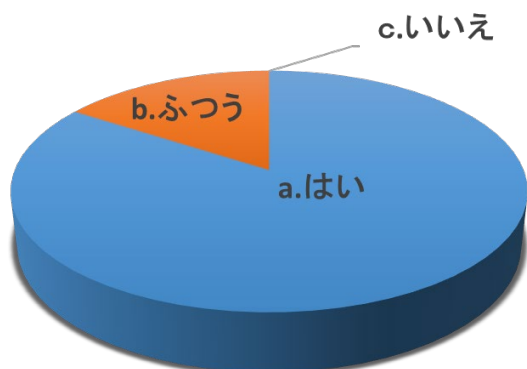
4. 図書館職員の説明



	看護	栄養
よかった	87	27
まあまあよかった	11	5
あまりよくなかった	0	0
未回答	0	0

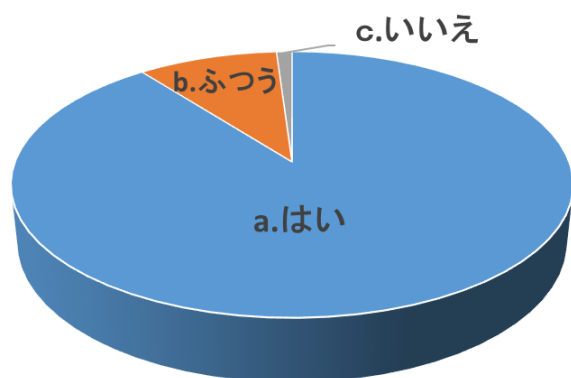
「看護学研究法」受講者アンケート集計結果

1. 資料（パワーポイント）はわかりやすかったですか



	回答数
はい	80
いいえ	15
ふつう	0

2. 説明はわかりやすかったですか



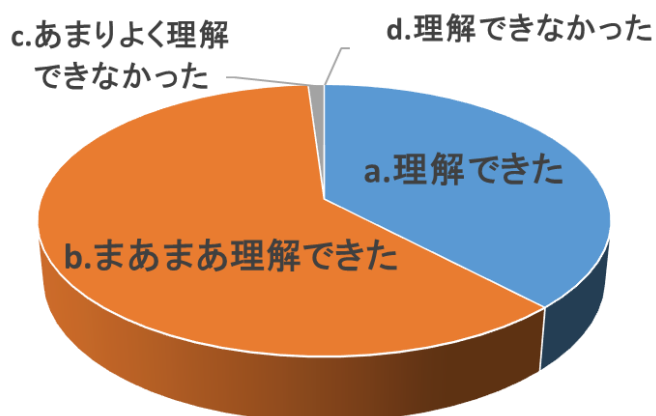
	回答数
はい	85
いいえ	9
ふつう	1

※「いいえ」と回答した方は、どのような点を改善すればよいと思われますか。

具体的にお聞かせください

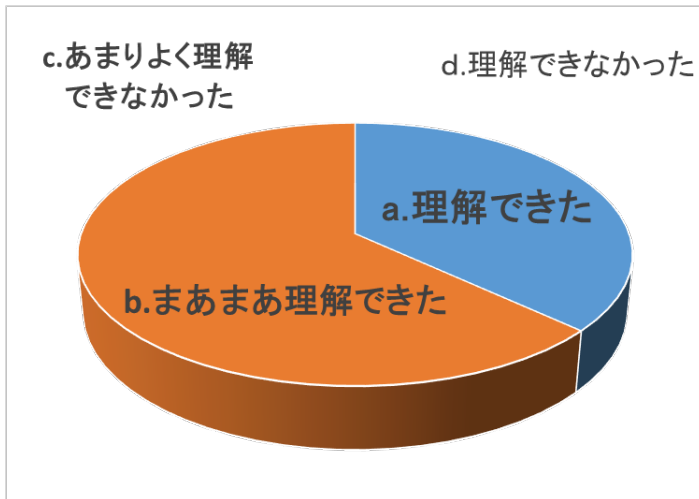
	回答数
スピードが早い	2
声が小さい	0
説明がわかりにくい	1

3. 医中誌 Web を使った文献検索について理解できましたか。



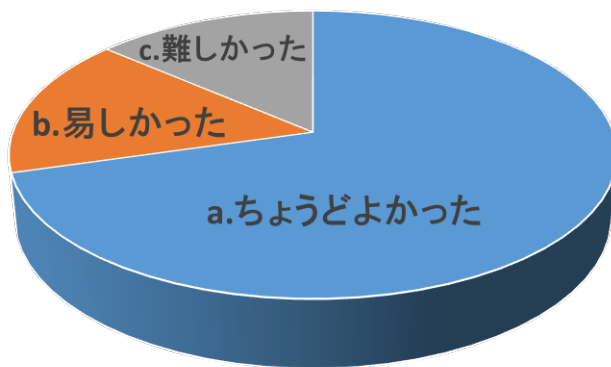
	回答数
理解できた	36
まあまあ理解できた	58
あまりよく理解できなかった	1
理解できなかった	0

4. 文献の入手方法について理解できましたか。



	回答数
理解できた	35
まあまあ理解できた	60
あまりよく理解できなかった	0
理解できなかった	0

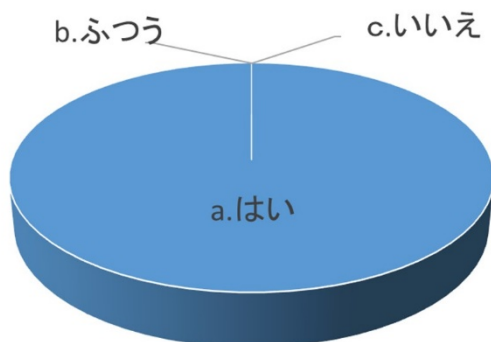
5. 全体的な内容について



	回答数
易しかった	67
ちょうどよかった	15
難しかった	13

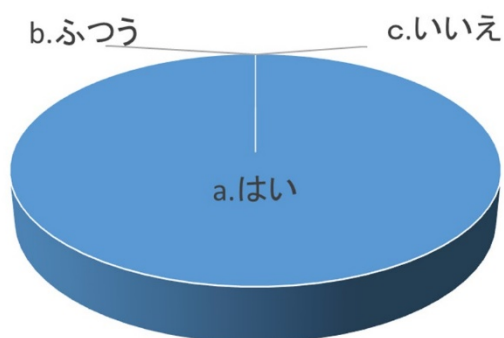
「英語文献講読演習」受講者アンケート集計結果

1. 資料（パワーポイント）はわかりやすかったですか。



	回答数
a. はい	5
b. いいえ	0
c. ふつう	0

2. 説明はわかりやすかったですか。

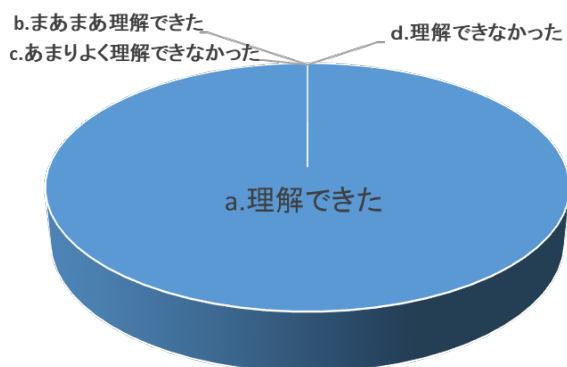


	回答数
a. はい	5
b. いいえ	0
c. ふつう	0

※「いいえ」と回答した方は、どのような点を改善すればよいと思われますか。
具体的にお聞かせください。

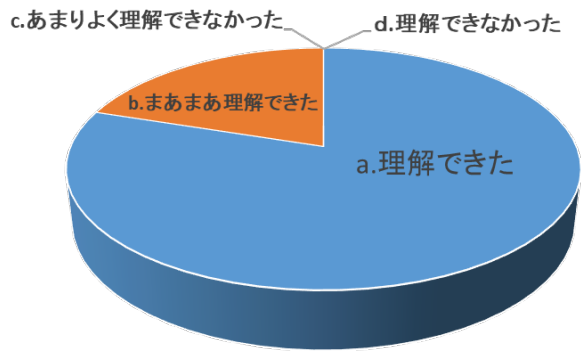
	回答数
スピードが早い	0
声が小さい	0
説明がわかりにくい	0

3. 医中誌 Web を使った文献検索について理解できましたか。



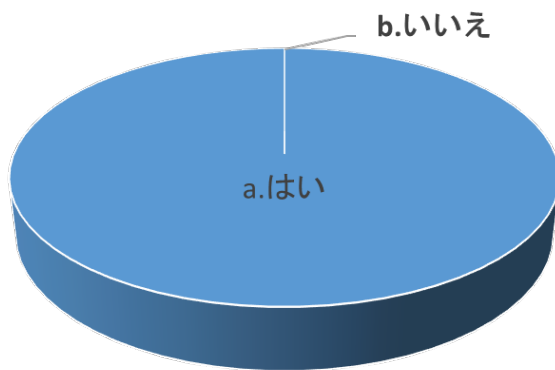
	回答数
a. 理解できた	5
b. まあまあ理解できた	0
c. あまりよく理解できなかった	0
d. 理解できなかった	0

4. EBSCOhost を使った文献検索について理解できましたか。



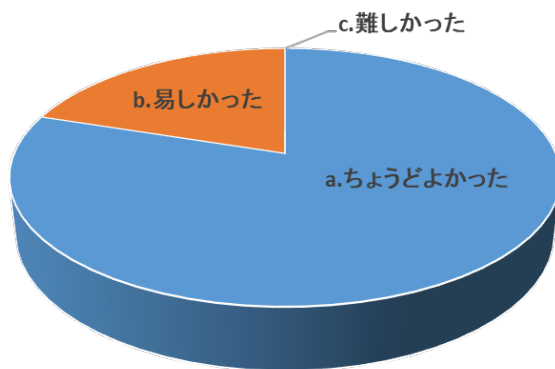
	回答数
a. 理解できた	4
b. まあまあ理解できた	1
c. あまりよく理解できなかった	0
d. 理解できなかった	0

5. 今後、文献データベースを使って必要な文献を探したり、入手したりできそうですか。



	回答数
a. はい	5
b. いいえ	0

6. 全体的な内容について



	回答数
a. ちょうどよかった	4
b. 易しかった	1
c. 難しかった	0

「文献検索講習会」受講者アンケート集計結果

(栄養学科 4 年次生対象)

1. 資料（パワーポイント）はわかりやすかったですか。

	回答数
a. はい	2
b. いいえ	0
c. ふつう	0

2. 説明はわかりやすかったですか。

	回答数
a. はい	1
b. いいえ	0
c. ふつう	1

3. JDreamⅢを使った文献検索について理解できましたか。

	回答数
a. 理解できた	2
b. まあまあ理解できた	0
c. あまりよく 理解できなかった	0
d. 理解できなかった	0

4. EBSCOhostを使った文献検索について理解できましたか。

	回答数
a. 理解できた	2
b. まあまあ理解できた	0
c. あまりよく 理解できなかった	0
d. 理解できなかった	0

5. 今後、文献データベースを使って必要な文献を探したり、入手したりできそうですか。

	回答数
a. はい	2
b. いいえ	0

6. 全体的な内容について

	回答数
a. ちょうどよかった	1
b. 易しかった	1
c. 難しかった	0

2021 年度 委員会等活動報告書

委員会等	国際交流委員会
作成者	小島 悦子

項 目	内 容
<p>【前年度】 次年度への 課題・改善方策 (Problem)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) 講演会の開催について 2021 年度の学事歴や 2020 年度のアンケート結果をもとに、講演内容、開催時期を検討し、次年度も対面とオンラインによる開催ができるように準備する。 2) 短期海外研修について 2022 年度に向けた短期海外研修の情報収集及びオンラインセミナーの情報を収集し、必要な情報を学生に提示する。 3) 国際交流等の開催情報の提供について 感染状況をみながら、情報提供及び体験会等の情報を収集し、企画・実施する。 4) 外国大学との交流や海外留学等について情報収集を継続する。

項 目	内 容
<p>今年度の活動計画 (目標・課題) (Plan)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) 講演会の開催について 国際協力の活動経験者からの国際協力の実際についての講演 2) 短期海外研修について 研修場所、時期、内容、研修費について情報収集 3) 国際交流等の開催情報の提供 札幌国際プラザ、JICA 北海道等のイベント情報の提供 4) 外国大学との交流、海外留学等についての情報収集
<p>活 動 内 容 (Do)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) 講演会の開催について 元・本学栄養学科 助手の大山達也先生から、青年海外協力隊の保健医療分野でアフリカ南東部にあるマラウイ共和国で管理栄養士としての活動経験をもとに「アフリカでの栄養改善について」をテーマに動画作成を依頼し、Teams で配信をした。2021 年 11 月 29 日(月)～12 月 24 日(金)の配信を予定していたが、視聴数が増えないため、配信期間を 2022 年 3 月末まで延長し、定期試験後に視聴のアナウンスをすることとした。 2) 短期海外研修に関する情報収集 9 月開催も視野に入れ、マレーシアだけでなく、台湾、マレーシア・シンガポールにおける研修について情報収集した。また、委員 2 名が海外教育旅行オンラインセミナーを受講し、コロナ禍における各国の取り組みについて情報収集した。 3) 国際交流等の開催情報の提供について 新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言等により国際交流に関する開催情報は少なかったが、JICA 北海道のイベント情報や外国文化を知るサイト等の情報を Teams にアップした。2 月末に JICA 北海道の見学会を検討していたが、感染拡大のため中止した。 4) 外国大学との交流、海外留学等について 文部科学省「海外の大学との大学間交流協定、海外における拠点に関する調査結果」から他大学の状況を確認した。また、本学における国際交流について委員で意見を出し合った。
<p>活動内容の評価 (Check)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) 講演会の開催について 視聴者は学生 3 名、教職員 7 名であった。Forms アンケートは、講演

	<p>内容について大変よかった9名、よかった1名で、視聴した学生2名の自由記述から他国の公衆衛生、健康の考え方や信条の違いを理解できたようであった。オンデマンドでの開催について大変よかった6名、よかった3名、開催時期について大変よかった6名、よかった3名、オンデマンド開催と開催時期についてあまりよくなかったと回答した1名の理由記載はなかった。昨年はオンラインを併用することで視聴数が伸びたが、今年度は1か月の視聴期間を2カ月以上延長しても視聴数が伸びなかった。3月末まで配信予定であるが、次年度は国際交流講演会に関する学生のニーズを把握し、ニーズにあった講演会を企画すること、講演会の参加者を増やすための企画を考える必要がある。</p> <p>2) 短期海外研修について 9月の海外研修は3月に比べて研修費用が高くなること、台湾、マレーシア・シンガポールは視察が少ないことから、バンコク経由マレーシアの研修が妥当と考えられた。しかし次年度の新型コロナウイルス感染症の状況も読めないこと、2019年度は募集人員に満たず短期海外研修が中止となった経緯があることから、2023年度開催に向け、次年度は学生の海外研修に関するニーズ調査を実施すると共に、マレーシアの文化等を紹介する企画など、学生の関心を高める工夫をする必要がある。</p> <p>3) 国際交流等の開催情報の提供について Teamsに国際交流に関する情報をアップしたが、定期的なアップにならなかったため、次年度は担当者を決め、定期的に情報をアップする必要がある。また、学生の国際交流の機会をもつために、感染状況をみながらJICA北海道の見学会を企画・実施する。</p> <p>4) 外国大学との交流、海外留学等について 本学における外国大学との交流、海外留学等について引き続き情報収集を続け、交流の機会について検討する必要がある。</p>
<p>次年度への課題・改善方策 (Action)</p>	<p>1) 講演会の開催について 学生のニーズ調査を行い、ニーズに合った国際交流講演会の内容、及び講演会の参加者を増やせるような企画を考え、講演会を開催する。</p> <p>2) 短期海外研修について 学生のニーズ調査を行うと同時に、マレーシアへの関心を高めるための企画を考え、実施する。</p> <p>3) 国際交流等の開催情報の提供について 担当者を決め、定期的に情報をTeamsにアップしていく。感染状況をみながらJICA北海道の見学会を企画・実施する。</p> <p>4) 外国大学との交流や海外留学等について情報収集を継続する。</p>

2021 年度 委員会等活動報告書

委員会等	情報ネットワーク委員会
作成者	末光 厚夫

項 目	内 容
<p>【前年度】 次年度への 課題・改善方策 (Problem)</p>	<p>1) 学生がソーシャルメディアの特徴を自覚し、正しく利用できるよう啓発活動を継続的に行う。</p> <p>(1) 作成したソーシャルメディア教育のための入学前配布パンフレットについて、いつ読んでいるか、内容を理解できているか等を引き続き調査し、必要に応じて追加・修正を行っていく。また、このパンフレットの効果を見るために、本学が作成している「札幌保健医療大学ソーシャルメディアガイドライン」と「Office365 を利用した情報ネットワークのガイドライン」を読んでいる学生数の年次変化を追跡調査する。</p> <p>(2) ガイダンスでは、限られた時間の中で効率よく教育を行うことができるよう、学生実態調査の結果より問題のあった内容に対する説明、昨今の高校生が犯しやすい問題や巻き込まれやすい脅威などを中心に教育内容を取捨選択していく。また、ガイダンス以降の情報倫理教育については、ネット配信による自主的な学習は現状では効果的でないので、大学の教室で実施することを第一として計画していく。さらに、学年の進度に合わせた内容を教育していくことも目標とする。</p> <p>(3) 本年度のガイダンスは出席率が良かったので、次年度も本年度と同様に授業と授業の間の空きコマに設定していく。ガイダンス以降の情報倫理教育では、ネット配信による自主的な学習は現状では効果的でないので、大学の教室で実施することを第一として計画していく。さらに、学年の進度に合わせた内容を教育していくことも目標とする。特に本年度購入した「映像で考える！看護のための情報リテラシー」のDVDの中から、それぞれの学年に合った内容を上映していく。</p> <p>2) 学生の ICT 利用・情報管理・セキュリティに関する実態調査を行い、本学学生の状況と課題を明らかにして、委員会の施策に反映していく。なるべく高い回収率を実現するために、当面は、新年度ガイダンスの中で、紙で用紙を配布し、その時間内に回答してもらう方法で行う。ただし、Web で回答する仕組みも導入し、紙の調査票に QR コードを記載して、スマホでも回答できるようにして、回答の傾向をあわせて調査する。</p> <p>3) 「2021 年度大学運営に関する基本方針」の 4 つの項目について、総務課や教務委員会等と連携して、本委員会で貢献できることを議論する。</p> <p>4) 新しく登場してくる教育向けの技術や機器、サービスに本委員会がしっかりとついて行けるように、引き続き教育向け ICT の情報収集や普及啓発を行う。なお、新型コロナウイルス感染症の影響によって、直接参加することが難しくなった場合には、リモート参加可能な教育向け ICT のための EXPO や展覧会を探して情報収集する。</p> <p>5) 新しいネットの脅威や、ネット社会の新たな潮流をフォローして情報倫理教育に反映できるように、情報モラルやセキュリティのセミナーや講習会に参加して情報収集を行う。なお、新型コロナウイルス感染症の影響によって、直接参加することが難しくなった場合には、リモート参加可能で有用なウェビナー（オンラインセミナー）や講習会を探して情報収集する。また、教職員の情報モラル・セキュリティのリテラシーを高めるための情報発信や研修会を実施していく。新型コロナウイルス感染症の影響で集まらない場合は、リモートでの実施も検討する。</p>

項 目	内 容
<p>今年度の活動計画 (目標・課題) (Plan)</p>	<p>1) 学生がソーシャルメディアの特徴を自覚し、正しく利用できるよう啓発活動を行う。</p> <p>(1) 入学前配布パンフレット(内容: ソーシャルメディア教育)についてアンケート調査を行い、内容や配布方法について検討を行う。そして、次年度の入学前配布パンフレットを作成し、次年度の入学生に送付する。</p> <p>(2) 新入生向けにソーシャルメディアを正しく活用できるよう啓発教育を行う。</p> <p>(3) 在学生向けにソーシャルメディアを正しく活用できるよう啓発教育を行う。</p> <p>2) 学生の ICT 利用・情報管理・セキュリティに関する実態調査を実施して現状把握を行い、必要に応じて対策を講じる。</p> <p>3) 「2021 年度大学運営に関する基本方針」に沿って、ICT 関連項目への協力をを行う。</p> <p>4) 教育向け ICT の情報収集・普及啓発を行う。</p> <p>5) 情報モラル・セキュリティに関する情報を収集し、有益な情報の発信や研修会を実施する。</p>
<p>活 動 内 容 (Do)</p>	<p>1) の活動内容は以下の通りである。</p> <p>(1) 入学前配布パンフレットの通読状況等についてアンケート調査を行った。この結果に基づき、引き続き昨年度と同様の内容で入学前配布パンフレットを作成し、入学生への送付物に同梱して配布する。</p> <p>(2) 新入生ガイダンスにおいて、カスペルスキー製作の「セキュリティとモラルのガイドブック」を配布し、情報倫理の説明、及びソーシャルメディアの使用上の留意点について説明を行った。また、後期における教育は、情報倫理の動画をネット配信することで行った。</p> <p>(3) 在学生に対しても新入生と同様に、新学期ガイダンスにおいて、ソーシャルメディアの使用上の留意点について説明を行った。さらに、情報倫理 DVD の中から、在学生にとって有益な内容の動画を視聴してもらった。また、後期における教育は、情報倫理の動画をネット配信することで行った。</p> <p>2) 新入生及び在学生に対して、学生の ICT 利用・情報管理・セキュリティに関する実態調査を行った。</p> <p>3) 学長の依頼を受けて、本学の助手・助教・講師に対して、ActLearn2(電子教科書ツール)の試用と、その感想についてのアンケート調査を行った。</p> <p>4) 丸善雄松堂主催の「リアル+オンライン授業における電子教科書の可能性」オンラインイベントに参加して情報収集を行った。</p> <p>5) 看護学科の実習運営部会より依頼を受けて、次年度以降の実習記録の保管方法について検討を行い、取り扱い方法等の助言を行った。</p> <p>また、情報倫理教育のためのデジタルビデオシリーズの新巻を購入し、各委員で視聴して内容を確認した。</p>
<p>活動内容の評価 (Check)</p>	<p>1) の活動内容の評価は以下の通りである。</p> <p>(1) パンフレットに関する調査結果より、入学前に約 50%が、入学後も含めると約 70%の新入生が読んでいることがわかった。また、内容の理解についても、読んだ新入生のほぼ全員が「十分に理解できた」または「ある程度理解できた」と回答していた。これらの結果より、概ね想定していたパンフレットが作成できていたものと思われる。従って、特に大きな問題はないとの判断から、次年度も同様の内容でパンフレットを作成し、同様の配布方法を執ることとした。</p> <p>(2) 新入生に対しては、新入生ガイダンスの中で 60 分かけて情報倫理とソーシャルメディアについての説明を行ったので、必要な内容はほ</p>

ぼ伝えることができた。一方、後期に行う予定だった情報倫理の動画上映による教育は、当初は大学で実施する予定であったが、諸事情により、大学での実施が困難となってしまったため、ネット配信に切り替えて実施することとなった。学生の視聴率が20%程度と低い状況であった。

(3) 在学生に対しては、新学期ガイダンスとは別日に約60分かけて情報倫理とソーシャルメディアについての説明と動画上映を行ったので、必要な内容はほぼ伝えることができた。今回も、授業と授業の間の空きコマにガイダンスを設定した学年の出席率は良かったが(約66~87%)、それ以外に行ったガイダンスの出席率は低かった(約23%)。一方、ネット配信の情報倫理動画の視聴については、在学生も非常に低調であり、あまり効果的ではなかった。後期に行う予定だった情報倫理の動画上映による教育は、当初は大学で実施する予定であったが、諸事情により、大学での実施が困難となってしまったため、ネット配信に切り替えて実施することとなった。学生の視聴率については20%を下回る状況であった。

2) 上記の新入生及び在学生のガイダンス時に、紙の調査票を配布して実施した。回収率は約72%で昨年より4%増加した。ガイダンスを授業と授業の空きコマに設定することの効果は今回も確かめられた。学生の現状や課題など明らかになった主な結果は次の通りである。

- ・PC またはタブレットの所有率(4月時点)は1年次が両学科とも約98%、2年次の看護が92%・栄養が97%、3年次以上は栄養の3年次を除いて100%であった(栄養の3年次は約88%)。

- ・PC またはタブレットを所有している学生(436名)のうち、ウィルス対策を行っている割合は約86%であり、昨年度(約90%)よりも若干減少していた。

- ・SNS の利用形態(どのサービスを使用しているか)については、全国的な平均とほぼ同じであり、昨年度と大きな違いはなかった。

- ・看護の4年次を除いて、USBメモリにパスワードをかけていない在学生の割合が多かった。

 - 看護: 2年次(約71%), 3年次(約59%), 4年次(約16%)

 - 栄養: 2年次(約77%), 3年次(約73%), 4年次(約73%)

- ・「札幌保健医療大学ソーシャルメディアガイドライン」と「Office365を利用した情報ネットワークのガイドライン」を読んだことがない在学生の割合がまだまだ多かった。今のところ、入学前配布パンフレットを送付している効果は見られていない。

 - 看護: 2年次(約80%), 3年次(約55%), 4年次(約78%)

 - 栄養: 2年次(約69%), 3年次(約55%), 4年次(約36%)

3) ActLearn2 がインストールされ、いくつかの教科書を利用可能なiPadを2台用意し、看護学科と栄養学科の講師以下の教員に順番にそれぞれ貸し出して試用してもらい、作成したアンケートに回答してもらった。アンケートの主な結果は以下の通りである。

- ・機器(タブレット)とアプリ(ActLearn2)に関して、教科書の閲覧については十分使用に耐えうるが、アプリの機能面(付箋、書き込みなど)についてはまだいくつか問題がある。

- ・看護学科では電子教科書への切り替えが困難と感じている教員はいないが、栄養学科の教員は半分が困難と感じていた。

4) オンラインイベントの主な内容は以下の通りである。

- ・閲覧アプリ ActLearn2 について、いつでもどこでも端末さえあれば、教科書・電子化された資料を閲覧することができ、同時に3端末まで使用可能である。そのため、自宅に端末を忘れた場合も手持ちのスマートフォンで閲覧できる。

- ・実際の導入事例(看護学科)について、臨地実習先に参考書等の教材を持ち込むと荷物がかさばるため、ActLearn2 に格納して活用してい

	<p>るという報告があった。その際の注意点として、実習先に持っていく場合は、事前に実習先の病院等に確認が必要となる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電子教科書（コンテンツ）について、語学教育用に向けて音声付の教科書も作成されており、多様性が増している。 <p>5) 次年度から実習記録の保管方法を USB メモリの使用から OneDrive 及び Teams を使用したデータ保管へと変更したいとの意向であったので、その方法におけるセキュリティ上の問題やその対策について検討し、申し合わせ事項の案と実習共通要項の修正案、及び操作方法的簡易マニュアルを作成して提示した。</p> <p>購入したデジタルビデオについては、身近な問題をテーマに学習することができるビデオクリップ集となっている。ドラマ仕立てで、わかりやすく作られており、次年度のガイダンスや情報倫理教育に使用する予定である。</p>
<p>次年度への課題・改善方策 (Action)</p>	<p>1) 学生がソーシャルメディアの特徴を自覚し、正しく利用できるよう啓発活動を継続的に行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 作成したソーシャルメディア教育のための入学前配布パンフレットについて、いつ読んでいるか、内容を理解できているか等を引き続き調査し、調査結果に応じて内容や配布方法の検討を行っていく。 (2) 新入生ガイダンスでは、説明内容により最近のテーマを盛り込んでいく。また、後期の情報倫理教育については、大学の教室に学生を集めて実施できるように、早めにスケジュールを抑えて、学生へ配布する時間割に記載できるようにする。 (3) 本年度もガイダンスの出席率は良かったので、次年度も授業と授業の間の空きコマに（可能であれば、定例ガイダンス内の時間に）ガイダンスを設定する。また、後期の情報倫理教育については、大学の教室に学生を集めて実施できるように、早めにスケジュールを抑えて、学生へ配布する時間割に記載できるようにする。 <p>2) 学生の ICT 利用・情報管理・セキュリティに関する実態調査を行い、本学学生の状況と課題を明らかにして、委員会の施策に反映していく。なるべく高い回収率を維持するために、次年度も対面の新年度ガイダンス内で実態調査を行う。なお、次年度は紙の調査票の回収と集計にかかる負担を軽減するために、在学生には Forms を利用した Web アンケート方式を用いる。これまでの学内の Web アンケートの実績から、催促を行うことで紙の調査票と同等の回収率を達成できるとのことなので、本調査についても回収率が低い場合は催促を行う。新入生については、Forms の利用にまだ慣れていないので、これまでと同様に紙の調査票を使用する。</p> <p>3) 「2022 年度大学運営に関する基本方針」に沿って、ICT 関連項目への協力を行う。特に、次年度より授業で利用が開始される ActLearn2 に関して利用状況を調査し、必要に応じて支援する。</p> <p>4) 新しく登場してくる教育向けの技術や機器、サービスを本委員会がフォローできるように、教育向け ICT の情報収集や普及啓発を行う。リモート参加可能な EXPO や展示会には積極的に参加して情報収集していく。</p> <p>5) 新しいネットの脅威や、ネット社会の新たな潮流を理解して情報倫理教育に反映できるように、情報モラルやセキュリティのセミナーや講習会に参加して情報収集を行う。リモート参加可能で有用なウェビナーや講習会には積極的に参加して情報収集する。また、情報モラル・セキュリティ教育のための Web コンテンツ利用や研修会等を検討し、教職員向けに実施する。</p>

2021 年度 委員会等活動報告書

委員会等	地域連携委員会
作 成 者	齋藤早香枝

項 目	内 容
<p>【前年度】 次年度への 課題・改善方策 (Problem)</p>	<p>1) 看護学科及び栄養学科の二学科体制を活かした協働の取組みをさらに進め、学生の主体的な取組みができるよう積極的な働きかけを行う。また、コロナ禍における新しい共同事業のあり方、可能性を推進することについて再検討する必要がある。五者連携事業についても東区を中心に新しい在り方を検討しなければならない。特に、学生の参加は、地域貢献の側面だけではなく、学生自身の成長にもつながることから、新しい地域連携のスタイルを確立するとともに、積極的に社会活動に参加する働きかけを行う。</p> <p>2) 公開講座については、会場を紀伊国屋札幌本店インナーガーデンで行うことと内容は現在のスタイルです。またコロナ禍においても、多くの市民の参加を促すために、幅広く働きかけを行う。</p>

項 目	内 容
<p>今年度の活動計画 (目標・課題) (Plan)</p>	<p>1) 二学科体制を活かした協働の取り組みと学生の参加の推進 (1) 札幌市及び東区との協定に基づいた五者連携事業及び中沼西地区の夏祭りに、新型コロナウイルス感染症の状況に応じながら可能な範囲で参加し、地域に貢献する。 (2) 事業の推進に当たって、学生ボランティアの参加を促し、またボランティア活動の機軸となっていたサークル組織との連携を再構築する。</p> <p>2) 公開講座の実施 感染対策を行ったうえで、紀伊国屋札幌本店インナーガーデンでの公開講座を年2回実施する。</p>
<p>活 動 内 容 (Do)</p>	<p>1) 二学科体制を活かした協働の取り組みと学生の参加の推進 (1) 新型コロナウイルス感染症の拡大があり、五者連携事業のほとんどが中止となった。唯一、東区健康づくりフェスティバルに代わって「健康づくりパネル展」が開催され、栄養学科の学生が作成した「減塩」に関するパネルを出展し、1月17日～21日まで東区民センターで展示された。 中沼西地区の夏祭りも中止となっている。 (2) 「健康づくりパネル展」でのパネル作成に関して、内容やポスターの構成など助言し発表をサポートした。 また今年度栄養学科から始まった「特別総合科目」で、学生の公開講座の聴講や地域連携活動のボランティア参加が授業枠として扱われることとなったため、その出席に関連する部分に関して、原則を以下のように決めた。</p> <p>① ボランティアの募集 「特別総合科目」の授業とする場合は、授業の Teams にあげることとなっているため、Teams で募集をする。</p> <p>② 「特別総合科目」との関連でのボランティア参加者決定の方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 募集時に、「特別総合科目」の授業となることを明記する。 ・ 人数制限がある場合は、おおよその人数を示すこととする。 ・ 参加申し込み時に、有償または無償の選択肢を説明し、記載してもらう。無償でも交通費は手続きをとれば支給される。 ・ 人数制限がある場合は、参加できない可能性を話し了解を得る。

	<ul style="list-style-type: none"> ・参加できなかった学生は、次の機会に優先的にできるように配慮する。 ・多いときの選抜方法—公平になるように工夫をする。原則抽選か先着順が望ましいが、実施の観点からの必要な人選は可能とする。 <p>③具体的対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公開講座の聴講：市民への社会貢献と本学の広報活動という目的、及びコロナ禍で参加人数に限られることから、参加人数は制限する。1イベントあたり学生は5～7名までとする。 ・夏祭り、他：後進の育成も考え、現時点では人数制限を設けない。授業とするために大人数の申し込みがあった場合は、年間の活動で分ける。授業とする学生には、準備からしっかり関わるよう指導する。 <p>2) 公開講座の実施</p> <p>6月の公開講座を企画し準備を進めていたが、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、いったん中止とした。その内容を10月30日に第12回公開講座として実施している。</p> <p>【札幌保健医療大学 第12回公開講座】 開催日：10月30日（土） 主催：札幌保健医療大学、紀伊国屋書店札幌本店 後援：札幌市 時間：14:00～15:30 場所：紀伊国屋書店札幌本店 1F インナーガーデン 定員：48名 テーマ：「光と食とサーカディアンリズム—良質な睡眠のための生活のヒント」 演目とパネラー： 「サーカディアンリズムと睡眠～光を上手に使いましょう～」 札幌保健医療大学保健医療学部看護学科 教授 萩野悦子 「時間栄養学とタイミングの栄養学～本当に朝食って必要なの?～」 札幌保健医療大学保健医療学部栄養学科 教授 千葉昌樹 コーディネーター： 札幌保健医療大学保健医療学部看護学科 教授 齋藤早香枝</p>
<p>活動内容の評価 (Check)</p>	<p>1) 二学科体制を活かした協働の取り組みと学生の参加の推進</p> <p>(1) 新型コロナウイルス感染症の拡大があり、五者連携事業は昨年同様ほとんど中止となった。このような中でも北海道、札幌市、東区に貢献できる活動を模索する必要があるが、未曾有の新型コロナウイルス感染症の拡大状況に推移を見守るしかできなかった。従来活動の再開に合わせた活動の他、コロナ禍での地域のニーズに応じた臨時の小さなプロジェクトなどを考えていくことも検討したい。</p> <p>(2) 今年度は地域連携活動の再開に合わせて、学生ボランティアの参加を促し、基軸となるサークルとの連携を図っていく予定であったが、ボランティアを必要とする活動自体がなかったため学生の活動支援もなかった。また、2年間活動が途絶えているため、基軸となっていたサークル内に活動を行なえるメンバーが存在せず、地域貢献活動が再開された際に支障をきたすことが考えられる。次年度は、活動の実施が不明な状態が続いていても、再開した時に活動を行えるような準備をすすめる必要がある。また今年度栄養学科から始まった「特別総合科目」は履修者がいなかったため、参加募集などの具体的な評価は次年度におこなうこととする。次年度は看護学科も新カリキュラムが始まるので、実施に当たって不都合があれば柔軟に対応していきたいと考える。</p> <p>2) 公開講座の実施（別紙参照）</p> <p>第12回公開講座は、48名定員のところ一般参加者は20名であった。アンケートは14名から回収し回収率は70%である。</p>

	<p>アンケートから、参加者の男女比は1:4で女性が多く、年代は30代から70代に渡っていたが、参加者で最も多かったのは50代で、次いで60代であった。この二つの世代で64%を占め、前年度（第11回）は70代が最も多かったことから、内容が壮年期に関心の高いものであったと考えられる。今回初めての参加という人がほとんどであった。また4割弱の方が、紀伊国屋書店を訪れた際に本公開講座を知り参加するという状態であった。開催の周知方法は従来と変わらず、HPでの告知や道民カレッジの活用などを行ったが、今後も多くの市民に参加していただけるよう周知に努力する必要がある。一方で、緊急事態宣言が解除されて約1か月後の開催であり、感染を防ぐための不要不急の外出を避ける傾向が続いていることが、事前に講座を知ってやってくる参加者が少なかったことと関連していると思われる。</p> <p>参加者の満足度は高く、8割近くの参加者が「満足」と答え、残りの人も「やや満足」と評価している。参加者側の希望としては、資料の配布や配布物の説明が欲しかったというものがあり、次回改善していく必要がある。</p>
<p>次年度への 課題・改善方策 (Action)</p>	<p>1) 新型コロナウイルス感染症が発生する前に行われていた、札幌市及び東区との協定に基づいた五者連携事業及び中沼西地区の夏祭りの再開に応じた地域への貢献の他、コロナ禍における事業の可能性の模索を続け、地域貢献の可能性を広げる。</p> <p>また、学生の参加を促し、ボランティア活動の中心を担うサークルとの連携をはかり、地域連携のボランティア活動をサポートする。</p> <p>2) 公開講座に関しては、満足度調査の結果を踏まえ、とくに資料の配布や説明を行うとともに、本学の二学科体制の特徴を活かした内容の充実に努める。</p>

2021年度 札幌保健医療大学 第12回公開講座 アンケート集計結果

実施日時： 2021年10月30日（土）14：00～15：30

開催場所： 札幌紀伊国屋本店インナーガーデン

イベント名：「光と食とサーカディアンリズムー良質な睡眠のための生活のヒントー」

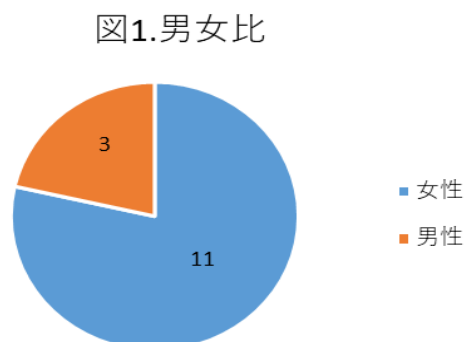
1. 参加人数およびアンケート回収数（率）

客席数を48名で設定した中、参加者は37名であった。学内実習となった栄養学科の公衆栄養学実習の学生が参加しており、一般参加者は20名である。アンケートは、14名から回収し、回収率は70.0%であった（学生はアンケートの提出なし）。

新型コロナウイルス感染症拡大による緊急事態宣言解除から約1カ月後での開催であったため一般参加が少なかったが、今後参加者が増えていくよう工夫をしていく必要がある。

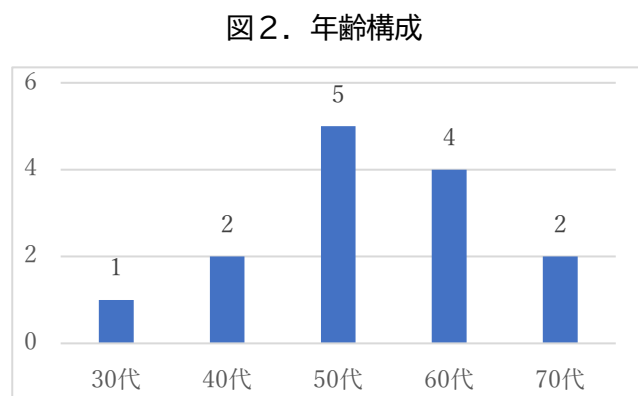
2. 性別（図1）

14名中11名が女性、3名が男性であり、女性の割合が非常に高かった。



3. 年齢構成（図2）

50代を中心に、30代から70代までの幅広い年代からの参加があった。



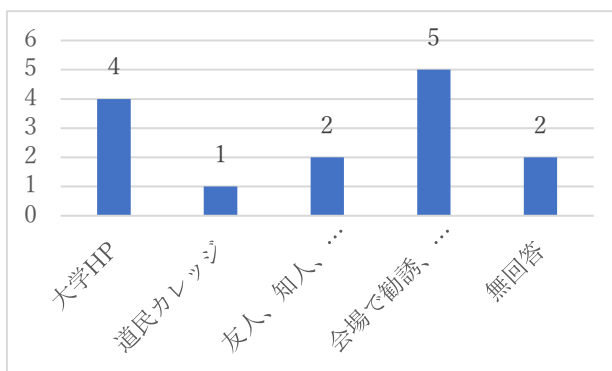
4. 参加回数

はじめて参加の方が13名、4回目以上の方が1名であった。はじめて参加がほとんどであるがリピーターもおり、定例行事として定着するように継続して公開講座を実施するとともに、多くの市民に参加していただけるように幅広く働きかけを行っていく必要がある。

5. 認知方法（図3）

参加者の大半は、当日、本屋での誘導や通りすがりや、入口でチラシを閲覧になった方々や、大学ホームページを閲覧になった方である。道民カレッジからの参加者は少なかったが、新型コロナウイルス感染による外出自粛によるものか、テーマの関心によるものかは不明である。

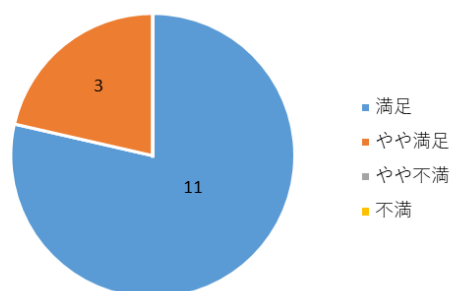
図3. 認知方法



6. 満足度（図4）

アンケートでは、78.5%（11名）が満足、残り21.4%（3名）がやや満足と答えており、全体の満足度は高かったと考える。

図4. 満足度



※ 図1～4内の数字は全て人数

2021 年度 委員会等活動報告書

委員会等	教職課程委員会
作成者	所 伸一

項 目	内 容
<p>【前年度】 次年度への 課題・改善方策 (Problem)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) 新入生向け教職課程ガイダンスを魅力ある形で実施し、関心と意欲のある学生を引きつけるよう努める。 2) 教職課程の新規科目（3年次「特別支援教育概論」）をふくむ円滑な開講、「履修カルテ」の書き方指導、「栄養教育実習」の事前ガイダンス、教員採用試験「対策」をそれぞれ実施する。 3) 教職課程委員会を機敏に開催して運営する。 4) 教員養成関係の行政動向に適切に対応し、かつ本学教職課程の体制維持と発展のための態勢をとる。

項 目	内 容
<p>今年度の活動計画 (目標・課題) (Plan)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) 新入生向け教職課程ガイダンスを魅力ある形で実施する。 2) ①教職課程の新規科目をふくむ円滑な開講、②「履修カルテ」の書き方指導、③「栄養教育実習」の事前ガイダンス、④教員採用試験（以下「教採」という。）「対策」をそれぞれ実施する。 3) 教職課程委員会を機敏に開催する。 4) ①教職課程行政への対応を原則的に行う、再課程認可時の「事後対応」条件をクリアする、②教職課程の維持では、予定の専任教員の交代に伴い予想される交代講師陣の確保に努める。
<p>活 動 内 容 (Do)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) 新入生ガイダンス時に、新4年次生の応援を得て、親密度を増した雰囲気ガイダンスを行った。 2) ①1年次向け科目（教職概論、教育制度論、教育原理）、2年次科目（教育課程論、教育方法論、道徳教育論、生徒指導論、特別活動・総合的学習指導論）、3年次科目（教育心理学、教育相談論、特別支援教育概論）、4年次科目（栄養教育実習事前・事後指導、栄養教育実習、教職実践演習）を実施した。②「教職課程履修カルテ」の書き方について、1年次生への全般的な指示のほかに、全学年に対して個別の改善指導を行った。③「栄養教育実習」の事前ガイダンスは、3年次履修生全員（15名）に対して行った。実施日については面談時に学生から希望があった2月（定期試験終了後）に実施した。④3年次生を対象に教採対策講座を実施した（2022年2月中旬3日間、計7コマ、12名参加）。 3) 教職課程委員会を、情報教育の科目新設に関する文科省事務連絡への対応（4月）、北海道私立大学・短期大学教職課程研究連絡協議会総会（7月4日 Web 開催、参加）にみる他校動向の報告、及び予定の次期専任教員と学外依頼講師の担当科目の調整・審議、非常勤講師確保の作業（10月）、委員会活動の年間総括と報告書の準備（3月）のために開催した。 4) 2019年再課程認可時の条件への「事後対応」として実績を届け出た（8月）。
<p>活動内容の評価 (Check)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) 教職課程の選択学生数では、前年度は新入生43名中15名であったのに対して、今年度は60名中15名を得ることができた。課程選択の比率面では下がった（35%→25%）が、教職への意欲のある学生を引きつけていると考えている。 2) 新規開講科目を含む全ての科目を、開始後に感染予防のため遠隔授業形態に変更する事態が一部に生じたが、事故無く実施することができた。「履修カルテ」の書き方に関わる文章指導を学生個別に行った。「栄

	<p>養教育実習」の事前ガイダンスは欠席学生もなく実施出来た（3年次履修生15名）。教採対策講座は2月に教職教養を2日間（5コマ）、専門科目を1日（2コマ）実施した。講座終了後に学生に口頭で感想を聞いたところ、「（時間帯設定、内容・形態が）良かった。」「勉強方法が分かった」などと好評であった。</p> <p>3）教職課程委員会は課題の発生と諸条件の変動に応じ柔軟に運用された。</p> <p>4）本委員会の対応により認可の留保条件をクリアすることができた（2022年2月15日文科省より通知）</p>
<p>次年度への 課題・改善方策 (Action)</p>	<p>1）新入生向け教職課程ガイダンスを魅力ある形で実施し、関心と意欲のある学生を引きつけるよう努める。</p> <p>2）担当の教員が大幅に入れ替わった下で、新しい実施形態の栄養教育実習を含め、教職課程の科目を円滑に開講する。「履修カルテ」の書き方指導、「栄養教育実習」の事前ガイダンス、教採「対策」をそれぞれ実施する。</p> <p>3）教職課程委員会を機敏に開催して運営する。</p> <p>4）教員養成関係の行政動向に適切に対応し、かつ本学教職課程の体制維持と発展のための態勢をとる。</p>

2021 年度 委員会等活動報告書

委員会等	看護学科 実習運営部会
作成者	木津 由美子

項 目	内 容
<p>【前年度】 次年度への 課題・改善方策 (Problem)</p> <p>※「内容」変更不可</p>	<p>1) 実習水準確保のための対策</p> <p>(1) 実習施設との連携体制の維持継続</p> <p>①2022 年度実習協議会の実施方法の検討</p> <p>②2021 年度実習指導者研修会の実施方法の検討</p> <p>③2021 年度の臨地実習について実習施設との新型コロナウイルス感染症対応の調整</p> <p>④2022 年度版の臨地実習共通要項の見直し・作成</p> <p>⑤2022 年度版の指導の手引きの見直し・作成</p> <p>⑥2021 年度の重複実習施設の担当者の確定と調整方法の検討</p> <p>(2) 実習開始前準備の効果的なオリエンテーションの工夫</p> <p>①3・4 年次の実習全体オリエンテーションの内容の検討</p> <p>②個人情報保護に関するオリエンテーションの内容の検討</p> <p>③体調管理の重要性と感染予防の行動に関するオリエンテーションの強化</p> <p>(3) 学生にとって安全で効果的な教員配置計画の履行</p> <p>①指導の手引きに基づくガイダンスの実施</p> <p>②非常勤指導員の確保</p> <p>2) 事故防止・個人情報保護に対する対策の評価・検討</p> <p>(1) インシデント・アクシデント発生時の報告書の作成と情報共有の検討</p> <p>(2) 年間に発生したインシデント・アクシデントの発生状況・要因の分析と報告</p> <p>(3) インシデント・アクシデント発生防止の対策の検討</p> <p>3) 実習に支障をきたさない効果的な「抗体価検査結果」の取り扱い</p> <p>4) 新型コロナウイルス感染症の感染拡大による影響に対応</p>

項 目	内 容
<p>今年度の活動計画 (目標・課題) (Plan)</p>	<p>1) 実習水準確保のための対策</p> <p>(1) 実習施設との連携体制の維持継続</p> <p>①2022 年度実習協議会の実施方法の検討・企画運営</p> <p>②2021 年度実習指導者研修会の実施方法の検討</p> <p>③2021 年度の臨地実習について実習施設との新型コロナウイルス感染症対応の調整</p> <p>④2022 年度版の臨地実習共通要項の見直し・作成</p> <p>⑤2022 年度版の指導の手引きの見直し・作成</p> <p>⑥2021 年度の重複実習施設の担当者の確定と調整方法の検討</p> <p>(2) 実習開始前準備の効果的なオリエンテーションの工夫</p> <p>①3・4 年次の実習全体オリエンテーションの内容の検討</p> <p>②個人情報保護に関するオリエンテーションの内容の検討</p> <p>③体調管理の重要性と感染予防の行動に関するオリエンテーションの強化</p> <p>(3) 学生にとって安全で効果的な教員配置計画の履行</p> <p>①指導の手引きに基づくガイダンスの実施</p> <p>②非常勤指導員の確保</p>

	<p>2) 事故防止・個人情報保護に対する対策の評価・検討</p> <p>(1) インシデント・アクシデント発生時の報告書の作成と情報共有の検討</p> <p>(2) 年間に発生したインシデント・アクシデントの発生状況・要因の分析と報告</p> <p>(3) インシデント・アクシデント発生防止の対策の検討</p> <p>3) 実習に支障をきたさない効果的な「抗体価検査結果」の取り扱い</p> <p>4) 新型コロナウイルス感染症の感染拡大による影響に対応</p>
<p>活 動 内 容 (Do)</p>	<p>1) 実習水準確保のための対策</p> <p>(1) 実習施設との連携体制の維持継続</p> <p>①2022 年度実習協議会の実施方法の検討・企画運営</p> <p>例年実習協議会は、WG を立ち上げて企画運営を担当している。現在、新型コロナウイルス感染症の拡大状況を見据えて 2022 年 3 月 17 日に開催予定で Zoom の使用によるオンラインでの準備を進めている。</p> <p>②2021 年度実習指導者研修会の実施方法の検討・企画運営</p> <p>例年 11 月に実施しているが、今年度は感染状況を見据えた結果 1 月の開催となった。研修会は当初、対面で行う計画をしていたが、オンラインに変更して準備を進め、2022 年 1 月 21 日(金)13:00~15:30 にオンライン(Zoom)で実施した。テーマは、コロナ禍における看護学生の現状と実習指導の工夫とし、稲葉佳江教授より看護教育の変遷と開学 10 年目を迎えた本学の目指す看護学生像についての講演とグループワークを行った。参加者は、臨地実習指導に携わっている実習指導者 65 名、非常勤指導員 2 名、本学看護学科教員 24 名の総数 91 名で、コロナ禍での本学の教育状況と学生の傾向を知ることができよかったと高評価を得た。</p> <p>③2021 年度の臨地実習について実習施設との新型コロナウイルス感染症対応の調整</p> <p>4 月最初の時点では、臨地での実習予定で進めていたが、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、緊急事態宣言とまん延防止等重点措置が発出され、実習施設の基準により実習受入れが制限された施設においては学内実習へ変更をした。コロナ禍での実習の受入れについては、新型コロナワクチン接種を終了し 2 週間以上経過していることや実習施設の感染対策に則り実習を行うという調整を行い、できるだけ臨地での実習ができるように対応をした。実習施設からは学内実習に対して指導者のメッセージや動画撮影、紙上事例への助言など協力が得られた。</p> <p>また学内実習では、新型コロナウイルス感染症対策として三密を回避する必要から、「学内実習の進め方(演習)ガイドライン」を作成し、学内での実習を行うための教室や実習室の確保・実習の方法のルールを作成し看護学科の教員と学生に周知をした。</p> <p>④2022 年度版の臨地実習共通要項の見直し・作成</p> <p>2022 年度「臨地実習共通要項」の見直しを行った。2021 年度は、大学の新型コロナウイルス感染症対策ハンドブックを合わせて作成したが、新型コロナウイルス感染症対応が新型コロナワクチン接種や濃厚接触者の考え方等が変わるため、2022 年度からは共通要項には含めない方針とした。2022 年度の変更点は、看護学科の新カリキュラムが運用されることから履修細則の追再実習について修正し、記録媒体については情報ネットワーク委員会の協力を得てクラウド対応について追加修正をした。</p> <p>⑤2022 年度版の指導の手引きの見直し・作成</p> <p>2022 年度用として「指導の手引き」を見直したが、変更はなく使用する。</p> <p>⑥2021 年度の重複実習施設の担当者の確定と調整</p> <p>領域で重複している実習施設は、担当者を決め調整内容をフォーマ</p>

ットに記入、共有することを引き続き行った。また、2022年度実習に関しても病院オリエンテーションを実習前に行う施設に関しては、実習運営部会メンバーと協働し日程調整を行った。

(2) 実習開始前準備の効果的なオリエンテーションの工夫

① 3・4年次の実習全体オリエンテーションの実施

4月の在校生ガイダンス時に実施した。全体オリエンテーションの際に新型コロナウイルス感染状況により、学内実習に切り替わる可能性があることも周知をした。

実習施設での受入れができず学内実習へ変更となった際は、各領域で学内実習のオリエンテーションを実施した。

② 個人情報保護に関するオリエンテーションの実施

3・4年次の全体オリエンテーション時に、臨地実習共通要項に基づき看護学生としての個人情報保護の重要性と必要性について説明をした。また実習記録の取扱いの注意事項も合わせて説明を行った。

2年次生には、看護基礎実習Ⅱの全体オリエンテーションで情報の取扱い方について注意事項とともにクイズ形式で考えさせる工夫をした。

③ 体調管理の重要性と感染予防の行動に関するオリエンテーションの強化

新型コロナウイルス感染症拡大が続き、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が発出され、実習施設では実習2週間前からの行動チェックを求められることになった。普段接しない家族を含め複数人での飲食の禁止、実習2週間前からのアルバイトの禁止などの行動制限と日々の体調管理の徹底を5月連休後に学生と保護者に通知をし、各実習オリエンテーションでも説明を行った。他者との会食をするなど規則が守られてないケースがあり、個別指導を行った。

(3) 学生にとって安全で効果的な教員配置計画の履行

① 指導の手引きに基づくガイダンスの実施

各領域で実習指導を行う非常勤指導員に対して、指導の手引きに基づく実習指導ガイダンスを例年同様に実施した。

② 非常勤指導員の確保

各領域で実習指導に必要な非常勤指導員の確保に努めた。非常勤指導員の確保をする方法として、今年度は、基礎看護学領域と成人看護学領域の2領域について、本学ホームページを活用し公募を行ったが応募はなかった。

2) 事故防止・個人情報保護に対する対策の評価・検討

(1) インシデント・アクシデント発生時の報告書の作成と情報共有

2年前に「臨地実習共通要項」の実習における危機管理に関する説明を充実させていることから2021年度も引き続き活用した。同時にインシデントとアクシデント報告書及び「迅速版事故報告書」を引き続き活用し、学生の情報がタイムリーに教学に周知されるようにした。

学生情報の共有、インシデント・アクシデントの報告は、メールで発生したことを周知し、共有フォルダに迅速版事故報告書をアップし学科教員での周知を図った。

(2) 年間に発生したインシデント・アクシデントの発生状況・要因の分析と報告

実習運営部会内でインシデント・アクシデントの発生状況について報告を行い、部会員から各領域へ情報共有を行った。2021年度のアクシデント発生は0件、インシデント発生は25件であった。インシデントの内訳は、看護基礎実習Ⅱが8件と最も多く、次いで看護基礎実習Ⅰが6件、高齢者看護実習が4件、成人実習Ⅰが3件、他母性・成人Ⅱ・総合・公衆衛生看護実習がそれぞれ1件であった。内容は、個人情報に関する実習ファイルの置き忘れが多かった。インシデントは

	<p>1・2年次に多く発生しており、要因は「確認不足」「失念・不注意」が主なもので例年と同様であった。年度末に開催する実習協議会で発生件数などをまとめ、報告書を作成し、実習施設と大学での情報の共有を図っている。</p> <p>(3) インシデント・アクシデント発生防止の対策の実施 インシデント・アクシデント発生防止の留意点の説明は、看護基礎実習Ⅰのオリエンテーションでは、基礎看護領域の教員が行い、看護基礎実習Ⅱ、3・4年次生の領域別看護実習では、実習運営部会員が全体オリエンテーションで実施した。また、その後の領域実習のオリエンテーションでも引き続き、その領域の特性と合わせての事故防止について領域担当者に注意喚起を行っている。</p> <p>3) 実習に支障をきたさない効果的な「抗体価検査結果」の取り扱い 大学で「医療従事者のためのワクチンガイドライン」を基にワクチン接種を進めており、1年次生には入学後に母子健康手帳のコピーを提出してもらっている。ワクチン接種対象の選定は、ガイドラインに沿ったフローシートを用い健康管理室が主体で行っている。実習運営部会では、個人の抗体価検査結果、ワクチン接種の記録等のコピーを「臨地実習共通要項」の裏表紙に貼付するようにし、必要に応じ学生がいつでも自分の状態を提示できるようにしている。これについては継続して実施をする。</p> <p>4) 新型コロナウイルス感染症の感染拡大による影響に対応 新型コロナウイルス感染症拡大で実習施設から実習受入れ見合わせとなった領域は学内実習へと変更となった。学内実習は、昨年度の実績を踏まえ、紙上事例での看護展開を行い、領域によっては、シミュレーションを取り入れ、臨地と同様に学生に考えさせる方法など工夫を行った。臨地での実習は、実習施設のルールに基づき感染対策を行い、施設との調整から半日実習をなる領域が多かった。そのため、実習施設から様々な協力を得て、感染対策の一環としてWebによる実習を一部取り入れ、臨地実習・臨地実習+学内実習・学内実習と三形態の実習となったが、今年度の実習は終了できた。大学の危機管理委員会での方針のもと、実習で感染者が発生しないよう健康管理票の作成・発熱時のフローシートの作成、海外渡航の自己申告票の作成など学内での感染者発生を事前に把握できる準備や消毒薬の準備と消毒の徹底、三密回避を周知した。今後も健康管理については継続する。</p>
<p>活動内容の評価 (Check)</p>	<p>1) 実習水準確保のための対策 (1) 実習施設との連携体制の維持継続 ①2022年度実習協議会の実施方法の検討・企画運営 実習施設からオンライン会議を求められることが多いことから、次年度については対面開催かオンライン開催かを早めに決定する。 ②2021年度実習指導者研修会の実施方法の検討・企画運営 今年度の研修会参加者からコロナ禍での本学の教育状況と学生の傾向を把握できたと高評価を踏まえると、実習施設と本学との教育について共有できる貴重な機会となっている。次年度以降も対面もしくはオンラインでの開催を継続する。 ③2021年度の臨地実習について実習施設との新型コロナウイルス感染症対応の調整 コロナ禍においては各実習施設と実習調整が重要となる。次年度も実習施設との連絡調整を密接に図っていく。また新型コロナウイルス感染症対策の最新の情報を確認し、学内実習での対応の検討は継続して行い、ガイドラインを変更した場合は、教員と学生に周知をしていく。 ④2022年度版の臨地実習共通要項の見直し・作成 コロナ禍で実習環境も変化するため、実習施設と学生、教員間で情報共有できるように毎年見直しを行う。</p>

⑤2022年度版の指導の手引きの見直し・作成

「指導の手引き」は本学での指導が初めてとなる非常勤指導員に、本学の教育理念、方針や実習指導要領を理解してもらう目的で作成しているため、必要に応じて修正をする。

⑥2021年度の重複実習施設の担当者の確定と調整

2021年度に関しては早めに調整を行い共有できたことから、2022年度も、早めの調整を行う。各領域の実習オリエンテーション日程を実習運営部会でまとめ、時間割作成時に調整を図るようにしていく。

(2)実習開始前準備の効果的なオリエンテーションの工夫

①3・4年次の実習全体オリエンテーションの実施

オリエンテーションの内容は毎年吟味をしており、特にコロナ禍においては学生の実習前の感染対策での注意事項や実際の健康管理や行動について具体的に説明し感染対策行動をとれるようにする必要がある。

②個人情報保護に関するオリエンテーションの実施

実習オリエンテーション時に個人情報保護に関する事項は時間を多めにとって行っているが、2022年度からは、実習記録を保存する媒体をクラウドに変更することから、学生に使用方法やルールについて指導を強化していく必要がある。

③体調管理の重要性と感染予防の行動に関するオリエンテーションの強化

今年度ルールを守っていない学生がいたため、臨地実習をするために必要な行動制限と日々の体調管理を徹底することを強化していく必要がある。また学生と保護者に対して、実習開始前に通知を行い、実習オリエンテーションでも指導を強化していく必要がある。

(3)学生にとって安全で効果的な教員配置計画の履行

①指導の手引きに基づくガイダンスの実施

新規採用の非常勤指導員も加わることが予測される。本学の教育と指導の重要性について、「指導の手引き」をもとにガイダンスを行い、教員・非常勤指導員一丸となって実習教育を行う。

②非常勤指導員の確保

各領域で実習指導に必要な非常勤指導員の確保に努めていく。非常勤指導員の確保にあたり、教員のネットワークや本学ホームページでの公募など学生の教育指導の充実を図っていく。

2) 事故防止・個人情報保護に対する対策の評価・検討

(1)インシデント・アクシデント発生時の報告書の作成と情報共有

「インシデントとアクシデント報告書」及び「迅速版事故報告書」は使用に問題なく、情報共有が出来ているため、引き続き活用し、学生の情報がタイムリーに教学に周知することを継続する。

(2)インシデント・アクシデントの年間の発生状況・要因の分析と報告

年間に発生したインシデント・アクシデントの発生状況を分析し、部会員から各領域へ情報共有を図ること、年度末に開催する実習協議会で発生件数などをまとめ報告書を作成し、実習施設と大学での情報の共有も継続する。

(3)インシデント・アクシデント発生防止の対策の実施

インシデント・アクシデント発生防止の留意点の説明は、今後も全体オリエンテーションで実施していく。また、その後の領域実習のオリエンテーションでも引き続き、その領域の特性と合わせての事故防止について領域担当者に注意喚起をすることも継続する。

3) 実習に支障をきたさない効果的な「抗体価検査結果」の取り扱い

実習施設で確認を求められることがあるため、継続して実施をする。新型コロナウイルスワクチン接種についても必要があれば貼付できるように改善をする。

	<p>4) 新型コロナウイルス感染症の感染拡大による影響に対応 新型コロナウイルス感染症拡大で実習施設から実習受入れ見合わせとなることを想定しながら、臨地実習の場合と学内実習の場合の両方の実習計画を検討する必要がある。大学の危機管理委員会の方針のもと、実習で感染者が発生しないよう健康管理票の作成・発熱時のフローシートの作成、海外渡航の自己申告票の作成など学内での感染者発生を事前に把握できる準備や消毒薬の準備と消毒の徹底、三密回避の徹底を周知した。今後も健康管理については継続する。</p>
<p>次年度への課題・改善方策 (Action)</p>	<p>1) 実習水準確保のための対策 (1) 実習施設との連携体制の維持継続 ①2023 年度実習協議会の実施方法の検討 ②2022 年度実習指導者研修会の実施方法の検討 ③2022 年度の臨地実習について実習施設との調整 ④2023 年度版の臨地実習共通要項の見直し・作成 ⑤2023 年度版の指導の手引きの見直し・作成 ⑥2022 年度の重複実習施設の担当者の確定と調整方法の検討 (2) 実習開始前準備の効果的なオリエンテーションの工夫 ①各学年実習全体オリエンテーションの内容の検討 ②個人情報保護に関するオリエンテーションの内容の検討 ③体調管理と感染予防の行動に関するオリエンテーションの検討 (3) 学生にとって安全で効果的な教員配置計画の履行 ①指導の手引きに基づくガイダンスの実施 ②非常勤指導員の確保 2) 事故防止・個人情報保護に対する対策の評価・検討 (1) インシデント・アクシデント発生時の報告書の作成と情報共有の検討 (2) 年間に発生したインシデント・アクシデントの状況・要因分析と報告 (3) インシデント・アクシデント発生防止の対策の検討 3) 実習に支障をきたさない効果的な「抗体価検査結果」の取り扱い 4) 新型コロナウイルス感染症の感染拡大による影響に対応</p>

2021 年度 委員会等活動報告書

委員会等	栄養学科 実習運営部会
作成者	山部 秀子

項 目	内 容
<p>【前年度】 次年度への 課題・改善方策 (Problem)</p>	<p>1) 本年度は新型コロナウイルス感染症対応のために実習時期の変更や臨地実習を学内で行うなど大幅な変更を余儀なくされた。給食経営管理(高齢者施設)と臨床栄養(病院)は学内での臨地実習となり、学生が実習の目的、目標の具体的なイメージがつかみにくい状況であった。このような制約のなかでは実習先との連携をしっかりと取り、実習先の先生方の協力をいただきながら、現場での実習に近い内容で授業を進める工夫が重要であり、実習の目的、目標をたてるために学修内容を具体的に示す必要がある。来年度は3年次生、4年次生ともに臨地実習を初めて学外で行うことになるため、学生がさらに積極性を身に着け、活動的な姿勢で実習に臨めるように指導が必要である。</p> <p>2) 実習中に忘れ物による実習内容の変更が1件あった。今後は実習の事前指導を徹底しチェック表を作成するなど、学生がしっかりと自己管理ができるような仕組みを作ることで、また実習期間中に必要に応じメールで注意喚起や情報提供を行うことも必要である。</p>

項 目	内 容
<p>今年度の活動計画 (目標・課題) (Plan)</p>	<p>1) 臨地実習を滞りなく実施し、かつ学生が積極性を身に着け、活動的な姿勢で臨めるために下記の内容を実施する。</p> <p>(1) 実習目的・内容から効果的な実習開始前準備を計画し、実施する。</p> <p>(2) 実習準備のために担当教員を中心としつつ、学科内で連携協力体制を取る。</p> <p>(3) 実習受け入れ施設の担当者との連携を十分はかり、学生が充実した実習ができるように準備を行う。</p> <p>(4) 実習後には実習報告会を行い、実習での学び、反省点などを共有し、今後の学修に役立てる。</p> <p>2) 学生の自己管理の徹底と事故防止・個人情報保護に対する対策を行う。</p> <p>(1) 学内での講義・演習を工夫し、実習先の指導者、対象者(入所者・患者・地域住民・児童等)の特性に対応した事故防止と個人情報保護に対する学生の理解を深める。</p> <p>(2) オリエンテーションにより自己管理の大切さを伝え、実習中の事故防止及び個人情報保護に関するインシデント・アクシデントを防ぐ。</p>
<p>活 動 内 容 (Do)</p>	<p>1) 今年度も昨年度に続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、一部の臨地実習が学内での実習に変更になったため、臨地実習へ臨むにあたっての事前指導や巡回方法等も一部変更して行った。</p> <p>(1) 新型コロナウイルス感染症対策として給食経営管理論実習Ⅱ、公衆栄養学実習Ⅱについては、全て学内での(臨地)実習となった。臨床栄養学実習Ⅳについては一部の病院において、給食経営管理論実習Ⅲ、栄養教育実習については予定通り高齢者施設、小学校で全実習を行うことが出来た。学内(臨地)実習となった給食経営管理論実習Ⅱ、公衆栄養学実習Ⅱ・臨床栄養学実習Ⅳ(一部)においては、各実習において、施設の実習指導者を招いての講話や、オンラインで施設側の実習指導者から講話や指導など、臨地での実習に近づけた内容で実施することが出来た。学内外での臨地実習となったが、いずれも学内では、担当教</p>

	<p>員は学生各自が実習を有意義なものとするために目標を課題作成の指導を行った。その後、学外での臨地実習学生は各自が施設を訪問し、指導者から課題等に関する指導や新たな課題について打ち合わせを行った。</p> <p>(2) 学科会議において実習の概要報告を行った。巡回指導については、各実習の担当者が行き、実習施設や指導者等とのコミュニケーションをはかり、本学の実習に関しての要望・意見の集約を行った。</p> <p>(3) 実習終了後、実習報告会を行い、学生各自が実習で得られた成果や今後の自分の学修課題について発表するように、事前に内容等について指導した。</p> <p>2) 学生の自己管理の徹底と、事故防止・個人情報保護に対する対策を行った。</p> <p>(1) 学内での総合演習（栄養教育実習では「栄養教育実習事前・事後指導」）等において、事故・過失などについて説明し、報告、連絡の大切さや指示に従うように指導した。</p> <p>(2) 個人情報の取り扱いについては、課題作成とも関連があることを含め、具体例を挙げて指導を行った。さらに実習施設への学生の個人情報についても必要最小限の情報のみを提供した。</p>
<p>活動内容の評価 (Check)</p>	<p>1) 臨地実習へ臨むにあたり、学生各自が実習の目的、目標を明確にするための指導を行うことができた。</p> <p>(1) 総合演習（栄養教育実習では「栄養教育実習事前・事後指導」）等を通して、臨地実習が管理栄養士（栄養教育実習では栄養教諭）にとってどのような意義を持つのか等について指導することで、学生は自覚をすることが出来た。</p> <p>(2) 担当教員による巡回指導では実習施設や指導者とのコミュニケーションをはかり、本学の実習に関して要望・意見の集約を行うことができた。</p> <p>(3) 教員は実習施設指導者との連携をはかり、学生の実習の準備を通してアドバイスや指導を行い、学生が不安なく実習に臨む環境を整えることができた。学生各自は目標や課題等に関して事前に準備を整え、各自が課題を達成した。</p> <p>(4) 学生は報告会や報告書を通じて、現場で管理栄養士（栄養教育実習では栄養教諭）の仕事や責任について学び、管理栄養士（または栄養教諭）としての職務や多職種連携などを経験したことについて、多くの学びがあったことを報告していたことから、学生は今回の実習の目的、目標を達成できたと考える。</p> <p>2) 学生の自己管理の徹底と、事故防止・個人情報保護に対する対策を行うことができた。</p> <p>(1) 指導の成果として、実習中に大きな事故等は無かった。</p> <p>(2) 個人情報の取り扱いについても、適切な対応が出来ていた。</p>
<p>次年度への 課題・改善方策 (Action)</p>	<p>1) 本年度も昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症対応のために臨地実習を一部学内で行うなどの変更を余儀なくされた。そのため、来年度は、3年次生、4年次生ともに臨地実習を初めて学外で行うことになるため、学生が積極的で活動的な姿勢で実習に臨めるように指導することが必要である。</p> <p>2) 実習の事前指導において、学生が自己管理を徹底し、事故防止・個人情報保護に対する対策を行えるよう指導していくことが必要である。</p>

2021 年度 委員会等活動報告書

委員会等	看護学科カリキュラム専門部会
作成者	小島 悦子

項 目	内 容
【前年度】 次年度への 課題・改善方策 (Problem)	1) 2022 年度の新カリキュラム改正に向けた最終準備を学務課と協力して行う。 2) カリキュラムの評価について (1) 現行カリキュラムについて 2021 年度卒業生に質問紙調査を実施する。 (2) 新カリキュラムの評価方法について検討する。

項 目	内 容
今年度の活動計画 (目標・課題) (Plan)	1) 2022 年度新カリキュラム改正に必要な申請書類一式を 7 月末に文部科学省に提出する。 2) カリキュラム評価の実施と今後の評価内容の検討 (1) 2021 年度卒業生にカリキュラム評価の質問紙調査を実施する。 (2) 新カリキュラムの評価方法について検討する。 3) 新カリキュラムについて看護学科内で共通理解を目指す。
活 動 内 容 (Do)	1) カリキュラム改正に必要な申請書類一式について、看護学科教員と学務課と連携・協力して準備し、期限までに提出した。また、11 月の文部科学省からの疑義についても早急に内容を検討し、期限までに必要書類を提出した。 2) カリキュラム評価について (1) 2021 年度卒業生にカリキュラム評価の質問紙調査を国家試験終了後に実施した。 (2) 新カリキュラムの評価方法についてカリキュラム専門部会で検討した。 3) 新カリキュラムについて学科内で共通理解をするために、学科会議を活用して新カリキュラムのディプロマ・ポリシーの学年目標、申請内容について説明をした。また、3 月末に第 1 回新カリキュラム勉強会を開催する予定である。
活動内容の評価 (Check)	1) カリキュラム改正に必要な申請書類一式について、看護学科教員と学務課と連携・協力して準備し、7 月末に予定通り申請書類一式を提出することができた。11 月初旬に文部科学省から外来看護実習、母性看護実習Ⅰ、教務主任について疑義があった。カリキュラム専門部会で、様式第 2 号添付⑨科目別実習指導計画、⑩科目別実習指導体制の外来看護実習及び母性看護実習Ⅰの内容を検討し、加筆・修正し、期日までに提出することができ、2 月に認可された。 2) 現行カリキュラムの評価に関して、例年通り卒業生を対象に質問紙調査を実施し、現在結果をまとめている。新カリキュラムの評価方法について、学年ごとにディプロマ・ポリシーのレベル目標で評価するかどうか、卒業生や就職先の評価について行うかについて意見交換を行っている。次年度は具体的な評価の時期と評価項目について決定し、旧カリキュラム及び新カリキュラムの評価を行う必要がある。 3) 新カリキュラムの申請結果及び改正の趣旨について、1 月の学科会議を活用して説明し、共通理解を図った。また、3 月下旬に実施した第 1 回新カリキュラム学習会において出された、2 年次の看護基礎実習Ⅱで修得して欲しい能力と主に 1～2 年次の科目間連携に関する意見をもと

	に、第2回以降の新カリキュラム学習会の内容を検討する必要がある。
次年度への 課題・改善方策 (Action)	1) カリキュラム評価について (1) 旧カリキュラムと新カリキュラムの評価の時期及び評価項目について検討し、新旧カリキュラムの評価を行う。 2) 新カリキュラムの共通理解の推進について (1) 新カリキュラムの共通理解に向けて、学習会を企画・運営する。

2021 年度 委員会等活動報告書

委員会等	栄養学科カリキュラム専門部会
作成者	山部 秀子

項 目	内 容
【前年度】 次年度への 課題・改善方策 (Problem)	1) 新カリキュラム開始が滞りなく 2021 年度からスタートした後に、不都合な点等が無い確認、評価し、必要に応じて、カリキュラム検討委員会へ案を提出することが必要である。 2) ディプロマ・ポリシーと科目の関連や、カリキュラムマップについても随時、不具合が無いかの確認、評価が必要である。 3) 2022 年度からは、新設科目のうち「地域連携ケア論Ⅰ～Ⅳ」、「特別総合科目」「栄養サポートチーム論」の 6 科目が看護学科との合同科目になるため、看護学科と連携しながら、2022 年度から滞りなく両学科合同科目として開講するために、適切な時期に申請書を提出できるよう準備する。

項 目	内 容
今年度の活動計画 (目標・課題) (Plan)	1) 新カリキュラムを滞りなくスタートさせ、不都合な点等が無い確認、評価し、必要に応じて、カリキュラム検討委員会へ案を提出する。 2) ディプロマ・ポリシーと科目の関連や、カリキュラムマップについても随時、不具合が無いかの確認、評価を行う。 3) 新設科目のうち、2022 年度から「地域連携ケア論Ⅰ～Ⅳ」、「特別総合科目」「栄養サポートチーム論」の 6 科目が看護学科との合同科目になるため、看護学科と連携しながら、2022 年度から滞りなく両学科合同科目として開講するために、適切な時期に申請書を提出できるよう準備する。
活 動 内 容 (Do)	1) 新カリキュラムを滞りなくスタートさせた。不都合な点等が無い確認、評価をしたが、特に不都合な点はなかった。 2) 看護学科が 2022 年度からスタートする新カリキュラムに合わせディプロマ・ポリシーを改めたことを受け、栄養学科もディプロマ・ポリシーについて再確認を行ったところ、看護学科のディプロマ・ポリシーに合わせた表現をして学部で統一感を持たせた方が良いという結論に至り、栄養学科ディプロマ・ポリシーの変更案を示し、カリキュラム検討委員会へ案を提出した。 3) 新設科目のうち、2022 年度から「地域連携ケア論Ⅰ～Ⅳ」、「特別総合科目」「栄養サポートチーム論」の 6 科目が看護学科との合同科目になることを想定しながら、2021 年度の開講授業を進めた。
活動内容の評価 (Check)	1) カリキュラムを滞りなくスタートさせることができた。特に、不都合な点等は見つからなかった。 2) 2021 年度の新カリキュラムに合わせて作成したディプロマ・ポリシーについては、不都合等はなかった。しかし、看護学科のディプロマ・ポリシー改定に合わせ、栄養学科もディプロマ・ポリシーの変更を検討し、カリキュラム検討委員会へ変更案を提出することができた。これにより、2022 年度から新しいディプロマ・ポリシーを示すことが決定した。 3) 新設科目のうち、2022 年度から「地域連携ケア論Ⅰ～Ⅳ」、「特別総合科目」「栄養サポートチーム論」の 6 科目が看護学科との合同科目になることを想定しながら、2021 年度の授業は滞りなく行うことができた。
次 年 度 へ の 課題・改善方策	1) 新カリキュラム開始 2 年目となることから、引き続き、不都合な点等が無い確認、評価し、必要に応じて、カリキュラム検討委員会へ案を

(Action)	<p>提出することが必要である。</p> <p>2) 2022年度から新しくなるディプロマ・ポリシーと科目の関連や、カリキュラムマップについても随時、不具合が無いかの確認、評価が必要である。</p> <p>3) 2022年度から、新設科目のうち「地域連携ケア論Ⅰ～Ⅳ」、「特別総合科目」「栄養サポートチーム論」の6科目が看護学科との合同科目になるため、看護学科と連携しながら滞りなく両学科合同科目として開講できるよう準備し、開講後には、不都合な点が無いか確認、評価していく。</p>
----------	---

2021 年度 委員会等活動報告書

委員会等	看護学科 学年担任（1 年次）
作成者	河崎 和子

項 目	内 容
【前年度】 次年度への 課題・改善方策 (Problem)	該当なし

項 目	内 容
今年度の活動計画 (目標・課題) (Plan)	1) 大学生として自覚を持ち学生生活を送るための支援 大学生としての自覚をもった責任ある行動がとれ、主体的に自律して学習する力を身につけることができるよう支援する。 2) 主体的に自律して学習する力を養うための支援 (1) 新しい生活環境に慣れ、大学生活におけるルールやシステムを理解し、必要な時には自ら支援を求めるなど、大学生としての自覚をもって学修や行動ができるように支援する。 (2) 授業や大学行事などを通して、主体的に自律して学修する力や、専門職業人を目指す者として自らを振り返り、責任ある態度を身につけることができるように支援する。 3) 学年担任会議を定期的に行い、担当学生の状況を学担教員間で共有を図りながら学生に支援する。
活 動 内 容 (Do)	1) 大学生として自覚を持ち学生生活を送るための支援 (1) 学担ガイダンス・学担教員と学生の顔合わせ (2) 個別面接 ① 個別面接を 4 名の教員で分担し、4～5 月及び 9～10 月の 2 回、その他必要時にタイミングを逃さず実施した。 ② 学生の個別の状況を把握するために、個別面接記録の記入・提出を求め、面接記録の内容で学生の状況を把握した。その中で緊急性のある状況があれば、該当学生には速やかに面接を行った。 ③ 今年度は、新型コロナウイルス感染症状況を見ながら、日程調整を行った。 2) 主体的に自律して学習する力を養うための支援 (1) 学修支援活動 ① 個別面接を通して、各学生の学修状況の確認をする。 ② 学修習慣のついていない学生や学修困難な学生に対して学修方法の助言をする。 ③ 再試験や成績の把握、欠席状況の把握をする。 (2) 履修相談会に出席し、学生の履修について助言指導をする。 3) 学年担任教員会議の開催 (1) 情報の共有と対応策の検討を行う。 年 3 回程度（1 回目の面接終了後、前期終了後、後期面接終了後）実施する。 (2) 緊急性がある場合は、臨時に会議を実施する。 (3) 毎月の学科会議で学生状況の報告し、学科全体で把握すべき内容は共有を図る。

<p>活動内容の評価 (Check)</p>	<p>1) 大学生として自覚を持ち学生生活を送るための支援の評価</p> <p>(1) 新入生ガイダンスは、学担紹介、担当に分かれて自己紹介を実施した。その後、担当グループごとにメールで連絡体制の強化を図った。各学期末にはガイダンスを実施して、学期の振り返りを含めての注意喚起・インフォメーションを実施し、大学生としての自覚をもって学生生活を送ることができるように支援することができた。</p> <p>(2) 個別面接は、1名に対して15分程度であったが、大学生活に慣れていない学生や新居で一人暮らしをしている学生など学生の不安などを把握することができた。学生によってはチャットを利用しての相談や面談を希望してくるものもあり、随時対応し、学担間で情報の共有をすることができた。新型コロナウイルス感染症の影響に伴い、遠隔講義が多かったことから、学生間での交流が図りにくいこともあったが、対面講義を通して徐々に学生間での交流も持つことができ、孤立しないように学担がサポートを行うことで関係性の確立を促進できた。</p> <p>2) 主体的に自律して学習する力を養うための支援の評価</p> <p>(1) 初回面談の際に、各自学習計画を立て、前期を過ごすように伝えたが、前期の試験勉強の方法が良くわからなかった、あまり勉強をしなかったという学生も少数おり、学習方法に関する指導や継続的かつ定期的に学習への声掛けをすることが必要な学生もいた。学期を終えるごとに成績表を学担で共有し、再試験の多い学生については個別面談を行い、改善へ向けての支援を行った。また、科目によっては欠席が多いと指摘がある科目もあり、理由を含めて面談の上、科目責任者への情報提供を行い、改善へ向けての対策を両者で検討し、欠席者が減少した。</p> <p>(2) 履修相談会に参加して、学生の理解できていない部分への対応やどのように履修していくとよいか助言し、計画的に履修することを伝えることができた。前期は、学生生活にもまだ慣れない様子があり、履修登録や試験後の諸手続きなど随時気づいた際に繰り返し説明を実施することによって、少しずつではあるが、大学の規定等の理解を深めることができた。しかし、まだ継続的な支援が必要である。</p> <p>3) 学年担任教員会議の開催の評価</p> <p>学年担任教員会議は、初回対面であったが、その後は新型コロナウイルス感染症の感染対策も踏まえ、主にメールでの情報共有・交換に努めた。また、学担が単独で問題を抱え込まないように学担間で情報共有を図り、状況によっては関係者との連携強化、学科長への報告・相談を早めにすることで問題の解決することができた。</p>
<p>次年度への 課題・改善方策 (Action)</p>	<p>1) 大学生として自覚を持ち学生生活を送るための支援</p> <p>(1) コロナ禍による大学生活におけるルールについて、十分に理解、対応できていない学生もいることから学期ごとにガイダンスを実施し、引き続き対策の強化を図る。</p> <p>(2) 新型コロナウイルス感染症の拡大によって遠隔授業が多かったことから、学生間の交流がまだ浅い。今度、感染状況を見ながら、孤立した学生がでないように、学生の関係構築への促進として、交流会開催をしていく。</p> <p>2) 主体的に自律して学習する力を養うための支援</p> <p>(1) 基本的な学習習慣がついていない学生や学習方法がわからない学生も少数いることから、成績や講義態度の情報を共有しながら、主体的に自立した学修が行えるよう継続的に支援していく。</p> <p>(2) ポートフォリオの導入後、学生それぞれが成長を捉えられるように今後、活用状況の把握と活用の促進をしていく。</p> <p>3) 学年担任教員会議の開催</p> <p>定期的に学年担任教員会議を開催し、担当学生の状況について報告し、学担教員間で情報の共有を図りながら学生へ支援する。</p>

	<p>4) その他</p> <p>2年次生は、看護基礎実習Ⅱ開始前にグローアップセレモニーが11月に予定されている。学生は、ポートフォリオ導入により、自己の看護像を少しずつイメージしてきている。11月には、セレモニーの目的を理解し、実習に向けた心構えができるように働きかけるとともに学生自身、自己の看護像がより明確になるように支援していく。</p>
--	--

2021 年度 委員会等活動報告書

委員会等	看護学科 学年担任 (2 年次)
作成者	近藤 明代

項 目	内 容
【前年度】 次年度への 課題・改善方策 (Problem)	1) 大学生としての自覚を持ち学生生活を送るための支援 大学生活への適応にむけては、引き続き、大学生としての自覚を持ち学生生活を送ることができるように支援を行う。 また、基本的な挨拶、連絡、相談、報告や成人学修者としての姿勢についても、必要な学生については個別に支援を行う。 2) 主体的に自律して学修する力を養うための支援 (1) 大学の2年次生として、新1年次生のサポート、大学行事等への主体的な参加を通して、人間力を高め、仲間と協同し各自が自己成長へ意識的に行動できるように支援する。また面接シートでの経年的な目標設定と自己評価を継続する。 (2) 授業や大学行事などを通して、主体的に自律して学修する力や、専門職業人を目指す者として自らを振り返り、責任ある態度を身につけることができるように支援する。 また国家試験対策として、2年次生のうちから模試の実施やDVD補講などを定期試験の学修と合わせながら進めていく。 3) 学年担任教員会議を開催し、担当学生の状況について報告し、学担教員間で共有を図りながら学生に支援する。 4) その他 2年次生は、看護基礎実習Ⅱ開始前にグローアップセレモニーが予定されているため、セレモニーの意味と学生の心構えができるような支援を行う。

項 目	内 容
今年度の活動計画 (目標・課題) (Plan)	1) 大学生としての自覚を持ち学生生活を送るための支援をする。 2) 主体的に自律して学修する力を養うための支援をする。 (1) 2年次生として、新1年次生のサポート、大学行事等への主体的な参加を通して、人間力を高め、仲間と協同し各自が自己成長へ意識的に行動できるように支援する。 (2) 主体的に自律して学修する力や、専門職業人を目指す者として自らを振り返り、責任ある態度を身につけることができるように支援する。 (3) 面接シートに1年次の自己評価と2年次の目標を記載してもらい、学生の目標達成に向けた支援を行う。 3) 学年担任教員会議を開催し、担当学生の状況について報告し、学担教員間で共有を図りながら学生に支援する。 4) グローアップセレモニーの準備を学生と行い、看護職を目指す意識を高める支援を行う。
活 動 内 容 (Do)	1) 大学生としての自覚を持ち学生生活を送るための支援をする。 (1) 学担ガイダンスを4月新年度、前期終了時、後期開始時、学年末と頻繁に行い、学生自身に自分の学修、生活を振り返ることを促した。 (2) 4~5月、10~11月に全員と個別面談を行い、学修や生活面での課題がある学生には必要時に面談を行った。 2) 主体的に自律して学修する力を養うための支援をする。 (1) 学担ガイダンスを4月新年度、前期終了時、後期開始時、学年末に

	<p>行い、学生自身に自分の学修、生活を振り返ることを促した。</p> <p>(2)面接シートに1年次の自己評価と2年次の目標を記載してもらい、新年度のガイダンス時に提出してもらった。</p> <p>(3)個別面談時に面接シートを用い、学生自身が自身の生活や学修について振り返りができるような声掛けを行い、専門職を目指す学生として、現在の学修の必要性と、主体的な学修ができるような環境整備と工夫について助言した。</p> <p>(4)出席状況、課題提出の状況、授業態度等に課題がある学生には、必要時に個別に面談を行い、学修態度を見直し、修正するよう助言した。</p> <p>(5)多科目の再試験受験者、不合格者には個別に面談を行い、学修状況の振り返りと、対応について助言した。</p> <p>3) 学年担任教員会議を開催し、担当学生の状況について報告し、学担教員間で共有を図りながら学生に支援する。</p> <p>(1)リモート、対面で学担会議を実施し、課題を抱える学生の状況と対応を共有した。</p> <p>(2)課題を抱えている学生が発生した場合は、学担間で連絡を取り合い、状況と助言等の支援内容を共有した。</p> <p>(3)ガイダンス、グローアップセレモニーの説明会の内容については学担会議で伝える内容を検討して決定した。</p> <p>(4)毎月、学科会議の前に担当学生の状況を共有し、学科会議で報告する内容を確認した。</p> <p>4) グローアップセレモニーの準備を学生と行い、看護職を目指す意識を高める支援を行う。</p> <p>(1)8月にグローアップセレモニーの説明会を行い、グローアップセレモニーの意味を説明し、学生が看護について考えるためのきっかけとする資料として日本看護協会の「忘れられない看護エピソード」から数編の作品を紹介した。また、看護基礎実習Ⅱを行うにあたり、自身の看護を目指す気持ちと学修に取り組む姿勢を見直すことをすすめた。</p> <p>(2)グローアップセレモニーに向けて、各学生が「決意表明」を記したスライドを Teams 内にて提出し、教員が取りまとめてポスター化した。また総務課の協力を得てパネルを作成し、グローアップセレモニー会場に掲示した。</p> <p>(3)グローアップセレモニーで宣誓を行う学生、記念品を受け取る学生の協力を得て、準備を学担の指導の下すすめることができた。</p> <p>(4)グローアップセレモニーの特別講演の講師を選定し、講演を依頼した。</p> <p>(5)総務課、学務課と協力し、入学式、グローアップセレモニーの準備を行った。</p> <p>(6)欠席者には面談を行い、個別に指導をしながら、記念品を渡した。</p>
<p>活動内容の評価 (Check)</p>	<p>1) 大学生としての自覚を持ち学生生活を送るための支援をする。</p> <p>2) 主体的に自律して学修する力を養うための支援をする。</p> <p>※1)と2)については同時に支援を行ったため、合わせての評価とする。</p> <p>(1)学担ガイダンスは学生が必ず集合し、自身の振り返りを行うことが可能な時期を逃さずに、大学生としての自覚や目標の確認、学修に対する姿勢を繰り返し、説明した。多くの学生は真剣に聞いていたが、一部の学生には響かなかった様で、学年末のガイダンスでは無断欠席者が2名だった。後日学担が個人面談をして指導をした。</p> <p>(2)(3)面接シートは、新年度ガイダンス時に提出され、それを基に学生の目標や課題に対応した助言をすることはできたと考えている。</p> <p>(4)(5)課題のある学生に対しては頻繁に連絡を取り、個別面談を行ってきたが、中には連絡をしても反応がない等、基本的な行動をとることができない学生もあり、授業の終了時間を見計らって学生に声を</p>

	<p>かける等、様々な手段を活用し頻繁に連絡をとる工夫をしながら、学生に声をかけてきた。</p> <p>※当該学年の学生は、入学年度からリモート授業が中心の大学生活をおくってきたため、友人関係が希薄で、友人関係を通して学修意欲を高める経験を重ねていない。そのため看護を学修する強い目標を持たない場合、自律的に学修する姿勢を修得することが困難な学修環境に置かれていると考えられる。年度当初、「2年次生として、新1年次生のサポート、大学行事等への主体的な参加を通して、人間力を高め、仲間と協同し各自が自己成長へ意識的に行動できるように支援する」と活動計画を挙げていたが、2年間大学行事を体験することなく、演習等で登校する限られた時間での交流にとどまっている状況においては、課題のある学生への個別支援を通しての関わりを強化する方法しかとることができなかった。</p> <p>2年間の単位を取得し進級可能な学生も、今後の学修に対しては大きな不安を抱えている。個別面談で看護基礎実習Ⅱに対する不安と同時に、3年次の領域実習に対する不安を語る学生も多かった。上級生との交流もないため、情報を入手することができない影響もあると考える。そのため、学年末ガイダンスでは、3年次のイメージができるような情報を提供し、春季休暇の過ごし方について説明をしたが、3年次の過ごし方をイメージできるように、新年度の学担ガイダンスや個別面談に繰り返し丁寧に説明をしていく必要があると考える。</p> <p>3) 学年担任教員会議を開催し、担当学生の状況について報告し、学担教員間で共有を図りながら学生に支援する。</p> <p>会議という形での開催は限られていたが、メールや会議ではない対面での情報共有は頻繁に実施した。当該学生の学担は、1年次から2年次になる際、2年次前期から後期、2年次から3年次になる際に、変更になった。次年度は新学担に早期に馴染めるように、紹介をしっかり行い、個別面談に力を入れて、学担間で連携をとりながら学生支援をすすめていきたい。</p> <p>4) グローアップセレモニーの準備を学生と行い、看護職を目指す意識を高める支援を行う。</p> <p>特別講演講師の選定、準備については予定通り準備がすすめられた。決意表明は担当教員の指導のもと、準備をすすめることができた。また宣誓等についても学担の指導のもと実施することができた。</p> <p>しかし、当日は欠席者が23名（連絡あり15名、連絡なし8名）であった。欠席者には録画した特別講演の動画を視聴してもらい、感想文の提出の際に記念品を学担から渡し、その際に指導をすることとしたが、年度末の段階でも未提出の学生が数名いる状況である。</p> <p>1)～4)の対応を通して気になる学生は共通していることが明らかになってきた。大学生としての基本的な態度、学修姿勢のみではなく、その背景に課題を抱えている傾向があるので、今後も対象学生には、個別面談を繰り返し、学担間で情報の共有を行い、対応していく必要がある。</p>
<p>次年度への課題・改善方策 (Action)</p>	<p>1) 大学生としての自覚を持ち、自主的に学修する姿勢を獲得できるような支援</p> <p>(1) 挨拶、連絡、相談、報告等の基本的な姿勢について引き続き伝える。</p> <p>(2) 課題を抱えた学生については、必要時に個別支援を繰り返し行い、自分の姿勢を振り返ることができるようなかわりを行う。</p> <p>(3) 2年次は専門領域の実習等、学生にとっては負担が大きくなる1年であるため、学生の状況を他の教員から得ながら、学生の状況に合わせた支援を行う。</p> <p>(4) 学生が、常に目標達成に向けて必要な学修であることを意識し、学生間での情報交換を通して解決できる様な人間関係を構築する。</p>

	<p>(5) 学生が目標達成のために何をすべきなのかを考えることのできる情報を提供する。</p> <p>2) 学年担任教員会議を開催し、担当学生の状況について報告し、学担教員間で共有を図りながら学生に支援する。</p>
--	---

2021 年度 委員会等活動報告書

委員会等	看護学科 学年担任（3 年次）
作成者	澤田 優美

項 目	内 容
【前年度】 次年度への 課題・改善方策 (Problem)	1) 学修面においては、学生個々の学修状況に差が出始めている状況である。再試の多い学生、再履修科目がある学生が複数おり、各自の学修課題を見出し解決していくことができるよう今後も継続して支援が必要である。 2) 専門領域実習、国試対策、就職準備とさらに心身共に負荷のかかる年次となるため、学生個々の状況を確認し、学生が自己決定し主体的に行動できるように支援を行う。 3) 国家試験対策として、国試対策委員、クラス代表と連携を取りながら、模試の実施や DVD 補講などを定期試験の学修と合わせながら、進めていく。

項 目	内 容
今年度の活動計画 (目標・課題) (Plan)	1) 学習状況において、自己の課題を明らかにし、解決方法を考えることができるよう支援する。 2) 学生が実習、国家試験、就職活動についての計画を自己決定でき、主体的に行えるよう支援する。 3) 国家試験対策として、国試対策委員、クラス代表が中心となり、模擬試験、DVD 補講など、学年全体の基礎学力の定着に向けての活動ができるよう支援する。 4) 学生個々が自己のペースで自己成長を遂げていくことができるよう支援する。
活 動 内 容 (Do)	1) 実習担当教員、各種委員会委員と連携し、実習状況の把握、国試対策ガイダンス、就職ガイダンス、学内説明会などへの参加状況等について確認を行った。年 2 回（前期・後期）に個別面談を実施し、学生自身が自己の課題や活動について考え、主体的に行動できるようにサポートを行った。 2) 1) と同様、個別面談で学習状況を確認し、学生自身が主体的に学習を進めていくことができるよう関わった。 3) 国試対策委員、クラス代表が中心となり計画する学年全体の基礎学力の定着へ向けての活動について、必要時助言やサポートを行い、円滑な実施を支援した。模擬試験は、国試対策委員が計画、準備を行い、学内で 2 月末に 58 名が受験する予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大により、急遽、自宅受験へ変更した。DVD 学習会も学生が企画運営し、5 回実施した。任意参加であったが、13 名～30 名程度が希望して参加し学修を深めていた。 4) 学生個々が自己のペースで自己成長を遂げていくことができるように、個別面談や必要時、科目担当教員、保護者等と連携をとりながら支援した。
活動内容の評価 (Check)	1) 個人面談の際、前期は、今年度 1 年間の目標を確認し、実習へむけての不安や心配、学習の準備などを中心にサポートを行った。後期は 4 年次生に向けて今年度の振り返りや就職活動、国試対策について個々の希望や進捗状況を確認しサポートすることで、学生が主体的に行動できる支援ができたと考える。 2) 学修状況は学生により差が大きいですが、国試だけではなく、進学を考え

	<p>ている学生もあり、将来の希望や夢を叶えるために、学生自身が学修計画を考え、実践できるように個別に関わることができた。学年全体が主体的に学修を進める雰囲気をもっていることもあり、定期試験前には、自主的に数人の仲間で、演習室や図書館などで学修している状況があった。</p> <p>3) 国家試験対策では、学科のキャリア開発委員と連携し、国試対策委員の学修計画（模試・DVD 学習会）・企画運営を見守った。クラス全体の学修において、国試対策委員が、担任へ相談や助言を求めることは少なかったが、時折声掛けや Teams を使用してコンタクトを取りやすい環境を整えていたことは、安心につながっていたのではないかと考える。</p> <p>4) 個人面談を通して、個別性や学生の意思を尊重しながら関わることができた。公衆衛生コースを履修していた学生が2名履修を取りやめる事になったが、本人と丁寧な面談を重ね、本人、保護者の意見を確認したうえで学生の気持ちを尊重して関わることができた。</p>
<p>次年度への課題・改善方策 (Action)</p>	<p>1) 4年次のゼミ指導教員（担任）が決定したあと、学生の学修面、健康面、経済面、進路状況等に課題が生じた場合には、新担任に情報提供を行うことでサポートする。</p> <p>2) 留年者、休学者は引き続き現担任が適宜面談を行って学生の状況を把握し、学修指導、進路相談等を行う。</p>

2021 年度 委員会等活動報告書

委員会等	栄養学科 学年担任(1年次)
作成者	坂本 恵

項 目	内 容
【前年度】 次年度への 課題・改善方策 (Problem)	該当なし

項 目	内 容
今年度の活動計画 (目標・課題) (Plan)	<ol style="list-style-type: none"> 1) 学生が大学生活に慣れ、円滑に学生生活を送れるよう支援する。 2) 学生が自立して学修できるよう支援する。 3) 個々の学生の状況は個人面談等により把握し、必要な場合には保護者と連携を取りながら支援を行う。
活 動 内 容 (Do)	<ol style="list-style-type: none"> 1) 新入生ガイダンスにおいて、大学生活や学修面などで不安や質問などがあれば、いつでも面談を行う事を伝えた。コロナ禍の影響で遠隔授業になってからはチャット、メール、電話などで学生の状況や困りごとなどについて把握し支援した。一部対面授業になった、前期(7、8月)、後期(11~1月)に個別面談を行い、学修への不安や大学生活での困りごと、健康上の問題などについて把握、確認、支援を行った。 2) 新入生ガイダンス終了後、個人の履修登録内容の確認を行い登録漏れのないよう指導した。学生の学修状況(欠席、課題など)については科目担当教員、学務課、学生相談室の情報などによって学生に助言、指導などを行った。 3) 休学の学生、退学の学生については個別の面談、保護者との連絡、相談、支援などを行った。
活動内容の評価 (Check)	<ol style="list-style-type: none"> 1) 3名の学担が1年次の科目を担当していたこともあり、学生の状況を把握しやすく、適宜面談、助言等を行うことができた。また、面談とともにチャットやメールを通してコミュニケーションを図り学生を支援、指導することが出来た。 2) 学修状況については課題の未提出、発熱、風邪症状による欠席の学生も数名いたが、教員、学務課、健康管理室などから早期の情報を得て、支援、指導の結果、1年次の学修を収めることが出来た。 3) 復学していた1名を含め計3名の学生が進路変更のため退学となった。健康管理室、学生相談室にも対応いただいた学生3名と前期後半より体調不良で欠席していた学生1名の計4名が、保護者とも相談の上、休学することになった。結論としては各学生及び保護者とも十分相談し時間をかけ、学生の意思をとりいれることができた結果となったと考える。
次 年 度 へ の 課題・改善方策 (Action)	<ol style="list-style-type: none"> 1) 個別面談などにより、学生の生活状況、及び学修状況を確認し学生生活が円滑に行えるように引き続き支援する必要がある。 2) 学修支援が必要な学生については早期に対応できることが重要なため、個別面談は勿論、学務課、担当教員などと連携して学修状況を把握し、支援体制を整えることが必要である。 3) 学生の個々の状況は個人面談などで把握しながら、保護者とも連携をとり、支援を続けることが必要である。

2021 年度 委員会等活動報告書

委員会等	栄養学科 学年担任 (2 年次)
作成者	金高 有里

項 目	内 容
【前年度】 次年度への 課題・改善方策 (Problem)	1) 個別面談などにより、学生の生活状況、及び学修状況を確認し学生生活が円滑に行えるように支援する必要がある。 2) 学修支援が必要な学生については早期に対応できることが重要なため、個別面談は勿論、学務課、担当教員などが連携して学修状況を把握し、支援体制を整えることが必要である。 3) 休学中の学生は、メール等により個人の状況を把握しながら、保護者とも連携を取り、復学へ向けた支援を続けることが必要である。

項 目	内 容
今年度の活動計画 (目標・課題) (Plan)	1) 個別面談などにより、個々の生活状況、及び学修状況を確認し、学生生活が円滑に行えるように支援する。 2) 学生が自立して学修し、卒業及び管理栄養士国家試験資格取得へとつながるよう継続的な支援をする。 3) 休学中の学生、休学・退学を希望する学生については、個別の面談や保護者との連携を取りながら支援を行う。
活 動 内 容 (Do)	1) 学生への支援として、4～5 月にかけてフェイスシートの作成及び個別面談を行い、学修への不安や大学生活へ意気込み、健康上の問題などについて把握し、必要に応じて個別に支援した。以降は新型コロナウイルス感染症対策のため、必要に応じて個別面談を行った。なお、長期休暇の前には、ガイダンスを行い休暇中の過ごし方などに対する助言・指導を行った。 2) 学生の学修状況については科目担当の教員、学務課、学生相談室からの情報などを基に学生に助言、指導などを行った。これらの情報を、必要に応じて学科会議などで共有した。また、前期・後期を通し発熱などで対面授業を欠席した学生については、連絡を取り状況の把握等を行った。 11 月に行われたグローアップセレモニーに向けた準備では、学生が自主性をもって決意表明ができるよう、学年代表者を中心に活動した。学年代表者は、決意表明を取りまとめ、学担と共にパネル作成に携わった。また、宣誓代表者に対する宣誓文の指導を行った。 3) 休学中の学生、退学を希望する学生については個別の面談、保護者との連絡、相談、支援などを行った。また、前期に行われる履修登録の内容について確認し、3 年次進級要件に必要な単位がぎりぎりの学生については個別に助言・指導を行った。また、必要に応じて保護者との連絡をとりあい、学科長へ報告した。
活動内容の評価 (Check)	1) 対面授業日に面談を設定し、学生の状況を確認できるように働きかけ、対面が難しい場合は、Teams のチャットやメール、オンライン面談を実施した。学生とのコミュニケーションを通して学生を支援、指導することが出来た。 2) 学修状況については課題未提出、発熱欠席の学生も数名いたが、教員、学務課などから早期の情報を得て、支援、指導の結果、2 年次の学修を収めることが出来た。グローアップセレモニーの参加状況は、編入生を除いて出席が 32 名、欠席が 6 名であった。当日は 6 名の欠席者はいた

	<p>ものの、準備段階は全員参加で行ってきたことから「自主性をもって決意表明ができた」と評価できる。</p> <p>3) 学生1名が進路変更のため退学、休学学生1名が最終的に進路変更のため退学となった。欠席が多い学生2名に関しては、体調やメンタル面等のケアを含め、本人だけでなく保護者とも相談し、面談を繰り返しながらサポートを続けた。結論としては各学生及び保護者とも十分相談し時間をかけ、学生の意思を取り入れることが出来た結果であると考え。また、欠席の多い科目については、教職員から情報収集を行うように努めたことにより、学生が円滑な大学生活が送れるよう適宜、支援を行うことができたと考える。</p> <p>履修登録状況を把握し個別に対応することで、ほとんどの学生は3年次進級要件に必要な科目を履修することができた。しかし、2名の学生が体調不良のため欠席超過となり、3年次進級要件に必要な科目の一部を修得することができなかった。学生一人一人の状況に合わせた対応を心掛け支援していくことが大切である。</p>
<p>次年度への課題・改善方策 (Action)</p>	<p>1) 個別面談などにより、学生の生活状況、及び学修状況を確認し学生生活が円滑に行えるように支援する必要がある。特に、3年次からは専門科目数の増加や臨地実習が開始されるため、必要に応じて支援する。</p> <p>2) 学修支援が必要な学生については早期に対応できることが重要なため、個別面談は勿論、学務課、担当教員などが連携して学修状況を把握し、支援体制を整えることが必要である。</p> <p>3) 休学中の学生は、メール等により個人の状況を把握しながら、保護者とも連携を取り、復学へ向けた支援を続けることが必要である。</p>

2021 年度 委員会等活動報告書

委員会等	栄養学科 学年担任 (3 年次)
作成者	松川 典子

項 目	内 容
【前年度】 次年度への 課題・改善方策 (Problem)	1) 個別面談、教員間の連携によって、学生の生活状況を確認し、円滑に大学生活を送れるよう引き続き支援が必要である。 2) 学生が自立して学修を継続できるよう、履修状況など個別の状況に応じた支援が必要である。特に、3 年次からは専門科目数の増加や臨地実習が開始されるため、必要に応じて支援する。

項 目	内 容
今年度の活動計画 (目標・課題) (Plan)	1) 対人関係や友人関係を把握して、今後の学業への取組みなど方向性を示唆する。 2) アルバイトの種類や頻度について聞き、学業への影響等について把握し、適切な助言・指導を行う。 3) 勉強への取組み方や管理栄養士国家試験への取組みなど、目的を達成できるよう支援し、問題が見られるときは適宜、保護者と連絡をとる。
活 動 内 容 (Do)	1) ～3) 各学担による面談(前期5月、後期12月)を対面で行った。面談では下記について確認した。 ・フェイスシートの更新 ・学習時間や日常生活の把握 ・健康状態やサークル、ボランティア活動の把握 ・臨地実習、卒業研究の選択状況 ・卒業後の方向性、単位取得状況の把握 ・国家試験への取組み状況 3) 授業での出席状況等に問題が見られた学生に対しては保護者とも連絡を取り、状況の確認や今後の対策について支援した。
活動内容の評価 (Check)	1) 管理栄養士国家試験への取組みについては、勉強は少しずつ始めているようではあるが、クラス全体としての士気は高まっていないようである。そこで、後期学期末ガイダンスにおいて、学生が主体となって国家試験勉強に取り組んでいくことが合格にとって重要であることを伝え、学生の中から国試対策委員を選出する案を提示し、承諾を得た。 2) 各担任教員が、個々の担当学生及び学年全体で気になった事柄について意見交換を行い、問題の共有や学生への対応について教員間でフォローし合うなど、連携して取り組むことができた。
次 年 度 へ の 課題・改善方策 (Action)	1) 4 年次生としての自覚を持ち、主体的に臨地実習や国家試験勉強に向かうよう、面談やガイダンス等を通して働きかけていく必要がある。 2) 編入生が加わったが、遠隔授業も多かったことから学年全体で交流を得る機会が少なかったため、仲間意識が持てるクラスづくりがさらに必要である。

2021 年度 委員会等活動報告書

委員会等	栄養学科 学年担任(4年次)
作成者	岡本智子

項 目	内 容
<p>【前年度】 次年度への 課題・改善方策 (Problem)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) 定期面談は有効であったと考えられる。学生に自分の課題点を早期に気づきを促すことができた。学びを効果的かつ継続的に取り組むためにも、早いタイミングで適時助言ができるよう面談等を通して関わる必要がある(夏休みをどのように過ごすかなど具体的目標を掲げて休みに入ってもらい休み明けに振り返るなど)。 2) 通常の授業の学びと国家試験の勉強を関連付ける必要があるため、時間の使い方、学修方法の支援が必要である。 3) 遠隔授業も多く、登校しコミュニケーションを図る機会が少なかったこともあるため、仲間意識が持てるクラスづくりがさらに必要である。 4) 就職活動に遅れをとらないよう、就職説明会やインターンシップなどの情報を積極的に発信するよう努める。

項 目	内 容
<p>今年度の活動計画 (目標・課題) (Plan)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) 前年度からの継続で、卒業、国家試験対策、就職に向けて、学生の学修状況や生活面について定期面談を行ない、それぞれのゴールに向けてサポートしていく。 2) キャリア開発委員、チューター(国家試験対策サポート)の教員との連携を図り、情報の配信と収集を行い、学年全体をフォローアップしていく。 3) 授業数も少なくなる4年次生であるため、登校時にコミュニケーションが図れるよう、仲間意識が高まるような機会を設ける。 4) キャリア開発委員と連携を図り、就職関連の情報を発信しつつも学生の就職先の希望や状況を確認し声がけをしていく。
<p>活 動 内 容 (Do)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) 前期に行われる履修登録の内容について確認し、卒業要件に必要な単位がぎりぎりの学生については、個別に助言・指導を行った。定期面談はGWや夏休み前などの休みに入る前に、休みを有意義に過ごすため、時期を考え行った(2回)。1人15分から30分程度の面談を実施し、どんな管理栄養士を目指すのか、就職先の希望を含み確認をした。また、今年度は特に精神面の不調により欠席している学生や授業や国家試験模試の受験等に支障を来した学生の対応、学費滞納の学生への対応、大学からの連絡に対し長期間応答が無く状況が掴めない学生の対応には、より個別に電話やメール、面談回数を増やしフォローアップを行った。学生の状況については必要に応じ学科長に報告した。 2) キャリア開発委員からの国家試験模試の結果や就職状況の報告や授業での科目担当教員との連携を行い、上記1)と同様、早期に情報をキャッチし問題には早急な対応を行った。 3) コロナ禍であったため、クラス全体を集めての行事は開催しなかった。 4) 就職については定期面談前にキャリア開発委員就職担当者より得た情報を活用し面談等を行った。さらに直接大学に登校せずともSharePointにアップされた就職情報の活用などを勧めた。
<p>活動内容の評価 (Check)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) 4年次生21名が無事に卒業できたことは、キャリア開発委員ならびにチューターの教員、学担との連携ができ、細やかな個別対応が功を奏したと考える(1名は体調不良により卒業は延期)。

	<p>2) 国家試験は教員たちの連携とフォローアップにより、希望者全員が受験はできたが、合格率は残念ながら 67.7%と前年度を下回る結果となった。</p> <p>3) コロナ禍であったため、前年度同様集合しての行事等は難しかったが、学内外の臨地実習を通し、課題や発表のためのグループワークや、チームを意識しコミュニケーションを図る場ができたことは、少なからず仲間意識を高めることにつながったのではないかと考える。</p> <p>4) 就職率については国家試験不合格のため学業に専念する学生以外は就職率 100% (20 名)であった。(内訳：特別養護老人ホーム 5 名、保育園 4 名、給食委託会社 5 名、病院 2 名、企業 2 名、自治体 1 名、児童自立支援施設 1 名)。就職内定が決まった後に国家試験模試の成績が伸び、合格した学生がいたことから、今後は就職内定時期と国家試験模試の成績)の伸びなどもあわせ見て、就職活動に取り組ませる時期の検討をしていく必要があるのではないかと考える。</p>
<p>次年度への 課題・改善方策 (Action)</p>	<p>なし</p>

2021 年度 委員会等活動報告書

委員会等	事務局
作成者	久保 則雄

項 目	内 容
<p>【前年度】 次年度への 課題・改善方策 (Problem)</p>	<p>1) 評議会、教授会及び運営会議について、適正かつ円滑に行われるように継続して運営に関わる必要がある。</p> <p>2) 札幌保健医療大学事務分掌規程に基づき、安定した事務局運営体制の構築に継続して努める必要がある。</p> <p>3) 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策について、継続して危機管理委員会と連携を図り、対応していく必要がある。具体的には、今年度の感染拡大防止対策に加え、学生の安全を確保しての学内での居場所（ラウンジ、演習室等）造りが必要となる。</p> <p>4) 諸課題に対して迅速に対応する学長、学部長、学科長と事務局との定例の打合せを開催することができなかった。結果として学生の事案に対する大学の対応等が遅れるなど解決する必要がある。</p>

項 目	内 容
<p>今年度の活動計画 (目標・課題) (Plan)</p>	<p>1) 評議会、教授会及び運営会議について</p> <p>(1) 評議会 大学の運営のための重要事項等について、学長が決定を行うにあたり意見を述べる最高機関として設置し、学園副理事長、学長、学部長、図書館長、事務局長で構成する。開催は原則月1回とする。</p> <p>(2) 教授会 学校教育法第93条に規定されている学部の学生の入学、卒業、学位の授与について、学長が決定を行うにあたり意見を述べる機関ならびに学部の教育研究に関する事項について、審議及び学長の求めに応じて意見を述べる機関として設置し、学長及び専任の教授で構成する。また、構成員以外の出席者として、事務局長及び各課の課長相当者が陪席する。開催は原則月1回とする。</p> <p>(3) 運営会議 学長のもとに大学の教育・研究及び管理・運営を円滑に行うことを目的に、管理運営上必要な事項、教授会へ付議する案件等を協議する機関として設置し、学長、学部長、図書館長、教務部長、学生部長、学科長、事務局長、各課課長、学長が必要と認めた者として法人本部長で構成する。開催は原則月1回とする。</p> <p>2) 事務局3課（総務課、学務課、進路支援課）の安定した運営体制および各課の連携体制を継続して構築する。</p> <p>3) 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策を行い、学生の学修環境及び職場環境を整えとともに、感染状況を注視しながら、危機管理委員会との連携を図る。</p> <p>4) 大学院の設置準備については、6名の大学院設置準備室の構成員を中心に2022年3月に文部科学省に提出する申請書類の作成業務を行う。</p>
<p>活 動 内 容 (Do)</p>	<p>1) 評議会、教授会及び運営会議について</p> <p>(1) 評議会 大学評議会規程に基づき2021年度は定例で11回開催し、必要に応じての臨時の評議会を3回開催した。2022年に入って開催された評議会は交通事情等を考慮し、学園副理事長が出席しやすいようにリモート開催とした。また、評議会の運営については、学園監事及び学園監査室長の学外委員（以下「学外委員」という。）による2021年度学</p>

	<p>長の業務執行状況に係る調査（以下「業務調査」という。）が実施された。</p> <p>(2) 教授会 大学教授会規程に基づき 2021 年度は定例で 11 回開催し、必要に応じて臨時の教授会を 10 回開催した。2021 年度教授会より、議案書は従来の紙媒体の配布から、電子媒体での供給となった。また、教授会の運営については、学外委員による業務調査が実施された。</p> <p>(3) 運営会議 大学運営会議規程に基づき 2021 年度は定例で 11 回開催された。運営会議は協議機関として、教授会に提案・報告される議案の調整と運営会議のみで協議される事項に分けて運営されている。また、従来より運営会議の会議時間の短縮化が問題となっていたが、1 回当たりの平均会議時間は概ね 60 分程度となった。</p> <p>2) 大学事務分掌規程に基づき、3 課体制として安定した事務局を構築するために、25 名体制とした。25 名体制の中には、臨時的な体制として大学院設置準備室 1 名、参与（11 月以降は顧問）1 名が配置された。25 名の専任と非専任の割合は 6 : 4 となった。</p> <p>3) 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策については、危機管理委員会と連携を図り、2020 年度から実施している学生玄関への非接触型熱感知カメラの設置、学内各所への手指消毒用のアルコールの設置、講義机へのシールドの設置を継続した。また、新型コロナワクチンの大学拠点（職域）接種を学生、教職員、地域住民を対象に 8 月 14・15 日、9 月 11・12 日の 2 回実施した。</p> <p>4) 文部科学省への大学院の申請書類は、主に基本計画、教育課程の編成、授業科目の概要、設置の趣旨、学生確保の見通し、教員配置、教員の資格審査から成り立っており、大学院設置準備室の構成員がそれぞれ役割分担のもと受け持ち業務を行った。大学院設置準備室の会議は 34 回開催された。</p>
<p>活動内容の評価 (Check)</p>	<p>1) 評議会、教授会及び運営会議について (1) 評議会は 14 回開催し、一部リモートでの実施を含め、円滑に審議及び報告が行われたこと、学外委員による業務調査で適正に運営されていることの報告があったことは評価できる。 (2) 教授会は 21 回開催し、円滑に審議及び報告が行われたこと、学外委員による業務調査で適正に運営されていることの報告があったことは評価できる。また、省エネの意識醸成の観点から、議案書を紙媒体の配布から、電子媒体への供給に変更したことも評価できる。 しかし、学外委員による業務調査で指摘されているとおり、定例開催以外に、必要に応じて臨時の教授会が 10 回開催されており、効率的な議案の審議及び報告が行われたのかどうかの検証は必要となった。 (3) 運営会議は 11 回され、協議機関としての役割を果たしたこと、会議の効率化を図るために学長、学部長、事務局が事前に議案整理の打合せを行ったことにより、会議時間の短縮化が図られたことは評価できる。</p> <p>2) 大学の事務局の 3 課体制は、安定した運営体制を維持した。しかし、特に教務事務において、新型コロナウイルス感染症の感染者拡大により、対面授業から遠隔授業への切り替え等業務の煩雑さを伴った。</p> <p>3) 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策については、出来る限り実施したことは評価できる。また、学生、教職員、地域住民を対象とした新型コロナワクチンの大学拠点（職域）接種は、株式会社サンセザール及び教職員の協力のもと、約 1,000 回弱の接種ができたことは評価できる。</p> <p>4) 文部科学省への大学院の設置認可申請は、大学院設置準備室が中心となり申請書類を作成し、3 月 18 日に文部科学省大学設置室に認可申請</p>

	<p>を行ったこと、また、寄附行為の認可申請においても、事務局が中心となり申請書類を作成し、3月15日に文部科学省私学行政課に認可申請を行ったことは評価できる。</p>
<p>次年度への課題・改善方策 (Action)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) 教授会、評議会については学校教育法の趣旨に則り、円滑な運営を継続していく必要がある。また、教授会においては、学外委員の業務調査で指摘された効率的な開催（臨時の開催回数の削減）を実践する必要がある。 2) 大学事務局の3課体制での安定的な事務運営を継続するとともに、新型コロナウイルス感染症での授業方法の変更について、遅滞なく対応できる体制作りが必要となる。また、大学院が設置された後の事務局体制も継続して検討する必要がある。 3) 第3回目の新型コロナワクチンの大学拠点（職域）接種の実施が予想される。接種の対象者は学生（本学及び専門学校）、教職員、地域住民となるが、感染による重症化予防及び地域貢献の観点から遅滞なく進める必要がある。 4) 大学院設置認可に向けた文部科学省からの補正申請等に遅滞なく、対応する必要がある。 5) 学内の諸課題解決のための迅速な対応を図るために、学長、学部長、学科長、事務局長等の情報共有、更なる教職協働体制の確立が必要である。

2021 年度 委員会等活動報告書

委員会等	連携協定推進プロジェクト
作成者	久保 ちづる

項 目	内 容
<p>【前年度】 次年度への 課題・改善方策 (Problem)</p>	<p>1) 学生がスポーツ栄養の分野におけるより充実した学びが得られるよう、新型コロナウイルス感染症が収束後お弁当調理協力以外でトップ選手と学生が関わることができる場（食事管理講習会など）を増やしてゆくことが必要である。</p> <p>2) より多くの学生がU15 へのサポート活動に参加できるように、栄養講座の実施などについて周知方法を改善していく必要がある。</p> <p>3) 次年度以降も論文投稿・学術発表ができるよう、今後もデータを収集・蓄積しスポーツ栄養の実践に役立つ知識・技術を今後の指導に役立つ仕組みを残してゆくことが必要である。</p>

項 目	内 容
<p>今年度の活動計画 (目標・課題) (Plan)</p>	<p>1) トップチームへのケータリング協力(今年度は新型コロナウイルス感染症予防からお弁当協力)以外のレバンガ TOP チームへの栄養サポートは新型コロナウイルス感染症予防のため制限が多く対面での関わりが一切禁止のため、学生が関わることが可能と思われる実現可能な活動を実施する。</p> <p>(1) 試合後のお弁当提供の実施に伴う協力。 (2) 栄養講座(オンラインセミナー)の実施。 (3) 定期的な体組成の測定と栄養相談の実施。</p> <p>2) レバンガU15チームへの栄養サポート活動予定を本プロジェクト栄養サポートチームメンバー(教員)が1、2年次生を中心に授業後等に情報提供し希望者を募るなどを行う。また、これまでと同様にスポーツ栄養サークルへの協力を依頼する。</p> <p>3) 学会での成果発表のためのデータ収集として BDHQ 食事調査、体組成測定、生活アンケートの実施を継続し、これまで3年間の研究実績をさらに発展させ、学会での発表を行う。</p> <p>4) 昨年度、豊生会と吉田学園との連携協定が締結され、本年度より本プロジェクトの活動は豊生会チームと栄養サポートチームに分けて担当を決め、活動を行うこととなった。両チームでのミーティングで情報交換を行う。豊生会チームの活動として、多岐にわたる豊生会グループの業務形態・内容を理解し、協定書の内容をもとに連携し活動することで地域の保健医療福祉の課題に適切に対応し地域社会の発展に寄与すると同時に、本学学生の教育に生かしてゆく方法を探ることとし、豊生会と双方で話し合いを行い、実施可能な連携協力の計画を作成する。</p>
<p>活 動 内 容 (Do)</p>	<p>1) トップチームへの栄養サポートとして実施した活動は以下のとおりである。</p> <p>(1) 試合後のお弁当提供への協力を学生とともにいった(10~3月、15回)。</p> <p>(2) 栄養講座(オンラインセミナー)として9月にハウスウェルネスフーズと共同で教員による「乳酸菌講座」を行ったが、夏休み期間であったため学生への周知が十分にできず学生の参加はなかった。</p> <p>(3) 体組成の測定は練習場にて実施し、結果に基づき当日中にフィードバックを行った(月1回)が、レバンガチームの感染予防規則に則り学生の参加は認められなかった。</p>

	<p>2) レバンガ U15 チームのサポート活動として、スポーツ栄養チームメンバー(教員)の呼びかけに応じた学生と共に身長測定や栄養講座を行った。保護者への栄養相談に関しては、毎月 1~5 名程度の保護者との面談を行った(月 1 回)が、夜間 19 時~21 時の間であるため学生の参加の調整はできなかった。栄養講座については、11 月にスポーツ栄養サークルの学生が中心となり「補食」をテーマに「マグカップオムライス」を作る実習と、教員による講義を行った。</p> <p>3) 学会での成果発表のためのデータ収集として U15 チームの BDHQ 食事調査 2 回(4 月、3 月)、体組成測定 4 回(4 月、8 月、12 月、3 月)、生活アンケート 2 回(4 月、3 月)をこれまでと同様に継続し実施したが、食事管理講習会やその他の活動はコロナ禍で実際の活動に制限がかかり、研究発表には至らなかった。</p> <p>4) 連携協定の内容に基づき、豊生会チーム内で推進プロジェクトの在り方を検討し、中長期発展の方向性を調査することとした。また、地域的に比較的近い豊生会グループの一組織である「次世代型デイトレセンター エルパサ」及び「NPO 法人ニルスの会」にスポットをあて、7 月、12 月に話し合いを行い、施設の状況、活動内容、方向性等の調査を実施した。地域連携推進 PJ 全体ミーティングを 6 月と 2 月の 2 回行った。</p>
<p>活動内容の評価 (Check)</p>	<p>1) TOP チームへの栄養サポート活動についての評価は以下の通りである。</p> <p>(1) お弁当提供においては昨年度よりも参加する学生が多く、メニューの提案やメッセージシールの作成等を通して学生の活動を充実させることが出来た。</p> <p>(2) オンラインでの栄養講座は実施したが、学生の参加は実現できなかった。</p> <p>(3) 体組成の測定、フィードバックは実施できたが、学生と共に行うことはできなかった。</p> <p>2) U15 へのサポートに関しては、活動予定を本プロジェクト栄養サポートチームメンバーが学生に呼び掛けることで、感染拡大が落ち着いたタイミングで栄養講座や身体計測等の学生を交えた活動を行うことが出来た。</p> <p>3) コロナ禍で実際の活動に制限がかかり、研究発表には至らなかった。</p> <p>4) コロナ禍で豊生会とは 2 回のみ話し合い及び調査となったが、連携協定を推進するための方向性を見いだすことが出来た。(資料：医療法人社団豊生会との連携協定による推進プロジェクト調査結果)</p>
<p>次年度への課題・改善方策 (Action)</p>	<p>1) 授業関連以外の活動について予算処置がなくプロジェクトとしての活動に制限がかかるため、プロジェクトとしての予算を確保する。</p> <p>2) 毎年メンバーが交代する中で継続的な活動を行うために事務局スタッフの担当者を配置してもらう。</p> <p>3) トップチームとの関わりは学生の学びの充実や活動への満足度に繋がるものと考えられるため、今後もトップチームのサポートに学生が参加できるようにしていく。また、感染拡大が落ち着いた際には学生が選手から直接話しを聞くことの出来る機会をつくる必要がある。</p> <p>4) U15 のサポートに関しては本学が練習場であり学生が関わり易い環境ではあるが、練習時間が遅い時間帯であるため、学生の関わり方について検討が必要である。</p> <p>5) 今年度から栄養サポートを開始した U18 に関しては、練習場が恵庭の北海道文教大学付属高校体育館と遠方であり、現地での指導等は難しい状況である。リモートによる栄養講座、栄養指導などの実施や定期的な体組成の測定や寮の食事の改善など必要なサポートはチームと調整・協力をを行い実施する工夫が必要である。</p> <p>6) 論文投稿・学術発表ができるよう、今後もデータを収集・蓄積しスポーツ栄養の実践に役立つ知識・技術を今後の指導に役立つ仕組みを残してゆく必要がある。</p>

	<p>7) 健康寿命延伸に向けた Lpasa (エルパサ・次世代型デイトレセンター) との協働による栄養・評価のサポート及びフレイルに対するサポートを推進する。</p> <p>8) NPO 法人ニルスの会が対象としている地域に対する情報誌の作成などを行う。</p>
--	--

医療法人社団豊生会との連携協定による推進プロジェクト

1 目的（協定書より）

本協定は、甲（医療法人社団豊生会）が有する医療・介護・福祉機能及び医療専門職者を養成する教育機能を包括的な連携のもと、相互に活用することにより地域の保健医療福祉の課題に適切に対応し、地域社会の発展に寄与することを目的とする。

2 連携事項（協定書より）

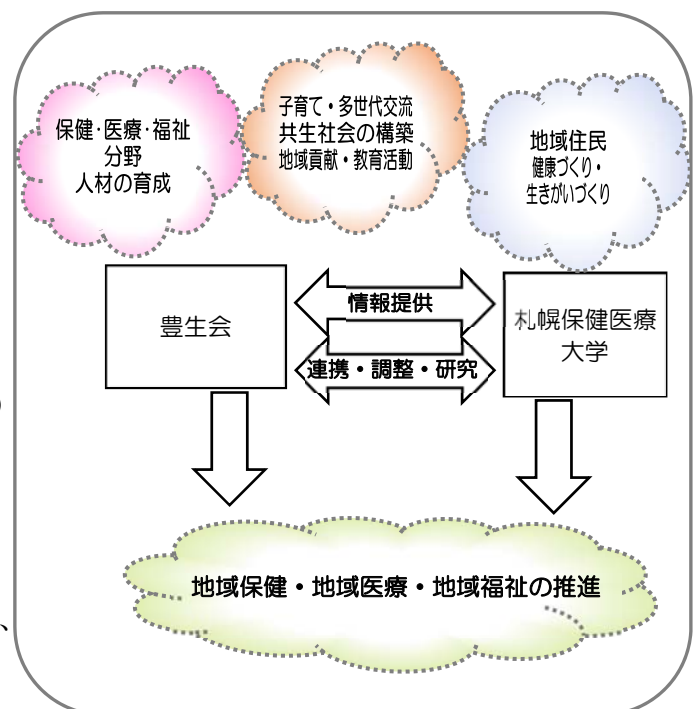
次に掲げる事項について連携し、実施する。

- 1) 地域住民の健康づくり、生きがいづくりの企画・運営に関する事項
- 2) 子育てや多世代交流の企画・運営に関する事項
- 3) 共生社会の構築に関する事項
- 4) 地域貢献事業及び教育活動事業に対する人材の相互派遣
- 5) 保健医療福祉分野、医学分野での共同研究
- 6) 保健医療福祉分野における医療・福祉人材の育成に関する事項
- 7) その他甲及び乙（学校法人吉田学園）の協議により必要と認められる事項

3 豊成会グループ

豊成会グループは、以下で構成されている。

- ・医療法人社団豊生会
（東苗穂病院、地域医療連携支援センター夕張市立診療所・介護老人保健施設夕張）
- ・有限会社おいらく
（CoCo輝楽、エルパサなど）
- ・社会福祉法人豊生会
（特別養護老人ホームひかりの、ひかりの保育園）
- ・非営利法人ニルス会の
（地域食堂ひかりの、地域食堂、ふらっとステーション、ニルスファーム
D.Factory(就労継続支援B型事業所)、生活支援事業、多世代共生型地域福祉拠点事業）



4 推進プロジェクトの積極的な取り組み

この度の連携協定に基づき、豊成会グループとの相互の取り組みについて次のとおり考える。

◎ Lpasa（エルパサ・次世代型デイトレセンター）

利用者の年齢・病気・介護度など様々に蓄積されたデータから、介護度を改善した方々が行った運

動療法などのデータを照合して、その結果を分析し、個々に最適な療法の組合せを提案するとされている。

*リハビリメニューを「8つのカテゴリー」に分類し、ベストな組み合わせ、割合を提案するとされている。

筋力トレーニング	転倒予防体操 足腰楽々体操	認知トレーニング	手芸、書道、麻雀 囲碁、将棋
有酸素運動	エアロビクス トレッドミル	ストレッチ	メドマー、ヨガ、手あんま ほぐし、ストレッチ体操
スポーツ	ダーツ、スポーツ吹矢 フロアーカーリング シミュレーションゴルフ	栄養管理	口腔ケア、嚥下体操 栄養セミナー、個別栄養相談
血圧管理	バイタルチェック	日常生活	入浴、パン教室、料理教室 買い物リハビリ

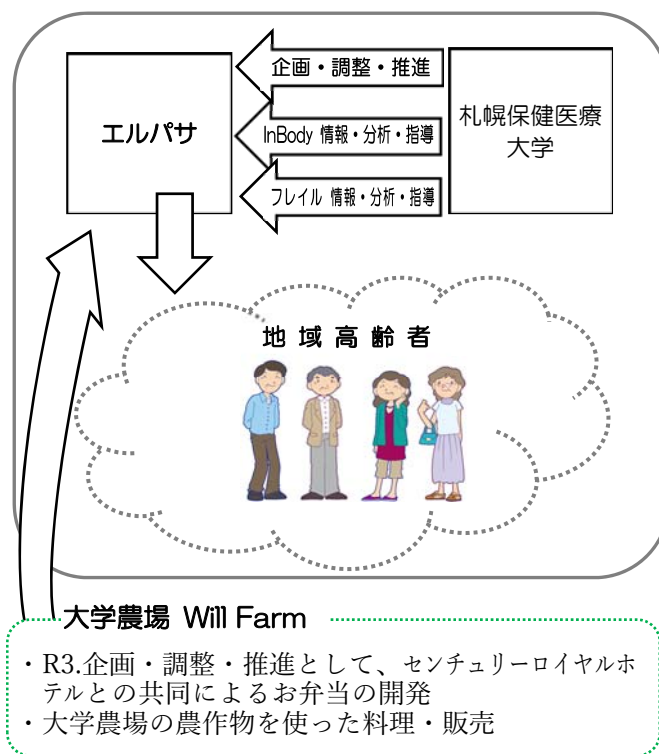
〈課題・提案〉

健康寿命の延伸に向けて、エルパサと札幌保健医療大学が協働で行う。

* 豊生会 Lpasa (エルパサ) のパンフレットに「ICTリハ」を導入されている項目があげられている。

- ・筋肉トレーニング・認知トレーニング・有酸素運動・ストレッチ・スポーツ・栄養管理・血圧管理・日常生活があげられている。さらにInBodyが完備され、定期的に測定し自身の身体の状態を把握できるようになっている。InBodyは体重、骨格筋肉量、体脂肪量、体脂肪率、体水分量等が測定され、特に骨格筋肉量は上肢、下肢の筋肉量も部位別に測定結果が表される。それをもとに基礎代謝量も把握できることから、現状の栄養状態の評価が可能である。

今回、施設訪問を通し、このInBodyが十分に活用されていないことがわかった。



○ InBody を活用し、評価に結び付けた場合につながるサポートケア

- ・現状を知ることができる (栄養アセスメント)
自分自身がどのような栄養状態であるか把握できる。(年齢、男女別に基準とした体重、骨格筋肉量、体脂肪量、体脂肪率の評価)
- ・簡単な食事摂取量の評価より、身体計測結果との関連を評価できる。

- ・運動（活動量）もしくは食事摂取量の問題点を見つけることができる。
- ・評価をもとに、ADL の低下予防や ADL のさらなる向上を目的に効果的な運動、効果的な食事摂取を具体的に示し、次の行動を促すことができる。（骨格筋肉量の部位別の計測結果より評価）

○ 利用者の方々への栄養サポート（臨床栄養学的見地）

- ・具体的に栄養状態をビジュアル化し、自身の活動の目安としていただけるようにする。
- ・今食べている食事を大きく変えることなく、利用できるもので具体的な栄養サポートができる。
- ・次の InBody の計測によりその効果や次の目安がわかるようになる。結果、身体を健康に保つやりがいにつながる。

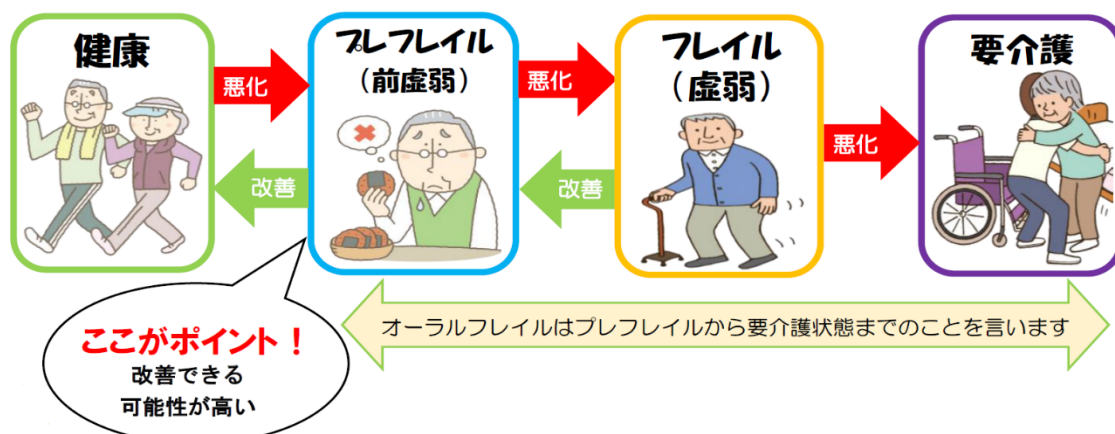
○ その他

食事量の低下より、貧血や、食欲に関する便通のコントロール（便秘や下痢）の食のサポート。体水分量の評価による脱水予防もサポートができる。

○ フレイルに対するサポート

〈課題・提案〉

- ・通所している高齢者は健康な状態と日常生活でサポートが必要な介護状態の間であり、この状態は「フレイル」と考えられる。フレイルは、体重減少や筋力低下などの身体的な変化だけでなく、気力の低下などの精神的な変化が生じる。しかし、早期に対応することで、要介護状態に至る期間を遅らせる可能性がある。
- ・新型コロナウイルス感染の拡大による行動自粛、加齢に伴う行動減少、独居などの生活環境などから、認知症やフレイルによるうつ症状、意欲低下、不安が増加する傾向にある。特に、栄養状態の低下の背景に、そのような精神的疾患が隠れている可能性もある。
- ・「日常生活の状況」（後期高齢者に対する質問票）と「あなたの気分についてのおたずね」（WHO-5 精神的健康状態表）の質問紙を用いて健康状態を評価することにより、高齢者自身のフレイルに対する関心を高め、生活改善を促すことが期待される。
- ・定期的に歯磨きの状況を確認し（染め出し粉を使用し、磨き残しやすい部分を確認する、義歯の場合も同様）、口腔機能を維持するための歯磨き方法を身に付けることにより、自らの口腔機能に対する関心を高め、口腔機能の維持が期待される。



◎ 非営利法人ニルスの会

地域住民及び保健・医療・福祉などに関わる全ての関係者と協働で、保健、医療又は福祉の増進を図る活動などに関する事業を行い、地域の高齢者や障がいを持った人たち等が、住み慣れた地域で安心して住み続けられるために地域包括ケアの実現に寄与することを目的としており、以下の事業について札幌市東区を中心に行っている。

- 1) 福祉事業
- 2) 地域支援事業（考流学舎、コミュニティーサロン等の企画運営）
- 3) 高齢者向け住宅の管理・運営事業
- 4) 人材育成
- 5) 札幌市東区東部地区在宅医療連携拠点事業（タッピーねっと）支援
- 6) ワクワク広場・健康教室・よろず相談等に関する企画運営事業
- 7) 道路運送法に基づく一般常用旅客自動車運送事業（福祉輸送事業）
- 8) 医療・福祉施設等に関する情報の収集・発信事業
- 9) 介護保険法に基づく居宅サービス事業、地域密着型介護予防サービス事業、居宅介護支援事業所、介護予防サービス事業及び地域密着型介護予防サービス事業
- 10) 障害者、高齢者、受刑修了者等に対する就業支援事業
- 11) 医薬品、介護用品・医療器具などの企画・販売事業
- 12) 介護保険法に基づく介護予防・日常生活支援総合事業
- 13) 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づく障害福祉サービス
- 14) 食品衛生法に基づく企画・運営事業
- 15) その他
- 16) 駐車場その他不動産の管理・運営事業
- 17) 自動車特定整備事業

〈課題・提案〉（区統計データ/札幌市）

- ・東区は、出生数（1,899名 令和元年）や保育所の入所児童数（3,392名 令和2年）が全区中最も多いことから、働きながら子育てをしている家庭が多いことが予測される。
- ・児童扶養手当（一人親家庭に支給 令和2年4月）を全区中最も多い世帯（3,060世帯）が受給していることから、一人親家庭が多いことが予測される。
- ・生活保護の被保護世帯（9,419世帯 構成比 17%、保護率73%）、生活保護行政区別支出額（いずれも令和元年）が全区中最も多く、生活に困窮する世帯が多い傾向にある。
- ・小学校児童生徒数は平成28年度（いずれも5月1日現在）11,889名→平成29年度12,006名→平成30年度12,156名と増加していたが、令和元年12,087名と減少した。中学校児童生徒数は平成28年度（いずれも5月1日現在）5,862名→平成29年度5,697名→平成30年度5,494名→令和元年5,433名と減少傾向にある。

以上から、一人親世帯や共働きをしながら子育てをしている家庭が多いことが予測される。しかし、東区全体での指標であり、ニルスの会の周辺地区の状況は明確ではない。

また、児童生徒の数は減少傾向にあるので、現在保育所等に入所している乳幼児を持つ家庭に対する支援を検討してはどうか。

(「区」は東区全体、「地区」はNPO 法人ニルスの会が対象をしている地域)

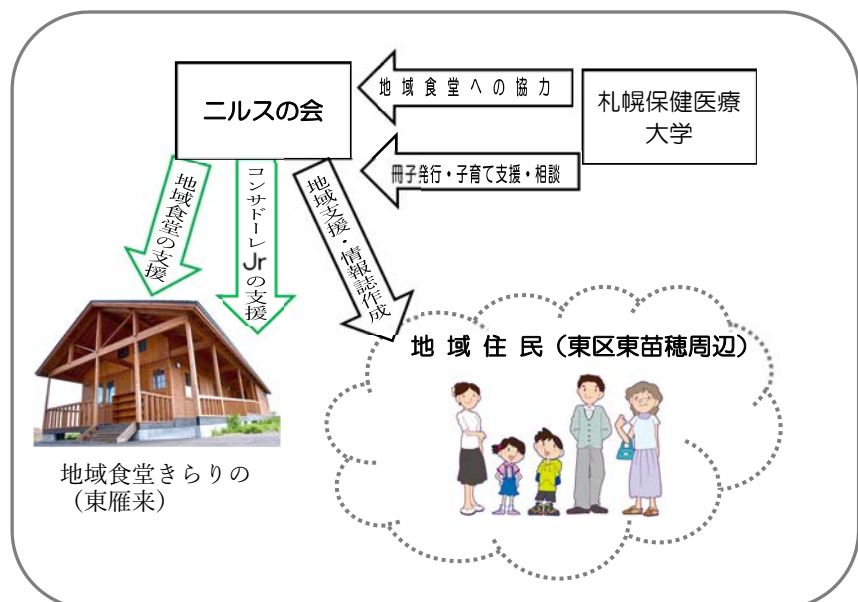
- ・当大学生が地域の高齢者や母子に接する機会として、このPJ活動は有効であるとする。
- しかし、自ら積極的にボランティア活動に参加する学生が少ない現状にある。
- ・学生が地域住民と接する機会があることは、保健医療の専門職の基盤づくりができる。
(コミュニケーション、生活者の視点、継続的な支援等)

〈対 策〉

- ・乳幼児を持つ家庭の実態把握(アンケート調査等)をすることで、地区の母子が持つ課題をより明確にし、ニーズにあった支援を展開することが期待される。
- ・乳幼児を持つ家庭に向けた情報誌の作成と配布を定期的(四半期に1回「ニルカジ」として発行)を行うことで、法人や大学の存在を身近に感じてもらうことができ、地区の母子との関係づくりにつながることを期待される。
- ・認知症サポーター養成講座(講師派遣)
本学1年次生を対象に、認知症サポーター養成講座を開催し、高齢者のボランティアに興味関心のある学生を発掘し、各種事業への参加を促す(この講座は、本学の「特別総合科目」に位置づける)。

※認知症サポーター養成講座については、下記を参照。

チラシ：[札幌市認知症サポーター養成講座チラシ \(PDF : 529KB\)](#)



2021 年度 委員会等活動報告書

委員会等	ホームページ部会
作成者	松川 典子

項 目	内 容
【前年度】 次年度への 課題・改善方策 (Problem)	1) ホームページの管理・運営について安全性・信頼性を確保するため、業務手順要領に則り、情報の新規掲載・適宜更新、掲載情報の内容や掲載時期に一層留意しながら業務を継続・遂行すること。 2) 最新情報の更新に向けて、記事の依頼や掲載の遅れがないよう各委員会の委員長との連携を強化すること。 3) 入試広報に関連する項目を中心としたコンテンツの充実を図ること。

項 目	内 容
今年度の活動計画 (目標・課題) (Plan)	1) 本学ホームページ管理・運営上の安全性・信頼性を確保する、及び情報の新規掲載・適宜更新する。 2) 記事依頼及び記載漏れがないよう、各委員会の委員長との連携を強化する。 3) 入試広報に関連する項目のコンテンツを充実させる。
活 動 内 容 (Do)	1) 入試広報委員会のもとで作成された業務手順要領、ホームページ更新等に関する手順に基づき運営した。 2) 部会員で業務上の担当を決め、各委員会の委員長と連携を図りながら計画的にホームページの精査し、各委員会の年間計画表に則り最新情報の更新に努めた。 3) 学生の演習や実習の様子を掲載する回数を増やし(前年度0件、今年度9件)、本学のPRに努めた。
活動内容の評価 (Check)	1) ホームページ更新等に関する手順を2か月おきに開催した部会内で都度確認し合うことで、規則に則り適切に運営できた。業務手順要領に関しては、各委員会関連の最新情報は更新できた。 2) 記事の依頼に関して、当初決定した部会員から委員長への依頼連絡ではなく、事務局の委員会担当部署から委員長への連絡が大半となり、後者の方がスムーズであった。 3) 2019年のホームページ改変から3年が経過し、栄養学科のページ閲覧回数増加、安定的な閲覧回数(PV)確保、課外・授業風景掲載要望の増加等の効果が得られた。管理・運営についても軌道に乗ったことから、ホームページ部会としての役割は完了したと判断し、部会は廃止し今後は進路支援課が中心となって管理・運営していく方向となった。
次 年 度 へ の 課題・改善方策 (Action)	1) ホームページ部会は廃止となるが、ホームページの管理・運営は、引き続き安全性・信頼性を確保するため、業務手順要領に則り、情報の新規掲載・適宜更新、掲載情報の内容や掲載時期に留意しながら進路支援課が中心となっていく。 2) 各学科の入試広報委員はホームページに関する要望の窓口となり、進路支援課と連携しながらホームページの管理・運営に関わっていく。

2021 年度 委員会等活動報告書

委員会等	カリキュラム検討委員会
作成者	近藤 明代

項 目	内 容
<p>【前年度】 次年度への 課題・改善方策 (Problem)</p>	<p>1) 2022 年度からの看護学科の新カリキュラム制定のために以下のことを行う。</p> <p>(1) 大学の教育理念、教育目標、各学科の教育目標にそった看護学科のディプロマ・ポリシーを達成するためのカリキュラム（最終案）を関連する各委員会（教務委員会、大学評価委員会等）に諮る。</p> <p>(2) 看護学科の新カリキュラムの運用に向けて、栄養学科との合同科目のシラバスの見直しと調整を行う。</p> <p>2) 現行カリキュラムの運営、点検・評価、改善に係る事項について（必要時）検討する。</p>

項 目	内 容
<p>今年度の活動計画 (目標・課題) (Plan)</p>	<p>1) 2022 年度からの看護学科の新カリキュラム制定に向け、文部科学省に申請し、承認を受けるための準備を行う。</p> <p>(1) 大学の教育理念、教育目標、学科の教育目標にそった看護学科のディプロマ・ポリシーを達成するため、学科のカリキュラム専門部会で検討されるカリキュラムの変更に伴う事項を大学評価委員会に諮りながら当検討会で審議し原案を作成する。そして教務委員会の検討事項として報告する。決定したカリキュラムの変更事項をもとに、申請に必要な書類を作成し、期日までに申請する。</p> <p>(2) 看護学科の新カリキュラムと 2021 年度から開始された栄養学科の新カリキュラムの整合性を踏まえ、見直しや調整が必要な部分の検討を行う。</p> <p>2) 現行カリキュラムの運営、点検・評価、改善が必要な事項が発生した場合は検討する。</p>
<p>活 動 内 容 (Do)</p>	<p>1) 2022 年度からの看護学科の新カリキュラム制定に向け、文部科学省に申請し、承認を受けるための準備を行った。</p> <p>(1) 申請までのスケジュールを確認し、看護学科カリキュラム専門部会で検討された事項を審議し、新カリキュラムの申請に係る準備を行った（その内容は（2）で記述する）。</p> <p>(2) 以下の事項を大学評価委員会に諮り、大学評価委員会の意見をもとに修正し原案を作成し、教務委員会に検討事項として報告した。</p> <p>① 栄養学科の新カリキュラム・ポリシーとの整合性を踏まえた看護学科の新カリキュラム・ポリシー</p> <p>② 新カリキュラムにおける科目の変更点を説明した資料</p> <p>③ 新カリキュラムの科目とディプロマ・ポリシーの対応表</p> <p>(3) 学務課、総務課の協力を得て、7月26日付で北海道保健福祉部地域医療推進局医務薬務課看護政策係に「札幌保健医療大学保健医療学部看護学科（保健師及び看護師学校）の変更承認申請書」（提出事由：保健師助産師看護師学校養成所指定規則の一部改正に伴い、学則の改正（教育課程の変更）を行うため）を提出した。</p> <p>(4) 11月1日付で、文部科学省高等教育局医学教育課看護教育係より疑義照会があり、該当事項について看護学科カリキュラム専門部会を通し担当領域の協力を得ながら期限内に回答を提出した。その内容は以下のとおりである。</p>

	<p>①疑義：母子看護実習Ⅰの4日目の学内での課題学習は実習に関する課題であるか否かの確認があった。対応として実習日数を延長し、実習の対象であることを明確に表現した。</p> <p>②修正：外来看護実習の日数が少なく目標と内容の一致についての見直しを求められた。実習の日数を延長し、実践を意識した内容に修正し対応した。</p> <p>③修正：教務に関する主任者の氏名において、保健師学校の主任者の氏名の変更が求められ、修正を行った。</p> <p>(5)令和4(2022)年3月2日に北海道保健福祉部より、令和4(2022)年2月15日付で文部科学大臣より本学保健医療学部看護学科の学則(教育課程)の変更について、保健師助産師看護師法施行令第13条第1項の規定により承認されたとの報告を受けた。</p> <p>2) 栄養学科の新カリキュラム・ポリシーに合わせ、看護学科の新カリキュラム・ポリシー案を検討したが、大学評価委員会から表現について修正の意見があった。その意見を基に、栄養学科のカリキュラム・ポリシーの表現も一部修正し、大学評価委員会に諮り、修正案を教務委員会に提出し、審議を求めた。</p> <p>3) 現行カリキュラムの運営、点検・評価、改善に係る検討事項の提示はなかった。</p>
<p>活動内容の評価 (Check)</p>	<p>1) カリキュラムの変更に関する申請を期限内に提出できたが、疑義照会があり、その対応が求められた。その内容から申請書類を提出前に詳細に確認する必要があったと考える。11月1日に文部科学省から疑義照会があり、その回答期限が11月12日であったが、看護学科カリキュラム専門部会、担当領域の迅速な対応により回答することができた。その結果、2月15日付に文部科学省から承認を受けることができ、2022年度からは新カリキュラムにおける看護教育を開始できることになった。</p> <p>2) 栄養学科のカリキュラム・ポリシーは1年で修正をすることになったが、両学科の合同科目や共通科目を意識し、各学科の特徴を示す新カリキュラム・ポリシーを作成することができた。</p> <p>3) 現行カリキュラムの問題点、特に実習の実施時期に関する部分は新カリキュラムに反映された。</p>
<p>次年度への 課題・改善方策 (Action)</p>	<p>1) 現行カリキュラムにおける課題、改善に係る事項について、必要時検討する。</p> <p>2) 両学科の新カリキュラムの進行に伴い、両学科のカリキュラム専門部会の意見を踏まえながら、検討する必要がある課題に対しては、対応を検討し、大学評価委員会の意見を受けながら、教務委員会に審議事項として提案していく。</p>

2021 年度 委員会等活動報告書

委員会等	公的研究費等不正防止委員会
作成者	小島 康次

項 目	内 容
【前年度】 次年度への 課題・改善方策 (Problem)	1) 公的研究費等の不正防止を推進するための内部監査（年1回）を継続して実施する。 2) 不正防止の観点から、必要に応じて主たる納入業者から誓約書を取得する。 3) 不正防止啓発のため研修会等の実施を継続する。

項 目	内 容
今年度の活動計画 (目標・課題) (Plan)	1) 公的研究費等の不正防止を推進するため委員長が指名した教職員による内部監査を実施する。 2) 不正防止の観点から主たる納入業者から誓約書を取得する。 3) 不正防止のための研修会等を開催する。
活 動 内 容 (Do)	1) 公的研究費等の運用について、2020年度科学研究費12件を対象とした内部監査を2021年11月5日に実施した。委員長の指名により監査人は法人監査室 久保田康裕次長補佐が務めた。監査の結果、申請書類、証憑等は概ね整備されているが、申請書類の記載内容に不備が散見されたとの指摘があり、該当書類の修正、再点検を実施した。 2) 公的研究費等で購入する物品等の納入業者からの誓約書は、文部科学省に提出する『「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン（実施基準）」に基づく「体制整備自己評価チェックリスト」』により隔年1回の提出を定めている。今年度は、継続納入業者（7件）は2020年度に取得済みのため、新規納入業者（2件）に対し誓約書の提出を求めた。 3) 第2回学術セミナー（オンデマンド開催、配信期間8月27日～9月6日）において、不正防止に関する内容を含めた科研費の申請に関する研修を総務課と共催で実施した。
活動内容の評価 (Check)	1) 公的研究費等として科研費12件を対象とした内部監査を実施、申請書類、証憑等は概ね整備されていると評価されたことは評価できる。しかし、一部の申請書類に不備があり、監査人から「関係書類の適切な管理及びチェック体制の見直し」を指摘されたことは、今後の課題となった。 2) 物品等の新規納入業者（2件）から誓約書を取得したことは評価できる。 3) 公的研究費等の不正防止に関する研修を開催したことは評価できる。（視聴人数40人）
次 年 度 へ の 課題・改善方策 (Action)	1) 公的研究費等の不正防止を推進するため、年1回の内部監査を継続して実施する。監査指摘事項（関係書類の適切な管理及びチェック体制の見直し）について、改善を図るよう関係部署等に働きかける。 2) 不正防止の観点から必要に応じて主たる納入業者から誓約書を取得する。 3) 不正防止啓発のため研修会等の実施を継続する。

編集後記

2021年度自己点検・評価報告書が完成しました。昨年度と同様、本報告書は、大学運営に関わる2委員会（危機管理委員会、大学評価委員会）、入学試験・広報委員会など常設14委員会、そして学科学年担任などの16部署の合計32組織の活動について点検・評価した結果を報告書としてまとめたものです。

今後、予定されている外部認証評価受審に備え、基礎データの提出、内容への記載をお願いした点は一昨年、昨年を踏襲し、記載方法についてもその点に配慮して、より具体的な例示とともに当委員会から報告書作成作業を依頼させていただきましたが、次年度以降も報告書の充実を目指し、さらなる検討が必要と認識しております。

本報告書作成にご協力いただきました各委員会等の教職員各位に心からお礼申し上げますとともに、本報告書の内容が教職員の皆様に共有され、本学の進化の一助となることを切に願いつつ、編集後記とさせていただきます。

2021年度自己点検・評価委員会
委員長 荒川 義人

2021年度 自己点検・評価委員会
委員長 教授 荒川 義人
委員 教授 所 伸一
教授 佐藤 郁恵
准教授 金高 有里
講師 本吉 明美
事務局長 照井 省吾
(2021.4月～10月)
事務局長 久保 則雄
(2021.11月～)
総務課長 小笠原 稿幸
総務課主任 大友 理佐子

2022年度 自己点検・評価委員会
委員長 教授 荒川 義人
委員 教授 加藤 隆
教授 佐藤 郁恵
准教授 金高 有里
講師 本吉 明美
事務局長 久保 則雄
副事務局長 小野寺 貴洋
総務課長 小笠原 稿幸
総務課主任 大友 理佐子